



伊藤音次郎日記

1932(昭和7)年

文字データ作成: 一般財団法人 日本航空協会 2018(平成30)年6月

* お気づきの点などございましたら、ご教示のほどお願い申し上げます。

一般財団法人日本航空協会

航空遺産継承基金事務局

〒105-0004

東京都港区新橋 1-18-1

電話 03-3502-1207

ファクス 03-3503-1375

電子メール isan@aero.or.jp

禁無断転載 © 一般財団法人日本航空協会

▲▼1ページ▲▼ 前年ヨリ繰越事項

- 一 信用ノ回復
 - 二 旧責(ママ)ノ整理
 - 三 新機ノ製作 グライダーノ大量生産計畫
- ライトプレーンクラブノ発展記録ノ作製

▲▼2ページ▲▼ 昭和七年要記

新機ノ製作
グライダー大量生産ト販賣
航空タクシーノ実現

▲▼3ページ▲▼ 1月

- 一 アンゼニー拂下願書提出ノコト
- 二 工場取引方針決定ノコト
- 三 グライダー販路確定ノコト
- 四 グライダー設計圖集メルコト

▲▼4ページ▲▼ 昭和7(1932)年1月1日(金)

天気 晴

初日ノ出ハ雲多ク見ラレナカッタ 八時起床 場員ノ祝賀ヲ受ケ小供写真ヲ写シタリ
ノンキニスゴス 金六ナカッタガ割合ニノンビリシタ春ヲ迎エルコトガ出来タ
十二時十五分安岡操縦門松同乗出發 四時帰場シタ ヒゲタ醬油ノ広告成績ヨカッ
タ。カナリ寒ソウデアッタノデカキ鍋デ一所ニ食事ヲス

▲▼5ページ▲▼ 昭和7(1932)年1月2日(土)

天気 雨後晴

東亜六朝ノ汐デ初飛行ノ準備ヲシテ居タガ雨ノ爲メ中止 晝頃ヨリカラリトヨイ天気
ニナッタ 午後飛ンデ居タ

正木、兄、今村外海野、朝吹暮ニ送金出来ナカッタ處ヤ其他ニ挨拶状ヲ出ス

兄カラ手紙來 百円デ墓ノ費用ニシタラシイノデ正木ニハ全然送ラナカッタ様ニ手紙出
シテ今月中待ツテ貰フ様ニス

鳥二羽ヲ料理シテ夜門松ヤ角、上野、其他ト食事ヲ共ニス

▲▼6ページ▲▼ 昭和7(1932)年1月3日(日)

天気 晴

ホガラカナ新春 清平帰京ス 信太郎同行ス

今日ハ写真デート云ツテヨイ位ヒ小供ヤ近所ノモノヲ写シテヤル

晝頃サンパツヲナス

夜花ヲナシ途中カラ先キニ眠ル

上野ヲ工場ノ取締リトスルコトヲ考慮ス

▲▼7ページ▲▼ 昭和7(1932)年1月4日(月)

天気 晴

作業初メトクラブ創立記念日ヲ兼ネテ昨年来行(ママ)中行事ト定メ晝三十銭ノ折詰
デ工場内ニ新年会ヲ開ク

朝クラブノ初練習アリ 新入山本氏アリ 平松氏來 汐ガ早く上ゲテ來ルノデ心配シ
タガ十年式間ニ合テ初飛行ス。何ニ方知ラ本年ハヨサソウナ氣ガスル

鈴木ニ本年内容充実ノ件ヲ話シ金ノ回収ニ特ニ注意スルコトトス

奈良原氏児玉氏モ來 大口君ノ久シ振リニ浪速ブシ其他アリ愉快ニ終ル アト写真ノ
カワイイタノヲ焼付ヲナス。

信太郎夕方帰ル

早朝上野ヲ工場組立部ノ場長トスルコトヲ本人ヲ呼ビ話シス 発明事ハ打切ツテ大ニツ
クスコト 南洋行キノ本人希望ハ自然遠ザカルオト思ワル

▲▼8ページ▲▼ 昭和7(1932)年1月5日(火)

天気 晴

今日モウララカナ春日和。工場作業場ノ整理 不用木工機械ヲ方付ケル

門松十年式初操縦二回

作業会社ヨリ奥山君來 サルノワイヤー頼マレスグ着手ス

クラブノ昨年下半期決算ヲ行フ 三時終ル アト清書ヲ鈴木ニマカセ写真ヲ焼付ヲナス
鈴木ニ第一飛行學校熊倉君遠藤氏、へ手紙ヲ出サセル

▲▼9ページ▲▼ 昭和7(1932)年1月6日(水)

天気 晴

工場ノ帳簿ヲ新ラシクスル爲メ古イ方ノ整理ヲナス 新ラタニ対(ママ)借対照表ヲ作製
ス

平松氏十年式拡張ト同時ニ豊田君水上ノ拡張ヲ取ラセルコトトス

▲▼10ページ▲▼ 昭和7(1932)年1月7日(木)

天気 晴

ライジンクサン手形ニセヨトノコトニ持タセテヤツタ處三枚ニシテ呉レトノコトニテ第一回
式百円一月十五日 第二回一月卅日 第三回ヲ二月十五日トスルコトニ決定 本日
第一回分ダケ渡シ明日アトニ枚送ルコトトス 明日ガソリンハ發送スル由

佐野利一來 十日ニ金ガ入ルトノコトデアッタノデ百円ダケ都合スルコトヲ約ス。ソレ迄
ニ弘益社ノ方が取レル見込ナノデ

平松氏本日單獨飛行ヲ行フ

エミ子海浜學校へ行キタガラナイノデコトワリ状ト荷物ヲ送ツテ貰フコト手紙ヲ出ス

▲▼11ページ▲▼ 昭和7(1932)年1月8日(金)

天気 晴

鈴木ヲ第一航空ニヤリ十五日ノ二百円ニ間ニ合フ様話シサセタガタヨリナカッタ 川辺
ニモ幾分出來ル様話サセタガ之レハ又全然アテニナラナイ 但シツクルトハ云ツテ居ルソ
ウダカ

▲▼12ページ▲▼ 昭和7(1932)年1月9日(土)

天気 晴

アタタカイ日

海浜學校々長ガ明朝七時五十二分デ津田沼駅ヲ通ルカラ會ヒタイトノコト。エミ子入
學ヲ進メルモノト思ツタガ明日ハ自分ハ代々木へ 家内ハ清平へ早く出ナケレバナラナイ
用事カラアルノデ石川トエミ子ヲヤルコトトス

◆▼13ページ◆▼ 昭和7(1932)年1月10日(日)

天気晴

今日カラ少シ寒クナツタ 冬ラシイ寒サ

信太郎ハ寒稽古ノ見学トテ四時二起キテ登校シタ

六時半起床 仕度シ七時恵美子ヲ起シ海浜學校ノ校長ヲ石川ト共ニ駅へ會ニヤル 後ニ聞ケバニ汽車バカリ待ツタガ來ナカッタトノコト 何ソノコト

八時十分前ノ自動車デ家内ト共ニ上京 新宿駅デ清平宅へ行く家内ヲ小田急へ送り原宿ニ行キ先ヅ竹崎ニ會フ 今日五十円呉レトノコトデ飛行館デ會フ約束シテ代々木練兵場ニ行キ愛国號ノ命名式ニ参列 出発後九一式ノ高等飛行ニスカリ感心シテ十一時半終ルヤ明治神宮ニ参拝。今一度代々木デ渡辺一英君ニ會フ 正興館デ代理部引受ルダロウガ懇談シテ見タガ口先キデ氣ノリセズト見テ中止ス 竹崎君ト打合セテ飛行館ニ行キ二時半竹崎來 五十円受取ル 弘益社金十三日トノコトニ佐野ニ行キ右ノコトヲ話シ領収書ヲ渡シテ帰宅 牛肉ヲ買ッテ帰ツタノデ小供ニモ喰セル 家内一時間遅レテ帰ル

◆▼14ページ◆▼ 昭和7(1932)年1月11日(月)

天気晴

早川知安君死亡通知ニ接ス 氏ハ味方トモナリ敵トモナツタ人 然シ死シテ見レバ恩讐一切空。鈴木ニ香奠ヲ持タセ會葬サセル。ツヒデニ長岡外史將軍ノ病氣見舞モヤル

正午過ぎ水野氏來 ヒゲタノ広告写真ヲ取ル

宗里へ十五日ノ約手ニ間ニ合セル様二百円手紙ヲ持タセテヤル 明朝來ルトノコトデアツタ由

正午高橋君來

昨日奈良原氏來場 三円豊田ニ借リテ渡シタ由

◆▼15ページ◆▼ 昭和7(1932)年1月12日(火)

天気晴

朝豊田ノ水上練習ヲヤラセル 晝頃ヨリ雨強ク午後ノ練習中止

終日グライダー原稿書キヲナス

アタ、カインノデ頭ガ熱クテ困ツタ

水野氏來 富久娘ノ人等知合デ飛行機ヲヤリタイノダガ使ツテ貰イタイトノコトデアツタガコトワル

飯沼(ローン)ノ八十外部品自動車デ取りニヤル
高橋氏本日ヨリ圧縮ポンプヲ作りニカゝル
夕方大工來 航空神社ノ見積リヲ聞ク

◆▼415ページ◆▲

世田ヶ谷町下北澤九六〇宗像方

◆▼16ページ◆▲ 昭和7(1932)年1月13日(水)

天気 晴

トテモアタタカイ日デアッタ 三十九年目ダソウデ丁度五月頃ノ氣候デアッタ 終日
南風ガ吹イテ居タ
豊田ノ水上練習ニ安岡モクラブ会員モ來ラズ ワズカニ沼田ガ來テ居タダケ 工場員ニ
手傳ワセル
昨夜グライダーノ原稿ヲオソク迄書イタノデ今朝ハ九時頃起床シタ
山田航空官ト早川技手來場サレタガ南風ツヨク試験ヲ中止シテスグ帰ラル。宗里君モ
來 十五日又一錢モ間ニ合ナイトノコト 二十円ヲ約手ニ最(ママ)非間ニ合セル様タノ
ンデ居ク
今一錢モナク夕方猪又ニヨリ三十円借ル
終日グライダー原稿ヲ書ク 今日ハ大部ハカドル

◆▼17ページ◆▲ 昭和7(1932)年1月14日(木)

天気 晴

九時頃山田航空官來場 水上機豊田拡張 船ヲ沖へ目標ニツナグノニ、コギ手ナク止ラ
得ズ和服ノマ、自分デ早川氏ヲ乗セテ沖ニ行ク 久シ振リニ舟ヲコイダ 稲毛ニ起ル頃
ヤツタノダカ、コキユーハワスレナイモノデアッタ 丁度晝頃水上ノ拡張ヲ終ル 晝食後
平松氏ノ十年式ト木下君ノ曲技ノ拡張アリ 平松氏巖父來場 ヤハリ子爵デアッタ
今日ハ何ニモ出來ナカッタ

◆▼18ページ◆▲ 昭和7(1932)年1月15日(金)

天気 晴

明日弘益社ノ飛行ノ爲メ警視廳へ鈴木ヲヤル 然ルニ明日ハ陛下御出マシデ許可ヲ得
ラレズ明後日トナル

夕方飯沼君來 十七日群馬縣ニテ中島知久平氏ノ祝賀会ニ飛行シタイノコトデ、當日
朝夕デ行ツテ夕デ帰ル様ナコトニシテ決メル
大塚船橋第一ヘロンゲロン取付ケニ出張
今日ハグライダー原稿大体終ル
昨日幾分風ヲ引イタモノカ午後カノドガイタミ出シタノデ床ニ這入ル

▲▼19ページ▲▼ 昭和7(1932)年1月16日(土)

天気晴

比屋君外一名來 一三式ヲヤツテ貰イタイ フロートガ猿田ニアルカト思ツテ行ツタガ
誰モ居ナカッタトノコトニ小見川ヘ電話カケタヲヨカロウトヤツタ。其マ、行ツタガ帰ツテ
來ナカッタ

▲▼20ページ▲▼ 昭和7(1932)年1月17日(日)

天気晴

早朝義勇號ハ神奈川ヘ 飯沼機ハ門松操縦沢田同乗ニテ尾島ヘ飛行 風次第ニツヨクナ
ル 門松二時間余ニテ着 神奈川無事終リ丸子園飛行ニ安岡品川ニ不時着 イヅレモ
今夜泊ルコトニナル
鳥一羽ベテ夜家内ダケデハ喰ヒ切レズ大分残ツタ

▲▼21ページ▲▼ 昭和7(1932)年1月18日(月)

天気晴

今年第二回ノ上京 ライジックサンノガソリン注文書ヲ飛行館ニテ投函ス
児玉氏ヨリ高知ニ飛行ノ件話シヲ聞ク 廿三日飛行館デ會フコトニナツテ居ル由
奈良原氏來 共ニ星野氏訪問 高田市ヨリ來タ人ト會フ 田口飛行ノ件田口ヨリノ手
紙デアスキーガ今年雪不足ノ爲メ出來ナカッタニツイテ挽回策トシテヤリタイ様ナ手
紙デアツタガ高田ノ人ノ話シデハ三月頃ヤリタイトノコト 星野氏ハ永久的飛行場ヲ作
ルコトニシテ六月頃ヤツタヲヨカロウトノコトデ意見ガマトマラズ結局田口ヘ帰ツテ相談
ノ上ト云フコトニナル 自分ハ星野氏ノ意見ニ賛意ヲ表シテ條件トシテハ飛行場ト格納
庫ヲ作ルコト 獨立ノ出來ル迄月百円ヅ補助スルコトトス
更ニ飛行館ニ歸リ清平ニ會ヒ十八円渡ス 廿三日來会ノ事。尚山崎君ニ廿三日コ、デ
會ヒタイコトヲ交渉サセル。成城入學準備大金ガ入ル様デアツタガヤラセルコトトス

▲▼22ページ▲▼ 昭和7(1932)年1月19日(火)

天気 晴

宗里へ明日ノ金ノ件ニツキ行キツヒデニ今日奈良原氏へ持ッテ行キタイ五円ヲ話シテ貰フ。修理中ノアブロヲ見テ市川ニ行キ奈良原氏ニ五円置イテ一時半帰宅
ドウモ身体ガスグレズ少々横ニナル

朝飯沼機帰ル 五十五分デアッタ由 ソレで行キニ二時間十五分カッタトノコトデア
ツタ ヨホド風ガ強カッタラシイ

午後安岡機帰ル 弘益社ノ契約書原案ヲ持ッテ來タガ馬鹿ラシイモノデアッタ

▲▼23ページ▲▼ 昭和7(1932)年1月20日(水)

天気 小雪

午前中小雪 午後ヨリ次第ニ晴レル

朝宗里君來 今日モ又一錢モ出來ナイトノコトワリ 栄助來タカ返事スルコトニス。ク
ラブ入金ナク飯田ヨリ三時間分入りコレニテカストルトガソリンノ支拂ヒニアテル 八州

電業來 強行ナル請求アリタレドモ決極(ママ)十二円現金ヲ渡シ今月中二十九円 二
月十五日二百十円 三月十日二百円ニテ全部終ルコトニシテ解決ス

弘益社契約書ノ原案作製ス

鈴木菊モ今日金出來ズ

▲▼24ページ▲▼ 昭和7(1932)年1月21日(木)

天気 晴

早朝比屋ニ一三式見積書ヲ書イテヤル

▲▼25ページ▲▼ 昭和7(1932)年1月22日(金)

天気 晴

鈴木ニ命ジ二十円作ラセ大口小樽行旅費ニ渡ス

クラブ富谷君三時間分入金 明日ノ金ニ取ツテ居ク

平松君來 十年式補助金通知ガアッタトノコト 局へ電話ヲカケサセタガ明日ノ間ニ合
ワナイ由。ソレデモ少シ思ツタヨリ早カッタノデ安心出來タ

午後クラブノ金デ成田山へ参拝ス モット、スندا氣持チニナレルト思ツタノニナラナカッ
タ 最モ一時ニ出テ四時 前過ギニ帰ツタノダカラ落ツクヒマモナカッタ訳ダガ ソレデモ
数年振りデ御参リシタ氣安サハ感ジラレタ

ドウモ頭ガハッキリセズツカレヤスイ。コンナコトデハダメダ

◆▼26ページ◆▼ 昭和7(1932)年1月23日(土)

天気 曇後雨

六時半起床 自動車遅レ八時四十分ノル 十時東京着 局ニ行キ水上機ノ願書ヲタシカメ新井氏ニアンザニ拂下ト比屋ノペンツノ件ヲタノム ベンツ六ヶ可敷ラシクアンザニ尚陸軍ノ諒解ヲ得ルコトトス 飛行館ニ行ク 研究所行キノ時間ナク奈良原児玉氏スデニ居ラレタ 児玉氏北海道ノ山林拂下ニツイテ本石町ニ事務所ヲ持ッ人ヲ照(ママ)介サレル。クラブ理事会一時ヨリ開ク 道永君一人出席セズ 宴終ツテ軽飛行機ノ設計ニツイテ木村、沢柳両氏ヨリ報告アリ 終ツタ處ハ山崎君來 グライダーニツキ協議 自分ノパンフレットヲ見テ直シテ貰フ。プライマリーソワラー兼用機ヲ結局、新ラシク設計シテ貰フコト。正興館鈴木氏ニ照(ママ)介シテ貰フコトヲ約シ氏ハ務所(ママ)顧問トスルコトトス。弘益社森下氏來 契約ニツキ當方ノ主張ヲ話シ原稿ヲ渡ス 高知ノ航空ニツイテ先キノ代表者來 計畫案ヲ立テルコト 奈良原氏カラ米代ノ話シ聞ク 十円トノコトデアッタガ今日ノ拂ヒラシタラ七円程シカ残ラナイノデ五円ダケ御渡シス。養命酒モ買エナカッタ

◆▼27ページ◆▼ 昭和7(1932)年1月24日(日)

天気 晴

昨日ニ引替エ上天気 十時頃清平ト沢柳君來 沢柳君飛行機ニ乗リタイトテ豊田ヲ呼ビ同道サセル 單獨モヤツタ由 一時頃ヨリ三人デ晝食ヲ取ル。清平ノ成城入学ニツキ援助ヲ乞フ。軽飛行機ノ器材ニ参考トナルベキモノニ三調べタ方帰ル 今日ハ気分ハスグレナカッタガ愉快デアッタ

◆▼28ページ◆▼ 昭和7(1932)年1月25日(月)

天気 晴

今日モアタタカ日 大寒ドコロカ四月頃ノ温度 庭ノ長命菊ガ二三咲キ出シタ 八時起床 朝食後新聞 工場ヲ見テ居ル處へ名古屋ノ御原氏來場 初メテノ訪問デアッタ 先年東京、名古屋大坂ノ定期飛行ニツイテ相談シタコトガアッタノニ対シ今度ニ土通相ノ弟宮脇代議士カラ、何ニカヤロウトノ話シガアッタトノコトデアッテ先年ノ計畫ヲヤルニツキ發起人ニナツテ貰ヒタイトノコトデアッタ 幾年モ前ノコトヲ覺エテ、サソツテ呉レタ心持チガ嬉シカッタ。名古屋デ綱引キヲヤリタイトノコトニ西田ト同條件ヲ話シ函ヲ作ルコトヲ注文ヲ受ケル

山崎八州男横根ヲ切ル爲メ入院ス 安岡夕方連レテ行ク。加藤モ同様デ困ツテ居ルトノコトニツイデニ渡辺醫師ニ頼マセテ見ル

▲▼29ページ▲▼ 昭和7(1932)年1月26日(火)

天気 曇り

時事 児玉技術課長閣下関東軍へ轉ジアトニ新井三郎氏課長トナル

朝眠クテ八時起床 鈴木菊雄ニ昨夜飛行協会ノ情況ヲ聞ク 大体一等ハ受験費ダケトシニ等ヲ減額シテモ保存ノコトニ大勢ガキマツタ由。馬詰、木暮、御原、奈良原四氏ヲ委員ニ上ゲ今後毎木曜日飛行館ニ協会ト連絡取ル爲メ会合スルコトニナツタ由 奈良原氏ハ辭退サレタ方ガヨイノダガ

九時頃奈良原氏來 同様ノ話シヲ聞ク 十円渡ス 昨日葉方ヨリ水上入用トノコトスグ返電ヲ出シ今朝水上ノマ、入用ナラ目下陸上ニ改造中ニツキスグ返事スル様打電ス夕方返電アリ 最(ママ)非ホシイガ手紙見テ呉レトノコト 夕方宗里へ金請求ニ行ク 相カワラズ、頼リナイ事オビタゞシ

鈴木ヲ十年式補助金受取りニ上京サセル

▲▼30ページ▲▼ 昭和7(1932)年1月27日(水)

天気 晴

朝出ガケニ栄助ガ地代ヲ取りニ來テヤレナイノデドナツテ居タ 自動車ガ來タノデ其マ、上京 木村屋デ根付ヲ買ヒ今日中ニ出シテ貰フ様タノシ研究所ニ行キ田中先生ニ會フ 成城ハトテモ條件ガ六ツ間敷入學出來ソウニナイノデ早大カ日大ニ入レルコトニ清平トキメル。飯沼ニ行ク 不在。平松氏訪問 之又不在デ帰宅ス

太田ガ又手紙ヲヨコシタ 何ニカシラ不安ヲ感ジテ居ルトノコトニ其内ヨンデ話シテヤロウ

▲▼31ページ▲▼ 昭和7(1932)年1月28日(木)

天気 晴

早朝保険課長ト鈴江氏ニ手紙書イテ鈴木ニ出ス様云ヒツケテ金町ニ出タガ自動車道トバシタノニツヒニ間ニ合ワズ十時二十一分ニ乗ル 宗里君ト會フ。ダレモ居ラズ古川屋ニテ會フ 明日ノコト二百ノコト等ヲ井上氏ニタノミ水上隊ニ行キ一三式ノラジエタート脚ヲスケツチス 今日ハ飛行場ハシートシテ居タ 聞イテ見ルト全隊デ兎狩リニ行ツタノダトノコト

関根ニ會ヒ計器類ヲ買フ約束ヲシテ三時四十五分ニ乗ル 井上木暮両君同車ス。久シ振りニ浅見君ニ會フ スグ帰宅 五時半デアツタ 稲毛カラ金貰ヒ來テ居タ

◆◆32ページ◆◆ 昭和7(1932)年1月29日(金)

天気晴

鈴木昨夜帰ラズ不明ノ爲メ石川横須賀へ出張サセル 自分上京 飛行館ニテ山崎氏ニ電話 グライダー局へ提出 計算書ノコトヲ話シ合ヒ、弘益社へ明日金取ル様電話スル 正午ノ予定主賓ノ都ニテ少シ遅レ一時過ギヨリ兒玉新井新旧課長ノ送迎宴ニ列ス 自分等発起人 三時頃無事終了 來会者百余名 飛行館星ノ間初マツテ以來ノ盛会ナリシ由 終ツテ道永君ニクラブ会報ノ原稿ヲ依頼シ、兒玉氏ト少シ話シ平松氏訪問 練習ノ件三名自由ニヤルコトノ承認ヲ得 燃料費使用料ヲ各一時間十二円トスルコトヲ承認シ一月分勘定五十円也ヲ受取り弘益社ニヨリ帰ル

◆◆33ページ◆◆ 昭和7(1932)年1月30日(土)

天気晴

朝床ノ中ニテ兒玉課長ヲ送ル爲メ綱引キ飛行ヲナスベク上京ニ當リ弘益社ニ文字ノ注文ヲナス 昨日同社ノ話シニヨリ演藝モノダケ特ニ手取り金八十円ニテヤルコトト定ム 飛行館ニテ兒玉飯沼君ニ会ヒ過日ノ小西ノ計算ヲナシ全部ニテ五十円ト定ム 早弓へヤルベツヲ百五十円ト定メニ割呉レルトノコト(自分ハ一割ノ予定ナリシ)ニテキマリ太田行キノガソリン代受取ル。青山ニ竹崎ヲ訪問 電車ヲ乗越シテ車庫前下車 徒歩デ帰ル途中丁度竹崎ニ會フ。コーヒー店ニテ話シ合ヒ明日夕方持参スルトノコトニ安心シテ小川町迄タクシーニ同乗 弘益社ニ行ツタガ金ニナラズ 終自動車ニテ帰宅 尚帰りニ佐藤へ割ヒシヲ取りニヨル 佐藤ヨリ田中ガウマクヤツテ居ルノニ貸倒シガ出來ルノハ吾人ノ意見ヲモチイナイカラダトテヒドク、ヤラレ、シヤクニサワル 田中ノアイスノマネハ出來ナイ

◆◆34ページ◆◆ 昭和7(1932)年1月31日(日)

天気晴

九時起床 日曜ダト云フノニ今日ハ又請求者ノ多イコト 夕食中迄人が來テイヤニナツタ 二瓶大助來 二十年振りニ再會シタガ之レモ金ノ件デ、奈良原氏ノニシテモ面白クナイ再会振りデアッタ

工場員長屋ニ集会 何ニ方決議様ノコトヲシテ居ルトノコトデアッタガ太田数日前ノ手紙ノ件モアッタノデ今日予定シテ居イタコトトテ呼ンデ聞イテ見ル 皆ノ意見ヲマトメテ居ルトノコトデアアルガ要スルニ工場能率増進ニツキ意見ノ交換ト將來ノ希望ヲ認メル様ナ工場奨励法ヲ考発中トノコトデ自分トシテモ賛成シテ居ク

◆◆35ページ◆◆ 2月

- 一 アンザニー拂下願書提出ノコト
- 二 工場方針決定
- 三 グライダー販賣確定ノコト
- 四 グライダー設計圖集メルコト

◆◆36ページ◆◆ 昭和7(1932)年2月1日(月)

天気晴

児玉課長関東軍付キトシテ今日羽田カラ出発スルノヲ見送ル爲メ急イダガ旅費トボシク漸ク作ツテ九時出発 其前海岸ヨリ見送り機門松操縦出発ス。弘益社ニアミー受取り羽田ニ行ク 東京駅ヨリ宗里氏ニ會フ。出発ハ丁度間ニ合ヒ綱ニハ好評ヲ博ス。局ノ金受取り日本銀行ニテ現金ニシ弘益社ニヨリ八州電業へ電話シテ人ヲ呼び九十円手形引替ヲ渡ス 弘益社ノ金、五日迄待ツテ呉レトノコト

帰宅 ヤハリ夜コ入ル四時四十分。晝食ヌキデ腹ヘル 田中サルニテ來場シ居リ補助金デ橋本ニヤル分ヲ弘益社ト竹崎ノ分五日ニ這入ルノヲ廻スコトトシテ補助金ヲライジンクサンへ振込ム

◆◆37ページ◆◆ 昭和7(1932)年2月2日(火)

天気晴

昨日作業ヲソコケニシテ協議シテ居タトノコトニ今日ハ休業ヲ命ジ九時全員ヲ集メ先ヅ彼レ等ノ云フ處ヲ全部云ワシメ後チ自分ノ意見ヲ発表シ大体ニ於テ諒解成立 午後上野、佐野、門松、太田、鈴木ト會合シ根本原則トシテ伊藤ト製作所ハナルベカラザルモノ 日本ニ天皇陛下アルト同様ノモノタルコトヲ認メシメ後チ彼等ノ要求ナルモノニソレハ、回答ヲ與ヘ明日ヨリ作業繼續ノコトニ決ス 今日入金ノ早弓ノ金ヲ(飯沼ノ発動機ノ金)全員ニ分配ス。彼レ等ノ話シハ會計制度ヲ彼レ等ニモ分リヨクシテ欲シイト云フコト。金ヲナルベク其月ニ欲シイコト 工場内ノ事ハ彼レ等自身賞罰ヲ明ラカニシテ欲イ。從ツテ規則ヲモルカラ、基準ヲ明ラカニシテ欲イコト 退職手當等ニツキ定メテ欲イ等デアッタ。之レ等ハ大正 廿十年頃作ツタ工場規定ヲ以テ現下ノ狀況ニアテハメ改正シテヤルコトニス

今日ハコト三頭ノ工合ヨクテキ。パキモノガ運ンダノハ愉快デアッタ

◆▼40ページ◆▼ 昭和7(1932)年2月3日(水)

天気 曇後晴

午前七時半全員出揃ヒ作業状態ヨロシ

午前中ニ現状ノ貸借 今後ノ作業方針等ニツキ昨日ノ主立チタルモノヲ集メ説明ス尚之レハ昨日キメタコトデアルガ佐藤、上野ヲ準工場長トシテ事務所トノ連絡ニ當ラシメ会計ハ鈴木ニ 全般ノ指揮ヲ自分ガスルコト 但シ之レハ自分自身ノ欠點ヲオギナウ爲メ五十円以上ノ支出ニ対シテハ会計ノ協賛ヲ得ルコトトス

奈良原氏來 明日上京費トノコトデアツタガ、アイニク横須賀カラ一五式ガ今朝ツイタノデ運賃ニ支拂ヒナカッタノデ、クラブヲ調べタガナク、宗里ヘヤツタガ取レズ。鈴木モナク川辺不在ヤット門松カラ五円借りテ式田奈良原氏 式田ヲ霞ヶ浦ノ関根ニ渡スクラブ練習費滞納者多ク練習中止セシムル方法ヲ取ルコトニツキ幹事会ヲ開クコトトス

◆▼39ページ◆▼ 昭和7(1932)年2月4日(木)

天気 晴

葉方へ昨日打電シタガ本日モ返ナシ

局へ電話サセル 明日駒林氏検査ニ行クトノコト

午前クラブ幹事会ヲ開キ入金練習費滞納者多ク爲メニソレ等ニ練習中止ヲ命ズルコトヲ議決モ今後ハ入金六式ヶ月間 練習費ハ三十分前ニ通知シ三十分後迄待ツ事ト定ム

宗里氏ヲ呼び具体的返還方針ヲ定メラレタシトセマリシモ、ラチアカズ 十日頃確定的返事スルコトトナリ物分レトナル

◆▼40ページ◆▼ 昭和7(1932)年2月5日(金)

天気 晴

二時前カラ目ガ醒メ四時半頃迄眠レズ 雨降ル 朝ニナツタラ徳次ト仁三郎ノ長ゴム

靴ガナイノガ気ニナリ何ニカシテヤラネバナラヌカト心配シタガ朝スツカリ晴レテ居タノデタスカツタ。後チ思ヒツイテ川辺君ヨリ阿部ミサ子君ノ長グツヲ貰ヒ受ケル

鈴木菊ノ拡張ノ爲メ山田航空官來 サルト十年式終ル

奈良原氏來 米ガナイトノコトニ工場ニモ少シモナク猪又ヨリ十円借り内五円渡ス工場十時丸鋸据付ヲ終リ試験セシモ少シ大キナモノニナルト、キシンドエヨク切レズ

◆▼41ページ◆▼ 昭和7(1932)年2月6日(土)

天気 晴

丸鋸今日漸ク使エル様ニナル

駒林氏検査ニ來場 スベテ合格 高度計試験ノ事ヲタノム 快諾サレル

小栗君來 飛行ス アンリオ定期検査依頼ヲ受ケル

午後佐藤家内入院セネバナラナイトノコトニ長サンヲ照(ママ)介シテヤル

清平ヨリ手紙來 日大ニホゞキメタラシイ 引越シ金ガ入ツタカラタノムトノコトデアッタ

野呂氏十年式練習費トシテ三十円ダケ入金ス 佐藤へ十円ベニヤ板ニ五円余 安岡ニ式円 明日ノカストルト、メッキ屋ニ不足ス

▲▼42ページ▲▼ 昭和7(1932)年2月7日(日)

天気 晴

終日在所 クラブ会報ノ原稿ヲ書ク

後チ高知大坂間定期予算書ヲ作ル

▲▼43ページ▲▼ 昭和7(1932)年2月8日(月)

天気 晴

上京 局へ鈴木機体ト發動機内部検査ノ件ニ行ク 發動機ノ方十日トキマツタガ機体ノ方玉宮氏不在 キマラズ。駒林氏ニ高度計ノ修正ヲ依頼ス 午後更ニ行クコトニシテ飛行館ニ行キ飯沼へ電話シテ發動機至急発送方ヲタノム 児玉氏ツヒニ來ラズ會エズ朝日ニ中野君ト會ヒプスモスノ状態ヲ調べテ貰フ 立川ニアルカラ御知ラセスルトノコトデアッタ。木下氏來テ居ルガ今上野迄行ツタトノコトニ後チヲ約シテ局ニ行ク 玉宮氏マダ來ラズ。井上氏ニアンザニー拂下ノ様式ヲ書イテ貰フ 森航空官ニ學生聯盟ノ修理ノ件ヲ考慮ヲ乞フテ居ク。木下氏訪問 マダ歸ラズ 名刺ニ用件ヲ書イテ渡シテ居ク

六時十五分ノ自動ニテ帰宅ス。白戸ノ妻ノ母昨夜死亡シタトノコト、ニ金ハナカッタガ取アエズ今日ハ才通夜ト思ツテ行 終自動車ニテ行ク。今夜焼場へ持ツテ行ク 明後日午後二時葬儀ヲヤルトノコト 白戸モ七時ノ汽車デ保田へ行ツタトノコトデアッタ。ビールノ馳走ニナリ帰宅 十二時

▲▼44ページ▲▼ 昭和7(1932)年2月9日(火)

天気 晴曇

時事 山崎好雄氏初メテ來場

佐野ノ手形氣ニナル 佐野夕方來 明日何ントカマトメルコトニシテ歸ヘス
午一時山崎君來ルトノコトデアッタガ夕方六時頃來 スグ夕食ヲ出ス パンフレットノ
原稿ヲ全點書キ直シテ來テ呉レタ
夜床ニ入ッテカラ讀ミカケタガ讀ミキラナイ内ニ眠クナッテシマッタ

▲▼45ページ▲▼ 昭和7(1932)年2月10日(水)

天気 晴

時事 白戸母死葬儀

昨夜川辺君カラ使デ奈良原氏ノ手紙ヲ持ッテ來タ 今日津雲氏ノ應援演説ニ行クノ
デ九時半迄ニ旅費ト宅ヘ残ス金ヲ届ケテ呉レトノコトデアッタガ間ニ合ワズ 漸ク十円
出來タガ白戸ノ香奠ニヤット間ニ合ッダケデ届ケラレナカッタ。佐野ノ手形ニ比屋ノ
百五十円ニ、十円ノ内カラ四円十六錢ヲ足シテ入金 白戸へ五円ノ香奠ト旅費一円ヲ
持ッテ行ク 丁度二時ニナツタノデ宅へ行カズ、スグ寺ニ行ク 二時半頃到着 約四五
十分ニテ終了 久シ振リデ白戸ニ会フ。終ッテ白戸宅ニ行キ夕食後七時四十分ノ自動
車ニテ帰宅ス
昨夜雪フリニ二三寸ツモル。本年ノ初雪デアッタ

▲▼46ページ▲▼ 昭和7(1932)年2月11日(木)

天気 曇リ

技工規定ノ改正案ヲ作ル。晝池本ト晝食ヲ共ニス 少シ酒ヲノンダラ眠クナリ午後仕
事ヲヤメテ床ニ入ル
竹崎君來 横浜ニ飛行ス
川辺機着陸ヲアヤマリ破損ス 呉君少シケガス

▲▼47ページ▲▼ 昭和7(1932)年2月12日(金)

天気 快晴

晴レ、トシタ、アタタカイ春日和デアッタ。

正午主ナルモノヲ集メ改正シタ技工規則ヲ讀ミ聞カセ今後ノ方針ヲ語り明日夕方全
員ニ発表スルコトトナル 尚營業方針ニツキ不安アルヤヲ夕方太田カラ佐藤等ノ意見ト
シテ云ッテ來テ居タガ自分ノ説明以上三不安ナルモノハ止メルモサシツカエナキ、考ヘヲ
以テ進ム進む

▲▼48ページ▲▼ 昭和7(1932)年2月13日(土)

天気 晴

鈴木アブロ内部検査ニ駒林氏來場 八時半着 十時帰ラル 保俵(ママ)署ヨリ來場 差押ヘツイテノ話シデアッタガ山口縣ノ返事ヲ取ル爲メ目ノ前デ打電シ十五日回答スルコトニス

午後郵便局ヨリ來 電話ノ件取消スヤ否ヤ之レモ十六日ニ返事スルコトニス。今日モ一番心配シタニ軒ガ大体見込ミガツイタノデホツトシタ

夕食ヲ皆ト共ニシ昨年度ノ経過ト將來ノ方針 技工規則、向上会ノ件等ニツキ演説シ二三クダラヌ質問アリタルノミニテ無事八時半終了

今朝三時稲ニ又女ノ子ガ出來タ由

▲▼49ページ▲▼ 昭和7(1932)年2月14日(日)

天気 曇雨

クラブ会報ノ原稿ヲ終リ写真ノ整理ヲナス

鈴木菊雄ガソリン代ト練習費持参ス

▲▼50ページ▲▼ 昭和7(1932)年2月15日(月)

天気 晴夜雨

鈴木買物ニ上京 ツヒデニ児玉氏へ定期予算書ヲ届ケ飯沼へ寄ラセル

千葉保俵(ママ)課長へ昨日葉方カラ來タ手紙ヲ添エ延期方ニ申請ス 銀行モノバスコトテライジンクサンノ分依頼ス

夕方宗里君來 不得要領 何等具体的ノ話ナシ

昨夜先月分ノ帳簿記入ヤリ直シ十一時終ル

米屋二十円ダケ内入レシテアトマッテ貰フ

▲▼51ページ▲▼ 昭和7(1932)年2月16日(火)

天気 晴

今日モ電話ノコトワリニヤル。取消シハコチラカラ申請シナケレバ出來ナイノダソウダ

宗里へ手形ヲ書カセニヤル 明朝持参スルトノコトデアッタ。山崎ニヨラセル マダ入院中ノ由。安岡モキテナカッタトノコトデアル。北海道ノ兄へ手紙出シテ呉レトノ由 馬鹿モノ

▲▼52ページ▲▼ 昭和7(1932)年2月17日(水)

天気 曇晴

上仲帰場

鈴木局及佐藤商店ケーブル線購入ニ上京

▲▼53ページ▲▼ 昭和7(1932)年2月18日(木)

天気 晴

川辺君アブロ井上氏ノ世話ニテ安藤ノモノヲ購入セリト ソレハヨイガ工場ノ方ヘモ入金
ヲ迫ル 明日七十円入レルトノコト

宗里ヨリ夕方木下氏手形ヲ持ッテ來タガ五百円ダケ シカモ五十円ヅノ三月末ヨリ四
回 アト百円ヅノ三回九月迄ニナッテ居タ 外ニ、百余円ガドウシテ呉レルノカ鈴木ア
テノ手紙アリ 明朝ノコト

▲▼54ページ▲▼ 昭和7(1932)年2月19日(金)

天気 晴北ノ風

今日ハ寒カッタ 奈良原氏來 五円渡ス 川辺君明日七十円入金スルトノコト
鈴木局ヘ検査日取り打合せトゴム紐購入ニ上京

石川霞ヶ浦ヘ拂下品引取りニ出張 夜八時半帰場 飯沼ノ分共ニ引取ル

今日ハ終日浪六ノ「イタヅラモノ」ヲ讀ム

鈴木上京ノ節宗里ヘヨラセルコトニシタガ宗里今日ハカスミヶ浦へ行ッテ居タ由

▲▼55ページ▲▼ 昭和7(1932)年2月20日(土)

天気 晴

時事 犬養内閣ノ総撰擧

朝北風寒ク午後南風吹キホコリガハゲシカッタ

夕方ニナッテ飯沼來 サルノ機体ト、発動機及、早弓ノベンツ到着ス

宇部ノ葉方ヘイツ來ルカ打電ス 返ナシ

川辺ヨリ七十円鈴木ニテ三十円取り百円ヲ足シテライジンクサン手形ヲ落ス

九時宅ヲ出テ撰擧ニ行ク 最モアブナイト云フ評ノ篠原氏ヲ投票ス

日記賞発表 一二等

東京朝日新聞

▲▼56ページ▲▼ 昭和7(1932)年2月21日(日)

天気 晴

八時半起床 海野氏ヨリ使來 練習生ノ事ニツイテ相談ニ來タノデアツタガ前納ノ千円ガ最大限デソレ以上ハ出來ナカッタ。今日ハ次ギ々々ニ入学希望ヤラ、人サガシ、ヤトツテ呉レナドト随分ナヤマサレタ
夜田中春雄來 アプロ練習費トシテ五十円預ル

▲▼57ページ▲▼ 昭和7(1932)年2月22日(月)

天気 晴

久シ振リニ上京 局ニ行 鈴木アプロ検査日決定 明後日玉宮氏ニグライダーノ件相談 原稿マダ讀ンデ居ナカッタガ貰テ帰ル 取替翼ノ件書類デ出スコトニナル。馬詰ニ會フ 來月十日頃迄ニ受檢スル様ニ進メルコト、西川氏ヨリ話シアリ承認ス。飛行館ニテ兒玉氏ニ會フ 晝食夕食ヲ共ニス。學校ノ合同ト工場ヘノ出資ニ五万十萬トノ話シアリ 外ニ差當リグライダーノ資金ニツキ山本氏カラ出サセル方法アリトノコトニ更ニ明日上京スルコトトス。岡田氏ニ會ヒ、兎ニ角宗里ノ手形七枚ニテ五百円ヲ預ケル 今月中ニアト式百メートルバカリ取ル爲メニ三百円作ルコトトス。上原平太郎氏當撰 祝電ヲ發ス 上仲本日ヨリ出勤ス

▲▼58ページ▲▼ 昭和7(1932)年2月23日(火)

天気 晴

時事 政友大勝三〇四 民政一四六トナル

今日更ニ上京前鈴木ヲ宗里ニヤルコトトシ、葉方ニ手紙ヲ書キ東京ニテ投函スルコトトシ尚先キニ送ル様打電ス 夜返電アリ イサイ又トノコト。之レハ駄目ラシイ 実ニ困ツタコトニナツタ

五時迄飛行館ニ待ツタガ竹崎來ラズ 手紙出シテ居ク 弘益社ニ電話ス 田中へ丸子園ノ金マダ支拂ツテ居ナイ由 請求シテ居ク

山崎氏ト電話デ話シタ結果鈴木氏ヲ訪問 會フ。パンフレットヲ讀ム 百二三十円カ、ル由。代理部ノコトハ確實ニ極メナカッタ。先方カラモウ少シ、乗氣ニナラネバ。五時四十分ニテ帰宅ス

▲▼59ページ▲▼ 昭和7(1932)年2月24日(水)

天気 晴風強

鈴木アプロノ検査ニ辻本畠山氏來 風稍ヤ強カリシモ大シタコトナク格納庫前ニテ受檢 中突風ニアオラレアヤフク轉覆セントシタガ助カッタガ、クラブノアンリオト正面轉覆ヲ

ナス 大破

鈴木ノ帰リヲ待チ沖込引出シテ鈴木ニ試飛行ヲヤラセ終了ス。アプロノフロート不合格 ソレニシテモ葉方ノ決定セズ修理ニマヨウ

夜佐藤君、仕事ヲ受(ママ)負制度ニシテホシイトノコトノ申出アリ 方法ニツキ研究ノ余地アリ研究スル様ニ命ズ

川辺、鈴木へ職工連ガ行クラシク川辺ナドセン動的言動アル由

▲▼60ページ▲▼ 昭和7(1932)年2月25日(木)

天気 雪

今冬初メテノ雪デ大雪ニナツタ 朝カラ夜モツツト降ル

十一時頃ヨリ上京 局ニアリオノ抹消登録ヲスマセ堪航証ヲ返ス。鈴木ノ変更登録申請ヲナス。其他一寸挨拶ニ廻ル。川辺、宗里、木暮君ト一所ニナリ円タクヲ飛バシ飛行館ニ行ク 宗里作業会社へ金取りニ寄ル

飛行協会ニテハ飛行士奨励金ノ問題デアッタガ今年度二等飛行士トナルモノガ更ニ三十五名カ四十名程アルノニ対シニ万円シカ予算ガナイノデ一人當リ五百円ヅ、デ我マシテ呉レトノコトデアッタガ之レハ保留シテ局カラ不足分ヲ出シテ貰フコトノ運動ヲ起スコトトナリ飛行クラブニアト會合アリ 三月一日運動ヲ起スコトトナル

輸送会社森川氏ニ會フ 中島製作所急(ママ)ガシクテ修理ガ間ニ合ワナイトノ事デアッタ 早速思ヒツイテ之レヲ機會ニ何ントカ発展策ヲ講ズベク羽田ニ進出スル予定ヲ健テ児玉氏ニ相談ス 早速金ヲ出ス方面ニツキ丁度今日會フ人ガアルトノコトニ待合セ兼松ト云フ婦人ニ會フ 非常ニ賛成シテ骨ヲ折ツテ呉レルコトニナル

▲▼61ページ▲▼ 昭和7(1932)年2月26日(金)

天気 曇リ後晴

今日ハ在所シテ昨日ノ経過ニヨリ今後ノ方針(羽田へ進出ニツイテ)所員ヲ各別ニ呼び話シ特ニ上野ニ此ノ際南洋行キナド 禰副業ヲアキラメルコト 又發明事ヲ中止スルコト ソレガ出來ナケレバ其方ニ専心スルコトヲコン、話シ自カラモ反省スル處アッタ如ク大ニヤル旨ヲ答へ尚現在ノ木工ニ名他へ履歴書ナド提出シテ居ルノヲ中止シテ待ツトノコトデアッタ。グライダーノ部品調べ、会報ノ原稿整理等ヲナス
川辺君ニ金件請求 鈴木同用(ママ)

▲▼62ページ▲▼ 昭和7(1932)年2月27日(土)

天気 晴

朝奈良原氏來場 五円渡シベニヤ板ヲ取りニヤル。クラブヨリ百円入り八十円ヲ岡田ニ渡スツモリデ上京。記者クラブノ前課長贈物ノ金トシテ道永君ニ渡シ岡田へ七十円渡シ廿九日百米受取ルコトヲキメル
山崎君ニ會フ。パンフレットヲ正興館名議(ママ)ニテ発行ノコトノ交渉ヲ依頼ス 部品表ヲ渡ス。後子正興館ノ鈴木氏ニ會フ。一寸要領ヲ話ス。先方デモ其ツモリヲシカッタ
弘益社ニ電話スル 廿九日必ズ渡ストノコト
竹崎ヨリ八十円受取ル 百二十円五日ノ予定ナレドモ又少シツヽニシテ呉レトノコト。
児玉氏ニ衣笠氏ヨリ電話ノ金借入レ方話シサセタガダメ 児玉氏ト夕食ヲ共ニシ帰宅
清平來テ居タ

◆▼63ページ◆▼ 昭和7(1932)年2月28日(日)

天気晴

終日在所 昨日ノ入金デ工場員ニ全部分配 自分ニハ養命酒ヲ買フ
ドウモ仕事ニ身ガ入ラナクテ困ル
清平午後帰ル

夕食時上野、大塚來 佐藤ニ呼バレ受(ママ)負作業ニ加盟セヨトノコトデアッタガシナイ
カラ所長直屬ニ使ツテ呉レトノ申込ミテアッタ。佐藤ガソソナコトヲ云フノガ少シ變デア
ッタ 後子太田ガ又同様ノ問題デ來 不張ナ受(ママ)負ニツイテハ断ジテヤラセナイト
申渡シテ居ク

佐藤ノ奴少シ欲ガ多クナリ過ギテイケナイ

太田初メテ長ク話シ込デ帰ル

◆▼64ページ◆▼ 昭和7(1932)年2月29日(月)

天気晴

上京ノ予定デ仕度シタガ鈴木ノ金午後ニナリ川辺宗里這ラズ支拂ヒノヤリクリデツヒ
ニ上京ヲ中止ス 今日ハ中島ニ行ツタリ児玉氏ト電話ノ金借カン問題モアリ行カネバナ
ラナカッタノデ氣ニナツタガ止メル
大坂ノ正木へ又々延期ノ手紙出ス
夕方奈良原氏來 十円上ゲタイト思ツタガ三田濱ガ來テ聞カナイデ五円ヅヽ二分ケテ
支拂フ
夜佐藤商店カラ來タガ之レニハヤレナカッタ

◆▼65ページ◆▼ 3月

日記寶三等以下発表 雜誌朝日少年世界四五月號

○羽田へ新發展策急進ノコト

○グライダー販賣策

○輕飛行機資金ト發拂下

▲▼66ページ▲▼ 昭和7(1932)年3月1日(火)

天気 晴

時事 滿州國建國發表。

民間飛行士聯合シテ通信省へ獎勵金下附請願

九時出發上京 局ニテ検査ノ日取ヲ打合せタガ汐時悪シク尚調査ノ上キメルコトトス
飛行館ニテテ各民間學校經營者飛行士等五十余名集リ一時ヨリ打連レテ通信省ニ大
橋次官ト會見 獎勵金補助ノ件ヲ請願シ更ニ文部省、ニ飛行學校亂設ノ取締リ方ヲ
陳情。自分ハソコヨリ分レ他ノ者ハ陸海軍省、民間飛行士ノ健軍請願ニ行ク 自分ハ電
通ニ手形ノ件ニテ行キ最(ママ)非入金シテ呉レトノコトニ更ニ五日迄待ツテ貰フコトトシ
中島製作所ニ社長ヲ訪フ スデニ帰ツタトノコトニ中村氏ヲ尋ネタガヤハリ不在 飛行
館ニテ小兒(ママ)氏ト會フ。会社ノ予算書ヲ兼松氏ヨリ急カシタトノコト。八州電業ニ
五十円内入り

岡田氏ト會フ 羽布大坂ヨリ取ヨセルノデー一日二日遅クナル由

銀鳥ニテ兒玉氏ト夕食ヲ共ニス。佐藤ニ金ノコトワリニヨリ銚定ニテ買物シテ帰宅 十
時半

▲▼67ページ▲▼ 昭和7(1932)年3月2日(水)

天気 晴

三時頃ヨリ約束ニヨリ上京 飛行館ニテ兒玉氏両氏ニ會フ 六時頃山本へ行クベク共ニ
出タガ夕食ヲシテ行コウトノコトニ魚十二行ク 兒玉精治氏ドウモ山本へ行キタガラナ
イノデ市役所ノ兒玉氏ト二人デ行ツテ呉レトノコトニ余一人デ行クコトトシ二人ヨコト
ワル。

山本氏ニ會ヒ千五百円今月期限ダガ入金六ヶ敷イコトト羽田ニ分工場設置ノ件ヲ話
ス 大分乗氣デアッタ 八時頃辭シテ結果ヲ兒玉氏ニツゲルベク自宅ヘヨツタガ、マダ帰
ツテ居ナカッタ 九時ノ汽車ニテ帰ル 二日ツバイテオソクナッタノデ、ツカレガハゲシカ
ッタ。コンナコトデハダメダ。

▲▼68ページ▲▼ 昭和7(1932)年3月3日(木)

天気晴

在宅 大蔵家内來

高知ノ予算書ヲ作り、クラブ会報ノ原稿整理

近頃ツカレル 頭ノ頂部ガヘンナ氣持ニナリ眠クテ困ル 充分眠レバ頭ノ工合モ非常ニヨ
イ

▲▼70ページ▲▼ 昭和7(1932)年3月4日(金)

天気晴

駒林、畠山氏來場 改造アプロ検査ノ爲メ。受檢中バニ失礼シテ上京ス 児玉氏ニ會フ
何等新味ナク氏モ大分タノミニナラナクナツタ。兼松夫人ニ會フ 予算書ヲ渡ス 高知
定期ノ予算書モ渡ス

山崎君ニ電話スル。パンフレットノ原稿ガ出來デルカラ送ルトノコト

清平ヲ呼び八月月謝ノ不足ヲ渡ス

児玉氏ト竹崎ヲ訪問 不在。上原氏訪問 アンゼニーノ件内田少将ニ話シテアルトノコ
トデアツタ 帰途清平ニ下北沢駅デ會フ 金ガ不足シタトノコトニ五十錢ヤル。新宿ニ
テ夕食 児玉氏支拂フ タクシーニテ九時ノ汽車ニ間ニ合フ。豊田ト一所ニ帰ル

▲▼71ページ▲▼ 昭和7(1932)年3月5日(土)

天気晴

鈴木ヲ局竹崎岡田ヘヤル

クラブカラ四十円這入ツタノデ皆ニ分配シテ僅カニ二十錢残ル。米屋ヤ中台ヲコトワラ
レテ困ツテ居ルトノコトニ米屋ノ拂ヒニ渡シ中台ヘハ家内ヲヤツテ、品ヲ渡シテヤツテ貰フ
様交渉マトマル

向上會ノ第一回會合ヲ七時半ヨリ催ス 佐藤ノ会長、委員ニ門松、太田、大塚。趣意
書ト會則八角ガ作ツテ書イタトノコト 実ニヨク出來テ居タ シルコヲゴ馳走ス。尚當飛
行場ノ汐水ヲ、ヨケル方法ニツキ一等十円二等五円ノ懸賞ヲ発表ス
上仲ノ件ニツキ上野ヨリ質問的抗議アタリタリ 十時半終ル

奈良原氏來

▲▼71ページ▲▼ 昭和7(1932)年3月6日(日)

天気晴

頭ノツカレガ取レナイノデ八時半迄寢ル 起床 新聞 朝食後衣笠氏ニ義勇ノ金ニツキ
手紙出ス

山田君來 飯沼君ノ飛行場ヲサガシニ千葉ノ入口迄行ク 歸リヲ稲毛迄歩イテ見タガ適當ナ場所ガナカタ 幕張ノ出口ガ最モヨイト思ツタ。午後ヤハリイケナイノデ少シ横ニナツタ 東亜ノアブロ東京ヘビラマキニ行キ歸リニ四ツ木ニ不時着シタ由
吉村豆意君來 起サレル 帰ツタノデ又横ニナツテ居ルト朝日ノ通信員ガ來テ又オコサレル

夕方大分頭ガヨクナツタ 湯ニ入り夕食

信太郎ハ明日カラ試験デ今日ハ應接デベンキヨウ

▲▼72ページ▲▼ 昭和7(1932)年3月7日(月)

▲▼73ページ▲▼ 昭和7(1932)年3月8日(火)

▲▼74ページ▲▼ 昭和7(1932)年3月9日(水)

天気晴

上京

▲▼75ページ▲▼ 昭和7(1932)年3月10日(木)

天気晴

上京 岡田二十八円渡シ羽布百米受取ル

竹崎ノ代リニ衣笠氏來 タツタ二十円受取ル

夕方清平、山崎君ニ會フ グライダーノ件山崎氏ト打合せ

飛行クラブノ新代議士招待会ニ出席ス 代議士一名モ來ラズ変ナモノデアツタ

▲▼76ページ▲▼ 昭和7(1932)年3月11日(金)

天気曇リ

上京 飛行館。鈴木氏グライダーノ件

夜中央亭ニテ星野米蔵、仲木眞一、渡辺一英、北尾亀男ト会食 イヅレモ久シ振りデアツタ

アツタ

清平入學ニツキ日大笠原先生へ長岡氏ノ紹介ヲ貰フ

佐藤ニテケーブル四ミリ七十米ト五分ノ丸棒ヲ求メ帰宅 電車ヨリ徒歩
工場ニテアプロ水上ヲ陸上ニ改造 受験ニ回目ニテパス タゞシ三ヶ月ニセイゲンツキ
一時ヨリ三時迄羽田飛行場附近ノ工場ヲ見ニ行ク 堂々タル大工場デアッタガ屋根
ノ破レガ其マヽデアッタリシテ居タ 一部作業シテ居タガ個人デ借りテ居ルノダソウダ
石田工場長ト帰途ヲ共ニス 京浜会社ノ土地ニツキ一寸聞ク處アリ
朝陸軍省ニアンザニーノ件ニテ中川大佐訪問 諒解ヲ求メル

▲▼77ページ▲▼ 昭和7(1932)年3月12日(土)

天気 曇後雨

昨日クラブヨリ金ヨコサナクナッタトノコト二十円渡シテ上仲ノ旅費鈴木ノ手當五月等
ニアテルコトニシテ上京 局ニ行キアプロノ登録申請ヲナシ飛行館ニ行キ馬詰ニ會フ 飛
行機ノ整備費ヲ局ノ三百円ノ外ニ式百円渡スダケデ出来上ル様ナコトヲ云ツタノデソ
レハ話シガ違フ 局ノ補助金ハ六百五十円ト見テ式百円貰フ予定ダカラ二百円ノ補助
金デハ出来ナイトコトワル 然シ馬詰モロノフチニ白イワフイテ居ル様ヲ見テハカワ
イソウニナッタノデ、局ノ人ニ公平ニサバイテ貰フコトニシテ分レル 今日モ一円借りラレ
ル

清平ノ入學問題デ日大二笹原氏ヲ訪ネ更ニ自宅ニ行ツタリ雨ノ中ヲタクシーヲ飛バシ
テツヒニアエズ。

奈良原川辺君飛行館ニテ會フ

大雨ニテ帰途中フト羽田工場問題ノ資金ニツキ京浜電鉄ヨリ引出ス工夫ヲ考ヘ中津
田沼迄乗り越シヲナシタクシーニノリ自動車代ヲ拂ツタラアト二十七銭残ツタ

▲▼78ページ▲▼ 昭和7(1932)年3月13日(日)

天気 晴

思ワヌ上天気トナル

クラブノ計算書ヲ作り豊田ニ渡ス クラブヨリ工場ヘ大變貸シ越シニナツテ居ル様ニ會員
ガ思ツテ居ルラシイノデマダ二百円バカリ工場ノ方ガ貸シニナツテ居ルノデアル

午後川辺君ニガソリン代ノ爲メ金策ニ上京スル旨ホノメカシテ二時出發 児玉氏同道
山本氏訪問 グライダー資金ト思ツタガダメラシイノデ電話ノ金ダケ話ス。ソレデモコ
トワラレタ 児玉氏ハ見込ミアルト云ワレタガ自分ニ見込ミナシ。児玉氏ハグライダー
資金ヲ木村氏ヨリ出サセルトノコトデアッタ 帰途ソレヲタシテ直昇金ヲ二千円程借り
サセ直昇ノ方モ方付ケルコトニシタイト思ヒ明日上京ノ上児玉氏ニ運動シテ貰フ予定
帰宅後川辺君ニガソリン代明日協会ニテ借りサセルコトニス

▲▼79ページ▲▼ 昭和7(1932)年3月14日(月)

天気 曇り後雨

上京 ガソリンノ金作ラセル爲メ川辺君ト上京 局ニ行キアプロノ堪航証ヲ貰ヒ飛行館ニ行キ川辺君ノ爲メ同道シテ総務理事ニ会见 三百円貸シテヤツテ貰フコトヲ依頼ス 時間オソク明日ノコトニナル 大丈夫ラシカッタ

▲▼80ページ▲▼ 昭和7(1932)年3月15日(火)

天気 晴

在所 鈴木ヲ岡田ノ羽布其他ライジングサン百九十円入金ノ爲メ上京 九十円ニ鈴木ノ分ヨリ百円ニ東京ニテ川辺ヨリ受取ルコト 無事入金

▲▼81ページ▲▼ 昭和7(1932)年3月16日(水)

天気 晴

今日モ鈴木ヲ上京サセル 佐野へ八十円渡シテープ用木綿糸ヲ買ワセル
グライダー単價表ヲ作り二月分決算ヲナス 百八十四円余貸方多ク合ワズ 明日ノコト

飯田本日コウガン炎ノ一部手術 七円四十銭トノコト 明日支拂ヒタシトノコトニテ約束ス 国へ種物トシテ明日自分ヨリ送金方依頼スルコトニス

▲▼82ページ▲▼ 昭和7(1932)年3月17日(木)

天気 晴

上仲昨日寒気ガスルト云ツテ居タガ今日ハ休ンダ 鈴木ヲ飯田ノ醫者ト宗里ヘヤルツヒ
デニ見舞ワセル 小遣ガナサソウデアッタノデー円オイテキヤル様ニ云フ
正午竹崎、衣笠、有馬氏來 大坂少年號ノ十年式ノ見積書ヲ提出 廿五日迄ニ半金
デモ必ズ送金スルトノコト 其他空輸ノ件練習ノ件等打合せテ三時帰ル 自分上京
飛行館ニテ兒玉氏ト会见。山本氏へ行ツテ見テハドウカトノコトニスグ行ク 青柳ニテ菓
子ヲ求メル 奈良原氏ニ會フ 昨日松戸ノ裁判所ノ模様ヲ聞ク 來月十五日迄ニ兒玉
氏其他関係者ト相談シテ内入デモスルコトニナツテ居ル由 兒玉氏ハ不賛成デアッタ
山本氏電話ノ金トシテ四百円出シテ呉レルコトニナル 廿二日十時第一銀行ニテ會フ
約束ヲス。平松氏ニ行ク 十年式ノカワリニ二三攻撃ヲ整備シテ呉レトノコト 明日サ
ガシテ見テ返事スルコトトス。

工藤写真館ニヨリ紅梅亭ニテ夕食後帰ル

早弓君へ見積書出ス。鎌田君來場 竹崎君ニ引合ス

▲▼83ページ▲▼ 昭和7(1932)年3月18日(金)

天気 晴

正午ヨリ上京 飛行館局ニ堪航証ヲ返納 森氏ニ報告ヲナシ、馬詰機ノコトニツキ課長ト西川氏ト會見 馬詰ノ云フ様ニ課長カラ借りテ居ルナドハ、ウソデアツタガ、後飛行館ニア會ヒ二百円ダケ書替テヤルコトニス

児玉氏ニ會フ 木村氏ノ方へ出ス、グライダーノ予算書ヲ渡ス 夕食後平松氏訪問 一五式ヲ欲シイトノコトデアツタ 尚二三日中ニ津田沼ニ行クトノコト 其上二三カ一五ニ確定ノコト

▲▼84ページ▲▼ 昭和7(1932)年3月19日(土)

天気 晴

鈴木ヲ千葉ノ水産試験場ヘヤル。アトヨリ返事スルトノコトニテ金ニナラズ 奈良原氏來 鈴木モ三十円ホシイトノコト 余リ他ノ工場員トノ釣り合ガ取レナイガイクラカ作ツテヤルツモリガ出來ズ 早弓ヨリ十円取り五円ツ、分ケル内ニ、十銭ノ金モナク困ル 十年式調子悪シク練習中止

クラブ員ト相談 馬詰ノアブロ機買取ツテヤルコトニ方針ヲ定メル
クラブ理事会廿五日ノ通知ヲ發ス
清平來

▲▼85ページ▲▼ 昭和7(1932)年3月20日(日)

天気 晴風強

午前中庭ノ手入レ種マキヲナス
午後休養
夜清平ノ爲メニ鶏ヲ一羽コロス

▲▼86ページ▲▼ 昭和7(1932)年3月21日(月)

天気 晴

終日在所 清平午後帰ル。渡辺春雄君來 晝食ヲ共ニス 清平ト共ニ帰ル。午後少シ眠ル 昨日少シ百姓ヲヤッタノガ今日ハ身体中痛ンデ何ニモ出來ズ歩クノサエ困難デアツタ

▲▼87ページ▲▼ 昭和7(1932)年3月22日(火)

天気 晴

昨夜小説ヲ讀ミナガラ午前四時ニ及ビ今日ハ眠カッタ 上京 十時約束ノ通りカブト町ノ第一銀行ニ行ク 十分遅レテ山本氏來 四百円借りル
研究所ヘ行ク 田中先生ニ會ヒ清平入學ノ件ニテ更ニ事務官ニ照(ママ)介サレテ依頼ス。然シダメガ八分ナノデ清平ニハ受檢ヲサセルコトニシ早大ヲ受ケルトノコトニ取アエズ十円渡シテ居ク

八州電業ヘ金ヲ支拂ヒニ行ツタガ現品他(融通シテナイトノコトニ支拂ワズスグ代品ヲ作り送ル日ヲキメテ知ラセル様ニシテ帰飛行館ニ行キ上村氏ニグライダー予算書ニツキ説明。兒玉両氏ト夕食ヲ銀鳥デナス 兒玉氏二十円渡ス オソクナリ十一時帰宅 自動車ヘ五円支拂

▲▼88ページ▲▼ 昭和7(1932)年3月23日(水)

天気 晴

上京 木材ノ買入レヲナシハケヲ求メスグ帰ロウカト思ツタガ平松氏ニ會フコトヲ思ヒ出シ佐藤ニヨリ局ノ井上氏ニ電話シテ一三攻撃機ノ事ヲ聞キ程度ヨキ由ニ平松氏ニ右ノ話シヲナス 拂下ヲ待ツコトトシテ、拂下ケ得ラル、ヤ明後日返事スルコトニシテ、スグ帰リタカツタガ上村氏ノ返事ヲ聞キタクテ飛行館ニ行ク 兒玉氏ニ會ツタガ上村氏妻君重態ニテダメ

奈良原氏ニ會フ 五円渡ス 同道シテ帰ル

▲▼89ページ▲▼ 昭和7(1932)年3月24日(木)

天気 曇リ

鈴木ヲ局ヘ鈴木ノ金受取リニライジシクサンヘ百円持参 ガソリンヲ送ラセル様ニ 尚日酸(サン)ン代弁ノ値段ヲ協定ニヤル

終日在所セシモ何事モ手ニツカズ
ライジシクサンヨリ成瀬氏來場 丁度行違ヒナリシモ事情ヲ話シ諒解ヲ求メ送荷ヲ依頼シテ返ス

▲▼90ページ▲▼ 昭和7(1932)年3月25日(金)

天気 晴

クラブ理事会ノ爲メ上京。クラブ新機製作資金ノ相談ヲシテ貰ツタガ結局何ンモマトマフズ

出席徳永、安満、児玉、奈良原、衣笠、高崎、ノ諸氏 徳永氏ヨリ千葉市長アテ都市研究会ヨリ千葉市ニ飛行場設置ニ関スル問合せ状ニツキ自分ニ意見ヲ聞カレタ。ソレカラ千葉海岸埋立問題起リ、之レガ運動ヲ初メルコトニナル
衣笠氏ヨリ有馬氏ノ手紙ニヨリ今月中ニ取引スルトノコトノ由

◆▼91ページ◆▼ 昭和7(1932)年3月26日(土)

天気 晴

昨夜大蔵カラノ招電ニヨリ行クカ止メヨカトマヨツタガ金ノ都合ガツイタノデ行クコトニシト時半工場ヲ出ル 一時立川着 丁度ロックヒードヲ大蔵ガ盛ニ練習中デアツタ 終ツテ軽飛行機ブレゲー式ヲ大蔵初メテ飛ブ 少シモ心配気ガナカッタ ロックヒード車輪ノ入レタ時ノ最大三百六十キロニ及ブ由。夕方福地、和田氏來 共ニ帰京 大蔵ノ馳走デ布施、福地氏ト天金デ夕食 十時ニナツタノデ大蔵ノ宅ニ泊ル

◆▼92ページ◆▼ 昭和7(1932)年3月27日(日)

天気 風曇リ

七時半起床 牛肉ヲ土産ニクレタ 朝食後大蔵ノ好意ニ心持チヨク池ノ端ニ出テフト 発明博ヲ見ル氣ニナリ多少参考ニナルモノモアツタ
早大ノテレビジョンノ実演ヲ時間ヲ待ツテ見ル 活動写真デ説明ガアリ少シワカル 実演ハ口演者ノ頭ト身振り其他ハ文字等デアツタ 文字ナドハハッキリ出ルガ顔ナド大写真ニカ、ワラズ、ハッキリシナカッタ 大キサハ二尺角位ノ大キサノ中ニ現レタノデアツタ 午後奈良原氏來 明日青梅へ行ク由 式円渡ス コレデアスノ上京費ガナクナル

◆▼93ページ◆▼ 昭和7(1932)年3月28日(月)

天気 風雨

鈴木廿五円ヲクレナイトテ文句ヲ言ツテ居タ 馬鹿ナヤツダ 他ノモノノ事ヲ考ヘテヤルガヨイ

二月份決算マダ出來ズ

三時半ヨリ徳永氏ヲ訪問ス 飛行場埋立請願ニ関スル件打合セ 昨日奈良原氏持参ノ願書ヲ見セ大体原文ノマニ千葉ト航空局ノ歴史的關係ヲ書クコトトス。夕食ノ馳走ニナリ帰宅 今日ハ気分ガヨカッタ 帰宅シタラ有馬氏ヨリ船橋九八銀行ニテ千円取レトノ入電アリタリ

今日豊馬氏ト約束デアッタガ行ケナイノデ明日ノコトニ打電シテ居ク

▲▼94ページ▲▼ 昭和7(1932)年3月29日(火)

天気 晴曇リ

上京 局へ検査ヲ頼ミニ行ク 玉宮氏一人來月早々ニ依頼シテ飛行館ニ行ク
津田沼ヲ出ル迄ハ非常ニ温デアッタノニ押上ニツクト非常ニ寒カッタ 今迄雪ガ降ツテ居
タトノコトデアッタ
夕方犬坡ヨリ電爲替ヲ千円來タル由 銀行時間間ニ合ハズ

▲▼95ページ▲▼ 昭和7(1932)年3月30日(水)

天気 晴

朝千円取りニヤリ内三百円馬詰分ニ受取りアト所員ノ一月分迄全部終リ米屋若干
其他ノ支拂ヒヲナシアト宅ノ方ニハ一錢モ残ラナカッタ
馬詰三百円渡ス アト百円ヲ四月上旬 二百円ヲ四月中譲リ渡シ書ヲ取ル 補助金
依頼状ハ最初氏ニ渡シテアルノデ 堪航アト百円貰ツタ時ニ書キ替エテ渡ストノコトニ承
認ス 以上廿九日ノ記事ナリ
三十分 終日在所

▲▼96ページ▲▼ 昭和7(1932)年3月31日(木)

天気 晴

在所

▲▼97ページ▲▼ 4月

作業促進ノ件
グライダー促進ノ件
羽田進出準備ノ件
軽飛行機資金ノ件

▲▼98ページ▲▼ 昭和7(1932)年4月1日(金)

天気 晴

鈴木ヲ上京 検査ヲタノミニナル 例ニヨツテキマラス 明日自分デ行クコトニス
今日八大坂市義勇號ノ写真ヲ取り直シ午後焼付ヲ終リ木下氏ニ竹崎迄届ケテ貰フ
宗里手形第一回分問合セル 昨日入金シタル由

◆▼99ページ◆▼ 昭和7(1932)年4月2日(土)

天気 晴

春暖ノ日 春ラシイ日

上京局ニテ玉宮氏ニ検査日取りヲタノム 火曜カ水曜ニナル 月曜更ニ連絡セヨトノ玉
宮式イヤニナル 西川氏ニ馬詰ノ件ヲ話シ検査ノコト及補助金ノコト依頼ス。飛行館児
玉氏ニ會フ 晝食ヲ共ニス 十銭ノライスカレー 安イコトニ驚イタ
豊間氏ニ電話ス 二時來 山崎氏來 照(ママ)介サレ広告飛行ノ件大体條件キマル 明
日飛行場へ來ル由
四時飛行館ヲ辭シテ上野新駅ヲ見テ例ノ安イ肉ヲ買ツテ五時四十分ニテ帰宅 途中
気分悪クナリ困ル 入浴夕食後ヨロシ

◆▼100ページ◆▼ 昭和7(1932)年4月3日(日)

天気 晴

終日在所

午後清平來 早稲田へ這入レタラ百円程 這入レナケレバ十日迄三三十五円入ルトノコ
トデアツタ

◆▼101ページ◆▼ 昭和7(1932)年4月4日(月)

天気 曇リ

上京 局検査ノ件明後日來ルコトニキマル
飛行館ニテ児玉氏馬詰氏ニ會フ。四時半交信社山崎氏來 豊間氏モ來 協会應接室
ニテ飛行契約ヲナス 三百円保証金受取ル

◆▼102ページ◆▼ 昭和7(1932)年4月5日(火)

天気 曇

鈴木ヲ上京サセ豊間氏へ三十円謝礼ヲナス ライジンクサンへ内金持參ス
昨日ノ契約金ハ取ツテ居ク予定ナリシモノレガ出來ズガソリン代ニ取ラレル

▲▼103ページ▲▼ 昭和7(1932)年4月6日(水)

天気 晴

駒林堀井氏來場 馬詰アブロ受検完成 川辺アブロ内部機発共相済ミ早弓一三水上
機体羽布張替ルコトニナル 発動機見ラレズ

鈴木ライジンクサン内金持參サセル 尚飛行協会奨励金ニ関シ会合アリ 奈良原氏
田中春雄自分代鈴木上京セシム

▲▼104ページ▲▼ 昭和7(1932)年4月7日(木)

天気 晴

ウラ、カナ春日和 鈴木菊ヲサソツタガ寝坊デオクレ自分先キニ行ク 金町ニテ會フ
正午迄二下見ヲ終リ打合セヲナシ坂下ニテ晝食後二時半ニテ帰ル

鈴木明日ノ検査ノコト ライジンクサン計算間違ヒ訂証(ママ)等ニ上京ス

▲▼105ページ▲▼ 昭和7(1932)年4月8日(金)

天気 雨

終日雨ニテツヒニ検査官來ラズ

鈴木横須賀へ入札ニヤル

平松氏明日熱海へ飛行準備ノ爲メ來場 一名貸ス

▲▼106ページ▲▼ 昭和7(1932)年4月9日(土)

天気 晴

埴山ノ入院手續キノ爲メ鈴木千葉へ行ク 午後帰ル 手續キハ病氣ノ事務所デヤツテ
呉レル由 保俚(ママ)署ノ方へ行カナカッタ由。ヤスク取ツテ來ル

奈良原氏來 汐ノ満干表ヲ持ツテ來ラレタ 今日ハ金ハ入ラナイトノコトデアッタ

森早川両氏來場 門松、野呂、木下三名ノ十年式拡張ヲ終ル 田中春アブロ拡張ヲ
中止ス。理由ハ自分ニ無断デ届ヲ出シタ爲メ手違ヒヲ生ズ

今日晝前ヨリ風強ク黒沢アヤフクアブロヲ轉フクサセル處デアッタ

吉田関口除隊ニナリ夜挨拶ニ來 明日流山飛行ノ打合セヲナス

弘益社水野君十二日ニ二回 外二、三回飛行アリトテ來タガ豊間氏ヲ介シ交信社ノ
諒解ガツケバヤルコトニス

▲▼107ページ▲▼ 昭和7(1932)年4月10日(日)

▲▼108ページ▲▼ 昭和7(1932)年4月11日(月)

天気 晴後曇リ

上京 明日飛行ニツキ警視廳ノ許可ヲ取ル爲メ川崎へ行ツタリ飛行館ニ行ツタリ今日ハ大活動ヲシタ

早朝大崎ニ豊間氏ト會ヒ局ニ行キ弘益社ニヨリ打合せ 取アエズ先キノコトハ今回ノ五回ヲ終ツテカラト云フコトニシテヤルコトニシ、交信社ニモアイサツニ行ク 山崎氏病氣ノ爲メ會ワズ

▲▼109ページ▲▼ 昭和7(1932)年4月12日(火)

天気 雨

風強ク後チヤム

門松菊池アブロニテ上京 二回飛行後五時過ギ帰ル ヤット安心ス

鈴木モ上京サセル。ガソリン向ニテ買ツテ入レサセル

ライジンクサンヘ取アエズ五十円入金。義勇飛行ヘヤル。

本記事ハ十三日ノ分ナリ 夜馬詰來油ル

十二日夜馬詰來 泊ル 朝義勇ヘ打電セシモ返ナシ 本日金來ル筈ノ處

▲▼110ページ▲▼ 昭和7(1932)年4月13日(水)

天気 晴

馬詰終日待ツ ツヒニ金來ラズ 夕食中有馬氏ニテ明日持参スルトノ入電アリ 馬詰ニ

十円鈴木ヨリ借りテ貸ス

駒林畠山氏來 クラブアブロ完成終ル

▲▼111ページ▲▼ 昭和7(1932)年4月14日(木)

天気 晴

正午有馬氏來場 千円受取ル 早速支拂フ處ヘ支拂ヒ五百円ヲ銀行ヘ入レル 五年以

來初メテデアッタ 竹崎君ツヒニ來ラズ 三百円ノ精算出來ズ。上京 馬詰九十円渡ス

筈ノ處百円呉レトノコトニ、百円渡ス。岡田氏ハ百円ノ處八十円渡ス。

▲▼112ページ▲▼ 昭和7(1932)年4月15日(金)

天気 曇雨

ライジンクサンへ鈴木ヲヤル

有馬竹崎夕方方來 三百円呉レトノコトナリシモ今日期限ノ神奈川號殘金ハ廿日迄待ツテ呉レトノコト ソレハアマリ勝手過ギル。ソレニシテモ今日ライジングサント電話屋八州へ百六十円現品引替ニ渡シタノデ銀行殘九十円ヨリナクヤレナイノデ事ワル 有馬氏ヨリ借りタラヨカロウト進メ請求書ヲ書イテ呉レトノコトニ渡ス
小僧一名廿日ヨリ來ルコトニキメル

▲▼113ページ▲▼ 昭和7(1932)年4月16日(土)

天気 晴

上京 銚定ニテ買物 佐藤ニ注文ニヨリ局へ検査飯沼アブロ鈴木アブロ分頼ミニ行ク 火曜日定マラズ月曜更ニ聞合スコト

玉宮式、飛行館ニテ奈良原児玉氏ニ會フ 沢柳氏ヲ電話デ來テ貰ヒ曙ニ行キ將來工場へ來テ貰フコト 差當リ顧問技師トシテ車馬運賃ヲ出スコトニキメル 高山近々研究所へヤルコトニ打合せス

飛行館ニ帰ニ清平ニ會フ 十円渡ス 銀坐ヲ散歩シキリンニ這入ル 児玉氏笠松氏ニ會フ 七時ニテ帰宅 鈴木伊ニ會フ 流山ヨリ今月中ニ飛行ヲヤリタシトノ事

▲▼114ページ▲▼ 昭和7(1932)年4月17日(日)

天気 晴

ヨイ日曜デアッタ

朝宗里へ流山ノ件ニテ行キ。ハラシユターノ値段ヲ二百円 手取り百五十円、飛行機一台百円トキメテ帰ル 明日飛行場ニ見ニ行クコトヲキメル

吉村君來 二回練習ス 晝食中上野駅地下食堂ノ氣球広告流レ來リ所員之レヲ取り警察ヨリ電話ニテ知ラス タ方取りニ來ル 元弘益社ニ居タ人デアッタ 五円ノ礼ヲ置イテ行ツタ

▲▼115ページ▲▼ 昭和7(1932)年4月18日(月)

天気 曇リ

朝流山住職來 豊田君ト木下君見ニヤル

菓子祭ニテ門松菊池アブロニテ上京

▲▼116ページ▲▼ 昭和7(1932)年4月19日(火)

天気 曇り風

門松昨夜帰り今日更三行ク 飛行機ハ第一二預ケアリ
風強ク飛行困難ナリシ由

▲▼117ページ▲▼ 昭和7(1932)年4月20日(水)

天気 風雨

十二時頃辻本島山氏來 風強ク試飛行出來ズ内部検査ダケニテ終ル
四時和泉屋三行ク 海岸ト海ノ使用料ヲ今年カラ拂ツテ貰ヒタイトノコト 海ニ組合へ
百円 海岸八区へ三十円トノコトニ承認ヲ與へ後雑談 埋立ノ件ヤラ今日迄ノ苦心談
大坂ノ出資関係等ヲ話シ煙ニ巻ク
今日電話ノ柱立テ終ル
鈴木上京サセ清平三三十円渡ス
安岡ヨリ夜旅費不足三十五円タノムトノ入電アリ 明朝送ツテヤルコトトス
正午過ギ風ノ中ニアブロ帰還ス 無事
電話架設工事開始

▲▼118ページ▲▼ 昭和7(1932)年4月21日(木)

天気 晴風強

北西ノ風強ク今日モ練習休
上仲今日ハ早ク初メテ出勤ス
埴山午後退院ニテ帰ル
午後川辺鈴木菊ヲ呼び飛行場設置請願ノ願書ガ出來タノデ見セテ明日調印シテ貰
フコトトス
海岸使用料ヲ本年カラ支拂フニツイテ今後幾分ヅ、貰フコトノ承認ヲ得。貸金及今後
ノ仕事代金ニツキ貸金六川辺ノ方ハ今ノ補助金ノ外ニ大体六月中ニ終ル様ニスルコト 鈴
木ノ方ハ毎月最低百円ヅ、入レルコト 今後ノ分ハ四百円以下ノ仕事ハ出來上リ月ニ半
額残りヲ補助金ノ出タ時ニ計算終ルコト 四百円以上ノ場合ハ其月三分ノ一 翌月三
分ノ一 最后ニ三分ノ一 其間ニ奨励金ガ出タノハ差引スルコト
以上決定 久シイモヤ、ガ取レタ様ナ氣ガシタ

▲▼119ページ▲▼ 昭和7(1932)年4月22日(金)

天気 晴

上京 局ニテ検査打合セ月曜日ト決定 千葉飛行場設置請願書ヲ技術課長ニ見セ補助金問題ニツキ聞ク 今年度予算三千五二十円シカナイトノコトデ之レデハ今年ハ更ニヘル。試作奨励金ノ方八千円シカナイトノコトデアッタ。後経理課長ニ會ツテ請願書ニ渡ス。奨励策ニツキ自分ノ新造機奨励法ヲ述ベル 尚今在ノ學校、工場ノ整理ニツイテモ一席述ベル シゴク同感トノコトデ彼レノ話シモ聞ク。自分工場ニ関スル前課長ノ件モヨク知ツテ居ルトテ同情ヲシイロ勿アリ

安藤藤原ニ會フ 小栗ニモ。交信社ニ行キ金沢ノ飛行ニツキ打合セ。クラブニ行キ、銀製模型ニ個注文ス 佐藤商店ニテ清平ニ會ヒ帰宅

▲▼120ページ▲▼ 昭和7(1932)年4月23日(土)

天気 曇リ

今日羽田ノ東日飛行機披露ニ行ク予定ガ義勇ノ有馬氏ヨリ昨夜電報ニテ今日行クカラトノコトニ中止シテ待ツ 正午來。佐々木氏ノ感情ヲ害シタコトカラ飛行中止トナリ爲メニヨタ新聞ニタ、カレ閉口シテ居ルトノコト 対策ト云ツテモ飛ンデ行キサエスレバヨイノデ、金銭上ノ問題ハ二千円機体代金其他未拂分ニ於テ諸経費ノ見積書ヲ渡ス。谷津遊園ニテ晝食ヲ出ス
鈴木伊太郎ニ対シ上野ヨリ排セキノ申出アリシモ慰撫シテ居ク

▲▼121ページ▲▼ 昭和7(1932)年4月24日(日)

天気 雨風

電話取付終リ開通ス

▲▼122ページ▲▼ 昭和7(1932)年4月25日(月)

天気 晴風

辻本畠山検査官來場セシモ風雨ノ爲メ飛行出來ズ内部検査ダケニテ終ル
夕方泉屋ヨリ電話ニテ川辺君ヨリ飯沼、鈴木、川辺等モ海岸使用ニ参加セシメ共同ニテ貸サレタシト申込ミタル由 自分ノ立場ト彼レ等トノ立場ヲ一應述ベテ反対意見ヲ云ツテ居ク 川辺ノ奴不ラチナコトヲ初メ居ッタ

▲▼123ページ▲▼ 昭和7(1932)年4月26日(火)

天気 晴

久シ振リニ練習アリ 猛烈ニヤル
義勇號午後一時十五分發 木下操縦竹崎同乗出發 無事大坂ニツク。ガソリン代事
傳ヲ依頼ス

▲▼124ページ▲▼ 昭和7(1932)年4月27日(水)

天気 晴

練習アリ ケイシ廳ノ吉村君來。單獨飛行ス
クラブ員ノ練習ニツキ、豊田、吉田、ト意見ヲ聞キ受檢迄ノ練習時間ヲ定メル 新入
生カラハ單獨四十時間セネバ願書ヲ出サセナイコトニス 古イ人ダチタケ今迄ノ習慣モ
アルノデ時間、タン縮ヲ見トメルコトニシニ一班ニ分ケテ時間ヲ定メ皆ヲ呼ビ話シス

▲▼125ページ▲▼ 昭和7(1932)年4月28日(木)

天気 晴

廿九日ノ記事

川辺ノ方夜業シタシトノコトニヤラセル 十時半迄ヤツテ居タ

▲▼126ページ▲▼ 昭和7(1932)年4月29日(金)

天気 晴

本記事ハ昨日ノ分

局ノ檢査ト平松ノ金受取りライジックサン注文ニ鈴木上京サセル 平松不在 局土曜
日更ニ聞合スコトトノコト

朝工場ニ行ツテ見ルト皆カタマツテ居ルノデ佐藤、上野門松ト会見聞ク 先般四月ニハ
全部金支拂ヒ出來ル旨話シテ居タコトガ昨日ノ支拂日ニヤレナカッタコト、鈴木ノ事等
デアツタガ話シツケテ引取ツテヤル 太田午後更ニ話シアリ 諒解セシム
風アリ練習休ミ クラブ員全部發動機手入レ
飯田ノ件飯田母へ手紙出ス

▲▼127ページ▲▼ 昭和7(1932)年4月30日(土)

天気 晴

鈴木局トガソリン、平松氏へヤル 三時頃帰ル 鈴木ヨリガソリン代入 合計シテ工場
員二十円ヅ、ヤル 川辺今夜モ夜業サセテ呉レトテ十時頃迄ヤツタ
奈良原氏來場 川辺ノ件聞カレタノデ委シク話ス

昨夜安岡帰りタル由話シヲ聞ク。三嘴ノ金出來ズ 新品ローン三台百円デ貰エル約束ヲシテ來タカラソレデ入レタイトノコトデアッタ。ガ金ヲ先キニ送ラネバナラヌコトト運賃税金等ノ關係上イツニナルカ分ラナイ 外ニシン海鉄道会社デ警備ノ爲飛行機ヲ置キタイトノコトデアッタガコレモ飛行機モ人モコチラカラ持ッテ行ケバ何ントカシテ呉レルトノタヨリタナ話シデ一切今後ソシナコトヲヤメ、専心クラブノコトヲヤルナラ毎月一定ノ生活費ヲノゾキ工場へ送金スルコトトセバ三嘴ノ練習費ヲ立替テヤルコトトス。ソレニア話シ極リ自分他念ナクヤルコト
羽田行キニツキ上野ト相談ス

▲▼128ページ▲▼ 5月

羽田進出実現ノコト
金ノ回収ヲハカルコト
グライダー進メルコト
軽飛行機進行ノコト

▲▼129ページ▲▼ 昭和7(1932)年5月1日(日)

天気 晴

五月晴レ 暑イ位ノ日デアッタ

終日三月分ノ決算ニカ、ル 鈴木モ半日出デ四月分工賃計算出來ル
川辺機明日間ニ合ヒソウニモナイ

▲▼130ページ▲▼ 昭和7(1932)年5月2日(月)

天気 風晴

辻本島山氏來 飯沼アブロ鈴木アブロ受檢 鈴木機合格 飯沼機。ヘラトカーブレーター
取替ルコト

▲▼131ページ▲▼ 昭和7(1932)年5月3日(火)

天気 晴

ライジシクサンヲ目的ニ上京 其他二三用件ヲ終リ午後一時ヨリ三時半迄同社ニア交渉 従前通り取引ヲ繼續スルコトニ決定 明日十カントゞケルコトニシテ帰ル

高橋英二君ノ頼リ品ニツキ青木氏飛行館ニ來 買ッテヤッテ呉レトノコトニ評價ヲ第三

者ニシテ貰フコトヲ頼ム

▲▼132ページ▲▼ 昭和7(1932)年5月4日(水)

天気 晴

辻本松浦氏來 工場トシテ飯沼ノアプロ訂正後ヲ見テ貰フ 合格 アトハ川辺君ノアプロト甲三漸クニ二台共終了ス

▲▼133ページ▲▼ 昭和7(1932)年5月5日(木)

天気 晴

五時半起床 六時半出 川辺君ト東京道同道ス 自分ハ所沢ニ直行 島村ニテ一服ス 店ヲ大変広ゲテ大分樂ラシイ 人ノ事デモ嬉シイコトデアッタ。
マグネトノ分解十一時頃終ル 児玉氏関谷氏ト來 支部ニ行カレル 自分等ハ皆ト晝食後帰京 鳥屋金龍ニテ児玉関口氏ト會ヒ後チ関口氏工場ヲ見学シ見本ノ本ヲ貰フテ帰ル

▲▼134ページ▲▼ 昭和7(1932)年5月6日(金)

天気 晴

昨夜中南風強ク次第二弱クナル 終日熱ツ過ギル程温カデアッタ。鈴木ヲ千葉ノ本金庫カラ局ヘヤル。ベンツノナットヲ取りニヤル
番田早川両氏來 田中アプロ拡張ノ爲メ、鈴木ニテ三等一人アリ
奈良原氏來 奨励金問題ニテ昨日新総務理事ニ會ツタ處初耳デアッタトノコト 十四日ニ確答アル筈ノ由。関口ヨリ高橋ヘノ五百円請求アリ 右ノ話シラシテ延期セシム
東亜ノ女練習生ニツキ少女クラブヨリニ三人來客アリ 中ニ宮尾しげを君居リ十数年振りニ會フ

▲▼135ページ▲▼ 昭和7(1932)年5月7日(土)

天気 晴

朝散髪ヲシテ出カケテ居ル處へ谷村氏來 十二三日頃見学シタシトノコト 同乗料ヲ三四ニ負ケル 話シガ永クテ十一時ニナリツヒニ航空局ノ用件フトナル。スグ羽田ニ直行 西田ニ會フ 須田君ノ親戚ノモノ小僧ヲ一人使ツテ呉レトノコトデアッタ
硝子工場借入レニツキ植田又四郎君ニ會イ様子ヲ聞ク スグ先方ノ大野氏ニ會ヒニ行ツテ呉レタガ不在 明日會ツテ返事スルトノコトデアッタ 建物ハ鴻池組ノ所有ニナツテ居

ツテ産業組合組織デ政府カラ補助ヲ貰ツテ居ルトノ事デアッタ。西田デ夕食ノ馳走ニナリ東京ニテ飯野氏ニ電話ニテ二十円迄ダケ支拂フコトヲ約ス
東亜ノ飛行機マグネトガ悪クナッタトカデ帰ツテ見タラマダ夜業シテ居タ 十二時頃迄カ、ツタラシイ

▲▼136ページ▲▼ 昭和7(1932)年5月8日(日)

天気 曇後雨

洲崎デ第一飛行學校 多摩川デ東亜ノページェントアリシモ雨ノ爲メ洲崎ノ方ハ中止
東亜ノ方ハ終ツテ來タ三時半頃雨ヲツイテ二機帰ル

▲▼137ページ▲▼ 昭和7(1932)年5月9日(月)

天気 曇リ

鈴木ヲ局ヘヤル クラブノ受検願書工場アブロノ名儀(ママ)変更、奨励金申請書ノ調査等。サンソ器具購入佐藤金支拂ヒト注文

朝飯野氏來 二十円渡シ明日二十円渡シテ打切ルコト

奈良原氏來 十円クラブヨリ旅費トシテ提供 安岡野田町出張飛行ノ件
今夜ヨリ又一週間夜業ヲヤル

▲▼138ページ▲▼ 昭和7(1932)年5月10日(火)

天気 晴

終日在所

▲▼139ページ▲▼ 昭和7(1932)年5月11日(水)

天気 晴

上京 局ヘ西川氏ニ佐藤失言問題ニツキ詫ニ行ク 西川氏不在 課長ニ詫ビル 課長知ラズ本人ノ畠山氏ニ詫ビラ言フ 極リ悪ルソウニシテ居タ

アンザニー發動機ノ件確定セリトノコト 三台ヲキメタガアトニテ五台ニシテ居ケバヨカ
ツタト思フ 後チ電話デタノムコトトス。飛行館ニテ片岡ニ會フ。久松氏ヲ見舞ニ行ク。
大分ヤセテ居ラレタガ、接シテ居ルト氣持ノヨイ人ダ。大蔵ヲ日ニ問ヒ入江君ト共ニ
夕食ノ馳走ニナル 大蔵宅ニ泊ル

▲▼140ページ▲▼ 昭和7(1932)年5月12日(木)

天気 曇雨

九時半大蔵ノ宅ヲ出テ佐藤ニ立寄りパイプノ發送方タノミ、沢柳氏ニ電話ヲカケテ
帰宅ス

雨止ミタレドモ風出テ練習ナシ

十七日試験ノコトヲ告ゲMD發動機付替ヲ命ズ

▲▼141ページ▲▼ 昭和7(1932)年5月13日(金)

天気 晴

鈴木ヲ局ト買物ニヤル ライジンクサンガンリン請求サセル

朝羽田ヘ電話スル 西田ニ植田君ノ返事ヲ聞イテ電話カケテ貰フ様タノム

猿田ヨリマグネトヲ返シテ來ル

鈴木菊山形飛行ノ爲メ川辺三型ニテ出發 無事到着ス

メツカチノ植木屋川辺ニ頼マレタトテ高級盆栽ヲ持ツテ來ル 買ワナカッタノデ一鉢ダ

ケ置イテ呉レトテ、サツキヲ一ツ六円五十錢ニテ買フ

大口北海道ヨリ帰ル 東京へ行クトテ立寄り

▲▼142ページ▲▼ 昭和7(1932)年5月14日(土)

天気 曇

奈良原氏來場 五円渡ス

夜上田光道氏ヨリ電話アリ 明日ニ台來テ呉レトノコトデアッタガ一台ダケニシ豊田

ヲヤルコトニス 飛行機ニ七十円 操縦士ニ弍十円呉レトノコトデアッタ

▲▼143ページ▲▼ 昭和7(1932)年5月15日(日)

天気 晴

予報ガ悪ルカッタノデ心配シタガ上天気ニナル 五時半稲田ト共ニ出發 八時半野田

學校裏ニツク 地均シナドサセル内十時二十分ニ機見エ風向キモ丁度南ニ變リ無事着

陸。写真ヲ撮リ行列ヲツクツテ寺ニ行キ満州戦死者ノ慰靈祭アリ。安岡木下其間牛

島ノ藤ヲ見ニ行ク 宗里氏來 晝食後分会長ヨリ五百円水引カケタノヲ受取り領収

書ヲ出ス 二時半木下機出發 永山嬢。パラシュートヲ丁度學校ノ庭ニ降リル 少シ低ク

ナカッタノデアツケナカッタガ無事。安岡次イデ高等飛行ヲ行ヒ帰ル。自動車ヲタノミ

ズット帰り宗里工場勘定ヲ全部差引残スグ持参サセル

上田ノ方予定通り金呉レナカッタ。來ル筈ノ練習生モ今日ハ來ラズ 佐野ノ手取り予

算通り

▲▼144ページ▲▼ 昭和7(1932)年5月16日(月)

天気晴

明日黒沢飯田ノ受検ノ準備ヤ手配ヲ定メ上京ス マグネト―二個柳生ヘタノム 五六
十円カ、ルトノコト

クラブニ行キ奨励金問題ニテ協会ト要求ノ間ヲ取り七百五十円トシ養成金ノ方ハ経
営者デ辭退スルコトニテ、ダ協案ヲ出シ新総務理事ト会見 理事会ニ計ルコトトナツテ
分レル

午後五時ヨリ模型ヲオオ協会理事会ニ出ル 八時過ぎ夕食ガ出タ 晝喰フ暇ガナカッ
タノデ腹ガペコ、ニナツタガ先キニ失礼シテ飯沼ニ行キサルノ翼ダメトノコト、マグネト
―ノコト、田中春雄ノコト、金ノ事等ヲ話シ又酒ガ出タガ余リノマズ十二時床ニ入ル
一時頃眠ル

▲▼145ページ▲▼ 昭和7(1932)年5月17日(火)

天気晴

三時頃目醒メテカラドウモ胸ノ工合ガ悪イ 久シ振リデ西式ヲ五百ヤツテ見タガナラ
ラナイ 朝メシハヌキニシ五十円受取り代リノマグネト―二個賞ヒ品川駅ニアツケ羽田
ニ行ク 途中余リ腹ヲヘラセテモ悪イト思ツテ喫茶店ニ這入ツテコーヒート菓子ヲ半分
タベル ムネ悪シ 植田君ト同道シテ東京硝子ノ大野氏ニ會ヒ借用方及使用ノ道ナド
話ス 一両日中ニ相談シテ居クトノコトニ二十日更ニ聞キニ行クコトニキメテ東日ニヨリ
飛行館ヘ帰ル。益々工合悪ルク、スグ帰宅ノ予定ノ處津田沼カラ電話ヲカケテ呉レト
ノコトデアッタトテ電話カケルノニ二時間カ、ル 其間柳生ヘ部品持参シタリシテ三時
過ぎ漸ク帰レルコトニナル 用件ハベンツノ廻轉計ノ部品ノコトデアッタ 瓦斯電ヘ電話シ
テ三時四十分ニ乗ル。山崎氏カラ貰ツタソワラーノ翼圖面ヲ苅駅賣店ニワスレテ帰ル
電話デ聞イタラアッタノデ駅案内所ヘ預ツテ貰フ
帰宅シタラ平松氏來テ居タガ益工合悪ク床ニツク。夕方長サンニ來テ貰フ 何ンデハナ
イラシカッタガ、ムネガクルシカッタ

▲▼146ページ▲▼ 昭和7(1932)年5月18日(水)

天気晴

今朝又一回ハイテ後千葉ヲノンデ大変ヨクナル 食事ハおカユト。パン牛乳 夕方殆んど全
快ス

朝九時頃立川ヨリクラブノ二機帰ル 試験無事終了

夕方一三式攻撃機到着 馬車二台ニテ五十円也

▲▼147ページ▲▼ 昭和7(1932)年5月19日(木)

天気 晴風

風強ク練習休

航空神社健(ママ)設準備 安岡ニ命ズ

今日ハ輕飛行機製作ノ出資者來ルトノコトニ奈良原氏八時頃來 午後二時頃迄ツヒニ來ラズ

▲▼148ページ▲▼ 昭和7(1932)年5月20日(金)

天気 曇風

十時前昨日待ツタ人々來 スグ奈良原氏ヲ呼ビニヤル 十一時頃來所サレル。ソレ迄工場内ヲ見セタリ雑談後本題ニ入り深山氏モヤルシイ口振りデアッタガ事小ニアラズヨリテ朝鮮カラ廿五日帰ル人ト相談ノ上下ノコトニナル ドウモアヤシイ

安岡來月十二日ノページエントノ事ニツキ塚本氏ト上京 局ニ行ク

家内夕方表テノ水マキヲ手傳ヒ下水道ヲサラエル内氣持チ悪クナリ坐敷ニスワツテ苦シソウデアッタ 長醫師ヲヨム 腦ニ充血シタモノト分ル カタカラ腦ガ痛イトテ苦痛ヲ訴ヘル 終夜眠ラズ自分モ眠レナカッタ

▲▼149ページ▲▼ 昭和7(1932)年5月21日(土)

天気 曇風

時事 愛国千葉號名命(ママ)式下志津ニ行ワル

今日モ又風強シ 大口來 病氣ヲ見テ午後母ヲヨコス 痛ミトレズ醫師ニ二回電話シテ様子ヲ報ジテ居ク

今夜モ眠レズ

川辺アブロ大宮へ飛行途中強風ニ流サレ取手附近ノ河原ニ不時着 機人共無事 小便検査ノ結果絲毬体腎炎ノ徴候アリ(慢性?)

▲▼150ページ▲▼ 昭和7(1932)年5月22日(日)

天気 曇リ

終夜痛ガツテ眠ラズ 早朝長醫師ヲ呼ブ

小供ヲ出シ夕方ガ安全ダト思フガ尚念ノ爲メ清川婦人科醫ヲ來テ貰フコトトス 午後

來 清川氏ノ談ニハ今夜ヨク眠ラセル工夫ヲシテ今日一日様子ヲ見タ方ヨカロウトノコトニア長醫師ト相談シテ呉レタ決(ママ)果、頓服ヲノマセテ眠ラセル方法ヲ取ルコトトナル

清川氏ノ話シデハクビノ痛ミハ脳膜炎ノオソレアリ。小供ハ今ノ處建(ママ)全ニソダチツ、アル由

久シ振リニ練習盛ナリ

▲▼151ページ▲▼ 昭和7(1932)年5月23日(月)

天気 曇風雨

強風 駒林畠山氏來 工場甲三上田アンリオ内部検査済ミ小栗完成機飛行ダケ残ル
小栗君モ來ル

岡野母及祖母來 入会金全納 練習費六時間分入レル 外ニクラブヨリ百五十円入金アリ 佐野手形落ス

鈴木伊飯沼へ出張 百円受取ラセル 局井上氏へ富田氏ノ祝ヒノ金届ケル

大蔵ヨリ電話アリ。安岡ヨリ航空神社ノ發起人トシテ手紙出サセタ件ニツイテデアツタ 午後安岡ヲ呼び準備ヲ命ズ

家内昨夜ヤハリ痛ガツテ眠レズ十二時頃更ニ頓服ヲ貰ツテ來テノマセル ヨイ氣持チニナツテ眠ツタ様デアッタガ薬ガキカナクナルト又クビヨリ頭コトニ眼ガ痛ンデ堪エラレナイラシイ 熱ハ出ズ 長氏今日モ來テ呉レタガ様子ヨサソウト見エテ今少シ見ルコトトナル 今日ハ血圧モ十ホド少ナクナツテ居タ

▲▼152ページ▲▼ 昭和7(1932)年5月24日(火)

天気 晴

上京スベクツヒデニ船橋ノ長醫者ニヨル 今日背(ママ)髓カラ水ヲ取ツテ調べテ見ル(脳膜炎ノ有無)トノコトニナルベク居タ方ガヨサソウナ話シデ上京ヲ中止シ帰宅 鈴木ヲ代リニ上京サセル

夕方水ヲ取ツタ處血ガ混ジテ居タノデ脳ニ内出血シテ居ルラシイガ明後日尚一度調べテ見ルトノコトデアッタ 水ヲ取ツタラ頭ガ軽クナッタトテ大變氣分ガヨカッタ 夜モヨク眠ツタガ一時頃又イタミ出シタノデ金太郎ヲ起シ頓服ヲ貰ヒニヤル

▲▼153ページ▲▼ 昭和7(1932)年5月25日(水)

天気 風

今日モ又風ガ出ル 今日ハ一三式ノ組立ガ統一取レテ居ラズ終日カントクス

▲▼154ページ▲▼ 昭和7(1932)年5月26日(木)

天気 曇風

時事 斎藤實内閣成立ス

昨夜南風猛烈 本日モ終日吹ク 夜次第二弱ル

夕方長氏來 又水ヲ取ツタガヤハリ血マヅリ居ル爲メ(脳膜炎ノ)検査ガ出來ナイソウ
ダガ多分ナイダロウトノコトデアッタ

終日在所 鈴木伊ヲ上京サセル 羽田格納庫ノ件其他

今日ハソレデモ少シ仕事ノ予定ナド調査デキタ

ドウモ頭ガヨクナイ

▲▼155ページ▲▼ 昭和7(1932)年5月27日(金)

天気 晴

久シ振りデ上京 車中交信社ト交渉ノ予備考ヘヲナス 飛行館ニ行ク 児玉氏ニ會フ

奈良原氏來ラズ 協会ニテ奨励金ノ返事ヲ聞ク 七百五十円決定セシモ現金六五百五十
十円出スコト 二百円ハ來年度初メニ出スコトニテ決マル 後チ新政策ヲ聞ク 飛行場設
置運動ヲ初メタトノコト 大ニ賛成シテゲキレイス

高見安次君ニ久ニデ會フ 金州飛行場ノ件同氏ヨリ返事シテ貰フ

交信社山崎氏ニ會ヒ洲崎ニ格納庫建設前提トシテ六月ヨリニヶ月間特別値段ニテ広
告飛行ヲナスコトトス。ビラ一回四十円 アミ引キ六十円

▲▼156ページ▲▼ 昭和7(1932)年5月28日(土)

天気 曇少雨

午後醫者ニ行キ相談ノ上入院サセルコトニシテ帰ル 夕方今日迄ノ勘定ヲ持タセテヤル
宗里ニヨリ今月分ノ五円タラズ受取ル 雨少量アリ格納庫ノ戸袋ヲ修理シテ居タタ、
一人ノ練習生ガ止メタトカ云ツテ居タ ドウシテ練習生ガ少ナイノカシラ

鈴木菊ノ三人止メタモノ等ノ通知ガ行ツテ居タ 鈴木ノ處モ移動ガ多イアマリガリ、
ノ爲メデハナイカ知ラ

▲▼157ページ▲▼ 昭和7(1932)年5月29日(日)

天気 晴

朝カラ仕度シテ十時頃入院ス 今日ハ終日痛モナク、小便検査ノ結果タン白モナイ由

入院セナクテモヨカッタカモ知レナイ
早朝平松、境君外ニ稲野君外数名來 同乗飛行アリ 奈良原氏來場 更ニ稲野氏ノ
一行トシテ二人來 クラブ機ニ同乗サセル
日曜ニモカ、ワラズゴタ、イソガシイ日デアッタ クラブヨリ二十円借り清平二十五円
渡ス。

朝大蔵來 安岡鈴木ト航空神社ノ打合セノ爲メ

▲▼158ページ▲▼ 昭和7(1932)年5月30日(月)

天気晴

上天気デアッタ 局へ二回電話シテ明日検査ニ來ルコトニキマル。汐多ク上ゲズ試飛行
中止ス

橋本君觀音台ノ文化住宅ニ移轉シタ由

夕方呉君ヲ呼ビ東亜ノ状況ヲ聞キ呉等ニ東亜ヲ生カス方法ニツキ注意ヲ與フ
妻本日ハ良好ノ由

▲▼159ページ▲▼ 昭和7(1932)年5月31日(火)

天気晴

小栗機一三式受檢 小栗機済ミ一三式マグネット連接金具破損ノ爲メ取替エテ更ニ見
テ貰フコトナル 其他皆済ミ坂本駒林氏來 坂本氏ハ本年初メデアッタ

上野本日ヨリ工場ニ出ル 夜菊池ガ妻君ト云ノヲ照(ママ)介ニ連レテ來タ 背ノ高イ丈
夫ソウナデアッタ 静枝トカ云フ菊池ノ親戚ニ当ルモノトカ。ヤハリ多摩川ノ、イトコ
ガ照(ママ)介シタトノコト。何ンダカ一杯喰ワサレタ様ナ感ジガシタ

妻病氣変ラズ 脳ノ内出血トキマル 眼ハ今日ハ大變ツカレナクナッタトテ新聞ナド讀メ
ル由 頭ハ薬ノ氣ガナイトヤハリイタム由。エミ子學校ヨリ帰ツテ頭痛スルトテ床ニツク
夜三十九度二分ニ昇ル 長ニ電話シテ聞ク。ホーソーノ精ダカラ心配ハイラナイトノコ
ト 水デ冷ヤス

▲▼160ページ▲▼ 6月

羽田進出ノ運動

グライダー

軽飛行機

▲▼161ページ▲▼ 昭和7(1932)年6月1日(水)

天気 雨晴

終日在所 クラブ入会金取り入レノ手配ヲナス

▲▼162ページ▲▼ 昭和7(1932)年6月2日(木)

天気 曇り晴

今日ハ一寸朝顔ノ植替エヲナス

サツキハ花ガダン、沢山サイテ來タ

▲▼163ページ▲▼ 昭和7(1932)年6月3日(金)

天気 曇り雨

アンザニ―拂下ノ爲メ所沢行き 今日ハ他ニ來ルモノナク一人デアッタ。行きニ鏝本氏ニ先日ノ禮ニ菓子折ヲ買ッテ行ク

アンザニ―三台七十五円ニテ拂下手續キ後運送店ニテ發送手續キヲナシ後チマダ見タコトガナイノデ東村山ノ貯水池へ行ク 他二人同道 ホテルニテ晝食後池ヲ一週(ママ)シテ国分寺ニ廻リ飯沼ニヨツタガ不在 平松氏ニヨリ十年式ニツキ想(ママ)談シ金ノ請求モシテ帰ル

奈良原氏不在中來場サレタル由

▲▼164ページ▲▼ 昭和7(1932)年6月4日(土)

天気 曇り雨

三時頃迄工場 ライジックサンノ入金ニツキ苦心 金マトマラズ

午後長病院へ家内ヲ見ニ行ク 大変ヨイソウデアッタ

夕方暗クナッテアンザニ―到着ス

▲▼165ページ▲▼ 昭和7(1932)年6月5日(日)

天気 雨曇り

朝カラ大雨デアッタガ昨日電話ヲカケテ居イタノデ伊勢谷氏訪問ノ爲メ一番自動車ニテ出ル 長ニヨリ血ノ検査ヲシテ貰フ 蛤ヲ持ッテ上京 九時四十分伊セ谷氏訪問 輸送会社専務ニ指定工場タルアッセン方ヲ依頼ス 心ヨリ承認シテ呉レル 飛行場借入問題モ出タガ之レハ私用デナイカラ改メテ役所へ御願ヒスルコトトス 一時間バカリ懇談

シテ辭ス 活動ハスベキモノデアル 平松氏訪問 不在 飛行館ニ行キ飯沼へ電話スル
カ、ラズ 小栗トノ会见時間ニナツテ東京駅ニ行ツタガ更ニ日本橋ノ末広へ行く。佐藤ニ
ヨリカンタイヲ受取り帰宅 途中病院ニヨツテ帰ル

◆▼166ページ◆▼ 昭和7(1932)年6月6日(月)

天気 曇雨

今日ハ霞ケ浦ノ下見ノ爲メ五時半起床 案件ヲ書キ置キシテ停留所ニ行ク 徳治ノ筑
波山遠足デ丁度出發シタアトデアッタ 金町デモ丁度臨時列車ノ出ル處へ行キ合セタ
次ギノ汽車デアラ 九時半航空隊着 千田少佐ニ會ヒ一三式攻撃機ノ調査ニツキ依
頼ス。下見終了後五番格納庫ニテ承(マ)細ナル説明ヲ受ケ二時間余ニ及ブ 途中ア
キテ來タコトモアッタ。ドウモイケナイガ大体ニ於テ熱心ニ聞イテ参考書迄貰フ 土浦
四時四十分發ニテ帰ル。長サンニヨツタガ不在 途上ニテ會フ 血液検査ノ結果極ク少
シ梅毒ガアルトノコトデアッタ。帰宅スルト、クラブノ後部ヲ半バコワシテアッタノデ大ニ
フンガイシ上野ヲ呼ビヨセドナリツケテヤロウト思ツタガ結果反ツテ悪シカルベキヲ思ヒ
ジユン、ハト不心得ヲ説イテ聞カセ本人モ一言モナク、ヨク理解シタノデ、ユルス

◆▼167ページ◆▼ 昭和7(1932)年6月7日(火)

天気 雨

宗里氏ト横須賀へ入札ニ行キ一時半終リ二時十五分ニテ帰途ニツキ三時半飛行館ノ
長岡氏七十七ノ祝賀会ニ列ス 山崎氏ニ圖面ノコトヲ電話デ打合セ境氏ニ平松君ト會
見ノ打合セヲシテ、電話デ返事ヲ貰テ來テ吳レトノコトデスグ行キ鈴木ノ意向千円デ
買ヒタイトノコトダガ定期ノ費用グライハ出スダロウト話ス 尚一三式整備ニツキザッ
クバランニ其金ヲ羽田ノ爲メニ使用シタイトモ話ス 結局補助金全部ト十年式ノ金全
部デー三式發動機其他モマトメテヤルト迄進メル 彼レ等モ相談スルトノコト 尚見積
リモシテ吳レトノコトデアッタ。山崎氏へグライダーノ圖面ヲ届ケ飛行館ニ歸リ児玉氏
ニサガシタガ會エズ。日本飛行教育会ノ發会式ニヨバレテ行ク 來会者主催者例ノ他奈
良原川辺両氏ハモトヨリ來客ハワズカニ自分ト、四王天閣下 中島海軍中佐 安達中
佐ダケデアッタ カンジノ顧問講師連ハ一名モ來ナイノハ氣ノ毒デアッタ 十時帰宅
本日ヨリ西式ヲ初メル 朝ヤツテ大變工合ガヨカッタ 夜モヤル

◆▼168ページ◆▼ 昭和7(1932)年6月8日(水)

天気 曇

鈴木ヲ上京サセル ライジックサン支拂ヒ出來ズムナシク帰ル

◆▼170ページ◆▼ 昭和7(1932)年6月9日(木)

天気晴

上京局二行キ監理課長ニ會フ マダ専務ト會ワナイトノコトデアッタ

飛行館二行キ平松氏ニ會フ 塚本來ルトノコトデマツ間、奈良原氏、児玉氏ニ會ヒ児玉氏ニ羽田ノ件ヲ話ス

塚本來 平松同道ヘージエント事務所ニ行キ二時間程マツテヤット小切手デ平松氏ト自分ノ分丈取ル 大急ギデ飛行館ニ帰り模型協会ノ理事会ニ出席後協会ノ講演会ニ出席ス

鈴木氏ヨリ、グライダーノパンフレットノ件聞ク 大分高クツクノデ結局ニ千部スツテ貰ツテ千部ヲ同氏ニ引受ケテ貰フコト 賣價ヲ六十錢トスルコトノ打合セヲナス

◆▼170ページ◆▼ 昭和7(1932)年6月10日(金)

天気晴

一三水上検査來場 二時過ギ來 四時頃飛行 四十分位デ又右側カプリンク破損ス。修理スルカ取替エルカ明朝十時迄二局デ相談シテ知ラセルトノコトデアッタ

一寸予期シナイ金ガ這入ッタノデ、スグ船橋ニ検査官ノ帰ルノト一所ニ行キ妻ヲ退院サセルコトニシテ連レテ帰ル ソレデモ三十五円ばかり入ッタ

◆▼171ページ◆▼ 昭和7(1932)年6月11日(土)

天気晴

上天気 午後少シ曇ル 平松君來 鈴木道君ト引合セ直接交渉ヲセシムル 二三日内ニ返事ヲシテ貰フコトニナツタ由

明日ノページエントノ爲メ午後安岡、平松、鈴木ノ三機川辺ノ渡辺月島へ行ク 平松機脚ワイヤー切レ門松ト菊池ヲヤル

佐藤ヲ瓦斯電ヘヤル 決極(ママ)注文スルコトトス 十五日迄ニ完成ノ由

富田旭靖氏ノ初演湊(ママ)ヲ公会堂ニテ行フ 一行ニ夕食ヲ寄附シクラブヨリビールサイドーヲ寄贈ス 八時頃ヨリ初マリ十一時半終ル ッラカッタ

◆▼172ページ◆▼ 昭和7(1932)年6月12日(日)

天気晴

在所 午後富田氏來 外ニ女ノ同乗者数名アリ

▲▼173ページ▲▼ 昭和7(1932)年6月13日(月)

天気 晴

今日ヨリ植木屋這入り航空神社敷地ノ樹木植替エヲナス

上京 廿一日ノ検査日ノ検査機体ノ打合せニ行ク 数多ク二日ツ、ケテ來テ貰フコトヲタノム。ツゞケラレナイ分近クヤルトノコトデアッタ。飛行館ニ兒玉氏ヲ訪フ 來ラズ飯沼ニ行キ田中ヲ入レテ貰フコトヲタノム。學校ヲ初メル迄待ツテ呉レトノコトニ七月カラヤル由 再ビ飛行館ニ帰ル 兒玉氏丁度帰ツタアトデアッタ。交信社ノ山崎氏訪問後オリオン社新本氏訪問 特許ノ飛行ヲ大ニ乗氣ニナツテ居タ。羽田ノ地所ニツキ飛島組ノ井上氏ニ會フ約束ガ八時デアッタノデ同時刻自宅へ電話シタラマダ帰ラヌトノコトニ明日ヲ約シテ帰ル

▲▼174ページ▲▼ 昭和7(1932)年6月14日(火)

天気 雨

昨日ザクロ、青桐等ヲ植替エタラ今日ハ雨デ大變都合ガヨカッタ

終日在所 明日拂下ノ金ノ予定ニ頭ヲ使フ

飯田ヨリ金來 間ニ合フ

▲▼175ページ▲▼ 昭和7(1932)年6月15日(水)

天気 曇リ

時事 帝都ニコレラ患者一一名出ル

五時起床。パント牛乳デ六時十分宅ヲ出テ所沢ニ行ク 途中奥山君ト共ニナル 九時十五分學校ニ着 参加者多数 自分代表者トナリ入札 五百一円五十錢ニテ落札 アンリオ一台イス。パノバラノ分一台貰フ アンリオ程度ステキニヨキモ主翼四枚羽布ヲハガシテアッタノハオシカッタ。夕方ヨリ東村山ホテルニテ飯沼、遠藤、宗里、高橋庫、井上氏等ト会食後飯沼氏自動車ニテ新宿迄オクラレル間ニ二回パンクシテオソクナリカフ エーミハトニ入ル 宗里君ト二人先キニ失敬シテ帰ル ソレデモ帰宅十二時十五分 今日東京グライダークラブカラ今ヤリカケノグライダーヲ最(ママ)非買イタトテ百円手入置イテ帰ツタ由。大分予定通り行キソウナ氣ガシテ嬉シカッタ

▲▼176ページ▲▼ 昭和7(1932)年6月16日(木)

天気 雨

鈴木ヲ瓦斯電へ、ベンツノ部品出来タトノコトニ取りニヤル

▲▼177ページ▲▼ 昭和7(1932)年6月17日(金)

天気 曇り少雨

植木屋本日ニテ終ル 夕方金ヲ支拂テ帰ス

鈴木昨夜帰ラズ 九時半電話アリ昨夜安岡ト共ニナリ酒ヲノミ、オソクナッテ帰レズ、今飛鳥組ニ行ツタ處全部買ツテ呉レルナラ話シニ來ルトノコトノ由 問題ニナラズ第二段ノ方法トシテ技術課長ニ相談シテ見ル方法ヲ講ズルコトトス
午後鈴木帰ル

鈴木正憲君來 平松氏十年式ダメラシイカラ工場ノヲ讓ツテ呉レトノコト 主翼羽布張替セネバ千式百円デアルガ明日一日待ツ様ニ話ス
早弓君ニベンツ部品瓦斯電製ニツキ製作費負担方ヲ話シ承認ヲ得

▲▼178ページ▲▼ 昭和7(1932)年6月18日(土)

天気 曇少晴

鈴木ヲ海軍拂下代金納入ノ爲メ局へ出張サセル 一時頃帰場ス

平松氏午後二時頃來 鈴木ト会见サセタガ話マトマラズ結局工場整備中ノモノヲ讓ルコトトナル

所沢ヨリアンリオ到着ス

飛行士奨励金下付 廿四日ト決定 安岡ヲ上仲へ 小野ヲ夜高橋宅へヤル

▲▼179ページ▲▼ 昭和7(1932)年6月19日(日)

天気 晴

久シ振リデ天日ヲ見ル 午後ハカナリ暑カッタ

鈴木君ト二三回交渉ノ結果千三百円前金格納庫料六ヶ月間無料 クラブノモノ練習ハ一時間廿四円 外ノモノハ一時間四十円ニテ廿四円ノアトハ半分ケト云フコトニテホム決定ス

朝久シ振リデ自轉車ニ乗ツタ 駅ノ運送店迄十年式ノ翼ヲ見ニ行ク

飯沼君來 竹春ニテ晝食ヲ共ニス 七十円受取ル 竹春十一円余ニ女中茶代ヲ二円五十錢、五円吉田円次郎ニヤル

飯沼アブロアンリオ三田浜へ空輸ス

上野來 父へ帰宅ノカナウ様口ヲ聞イテ呉レトノコトデ承知ス

◆▼180ページ◆▼ 昭和7(1932)年6月20日(月)

天気 晴

上仲本日ヨリ出勤 夕方生活ノ爲メニ飛行ヲオロソカニスル愚ヲ話シ、成ベクナラ津田沼へ引越ス様ニ注意ヲ與フ

局ヨリ明日ノ検査一日延期トノ電話アリ

飯沼來 午後晝食後同道シテ三田浜飛行場ニ行ク 格納庫モ仲立派ニ出來テ居タ

見学シテ帰ル 帰途下腹痛ンデ困ル

朝鈴木正憲君交渉 千三百円ニテ十年式決定 其代リトシテ安岡ノ教官料ヲ一時間三円トス 注作品書ヲ書イテ渡ス 一両日中ニ手金三百円ヲ入レ今月中ニ残り千円ヲ入レル事

◆▼181ページ◆▼ 昭和7(1932)年6月21日(火)

天気 曇リ雨

今日ハ検査ニ來ナイトノコトデ上京ノ仕度中畠山氏來 局へ電話シタ結果駒林氏晝頃來 受檢ノコトニナッタガ雨ノ爲メ完成検査一ツモ出來ズ僅カニ甲三内部ダケ終ル 一三水上終了

鈴木正十年式契約出來三百円入金ス アト今月末入レル予定。スグ鈴木伊ヲ局トライジクサンへ出張サセル

セキセイノ小ガ今日ハ三匹ニナツテ居タ アト玉子ニツ 此ノ様子ダト皆カエリソウダ

◆▼182ページ◆▼ 昭和7(1932)年6月22日(水)

天気 曇リ

長屋ノ屋根修理今日出來上ル

九時半ノ自動車ニテ上京 鈴木菊ト両国迄同道 上田ノ小切手鈴木ニ金取リニヤル。自分局へ行き早弓ノ登録申請ヲナシ、伊勢谷課長ニ會フ。輸送会社戸川専務ニ話シテ居タカラ今會フナラ電話シテ居クトノコトデ依頼ス 飛行館ニ行ッタガ児玉氏來ラズ。戸川氏不在。羽田地所ニツキ久松氏ニ回訪問 不在。再度局ニ行キグライダーノ圖面ヲ提出シ、今月中再検査日ヲ西川氏ニタノム 廿四五日内ニ行クトノコト

今日鳥小屋ヲ移轉ス

◆▼183ページ◆▼ 昭和7(1932)年6月23日(木)

終日在所 武力屋來

▲▼184ページ▲▼ 昭和7(1932)年6月24日(金)

天気 曇り

上京 飛行士奨励金下付ノ日 高橋アサ子、大里伊三郎氏來 其他三十四名之レ等アッセンシテ馬詰君ニ金ヲ集メ二十九円ヲ得 モットヤリタカッタガダメ。ソナコトデバカニ急(ママ)ガシイ思ヒラシテシマッタ 早弓君ヨリ五百円受取ル 高橋ノ分ヨリ五百円関口ノ借用証引替エル アト五十円ホシイトノコトニ渡シ結局奈良原馬詰ノ禮ヲ立替ルコトニナツテシマッタ

▲▼185ページ▲▼ 昭和7(1932)年6月25日(土)

天気 晴

終日在所

給料約一ヶ月分支拂ヒラナス

関口ニ高橋ノ五百円渡ス

▲▼186ページ▲▼ 昭和7(1932)年6月26日(日)

天気 晴

朝朝顔ニコヤシヲヤル

今日ハ次ギカラ、、、へ人が來テ急(ママ)ガシカッタ

高橋今朝治、徳島飛行場ノ操縦士、高橋今朝治、今村武雄、外ニ借金取りデハ足袋

屋、タ、ミヤ、丸正等々 シマイニイヤニナル

武力屋來

▲▼187ページ▲▼ 昭和7(1932)年6月27日(月)

天気 晴

七時出ル 九時半傳通院前着 丁度久松氏モ來タ處ダトノコト 共ニ飛鳥組ニ行ク

事務所移轉シテ居タノデ移轉先キニ行キ稲沢氏ニ會フ 久松氏ヨリ羽田借用ノ件ヲ話

シ難色アリ 時機ヲ見テ課長ノ照(ママ)介ヲ出シテ頼ム 大分傾イテ來タ 今日ハ決定

ヲ見ズ 辭シテ有楽町ノ塩瀬デ久松氏ト中食ヲ共ニス 稲沢氏ト新開惣ノ丞ト又イト

コナルトノコトデアッタ 正奇様、交信社、新本、ニヨリ児玉氏ヲ訪問。飛行館ニテ高

橋今朝治ニ會ヒ山崎氏ヲ照(ママ)介ス。清平ヲ呼び大坂ノ件ヲ話ス

▲▼188ページ▲▼ 昭和7(1932)年6月28日(火)

天気 曇晴

鈴木ヲ局金下付ノ件 上田金件竹崎等ニテ上京サセル
武力屋本日休 左官本日ヨリ來 朝半日ニテ終ル
奈良原氏來 東亜ノ十六円ト高橋上仲分トテ二十六円今日渡ス 鈴木ヨコサズ
八時大坂へ電話シテ二日二百五十円送ル旨話ス 姉モ出テ來テ一寸話シタ 一通話デ
終ル
上野ノ件ニテ明日上野宅へ行クコトノ打合セヲ電話デナス

▲▼189ページ▲▼ 昭和7(1932)年6月29日(水)

天気 曇リ晴

クラブノ稲田、富谷早朝野外飛行練習ヲ行フ
山本林平氏ニ金月變ツテカラ持參ノ旨手紙出ス
十時四十七分ニテ上京 三溝ノ學科成績ヲ森サンニ聞ク 査定點數モヤットトゞクカ
トゞカナイ位ダロウトノコト ライジシクサンニ行キ大日野氏依頼ノ就職ノ件ヲ話メ聞
合セ協会ヨリ電話デ知ラセル
協会井上氏ニアンザニーカーブレター借用ノ件ヲ申込ム
輸送会社戸川専務ニ羽田工場設置ニツキ將來ノコトヲ依頼 諒解ヲ求ム
上野宅ニ行キ上野ノ勘當ヲ許シテ貰フコトト嫁ノ件ヲ諒解ヲ求メニツ共成功 夕食ノ
馳走ニナリ帰宅ス

▲▼190ページ▲▼ 昭和7(1932)年6月30日(木)

天気 晴

霞ヶ浦出張 拂下品引取リト安藤ノ十年式購入 井上氏ニ金渡ス 一人デ十年式ノ
翼ヲサガスニ骨折レタ 三時四十分ニテ帰場ス

▲▼191ページ▲▼ 7月

羽田進出運動

グライダー發展

輕飛行機進行

▲▼1922ページ▲▼ 昭和7(1932)年7月1日(金)

天気 雨曇り

風晴レ間ヲ見テ川崎飛行二門松出發 間モナク又天候悪クナル 本日八羽田ニ泊ル

▲▼1933ページ▲▼ 昭和7(1932)年7月2日(土)

天気 雨後風

午後カナリ風ツヨカッタガ門松無事帰り汐ノ爲メ三田浜ニ着陸

鈴木上京 買物ト支拂ヒ局等へ

左官來

柳田ノ大工作業雨ノ爲メ工場ノ一部貸ス ビールヲ持チ込ンデ居イテ頼ムナド狂気處ガ利好(ママ)モノダ

▲▼194ページ▲▼ 昭和7(1932)年7月3日(日)

天気 晴

思ヒガケナク上天氣トナル 日本飛行教育会ノ見学團約百四五十名來 奈良原児玉氏モ來 西山初メテ落下傘デ降リル

朝三觜來 家庭ノ事情ヲ打明ケドウシテモ免状ヲ貰ワネバナナイトノコトニ種々工夫ノ上森サンヲ訪問スルコトニシ午後二時過ギ児玉氏ト共ニ出發 初メテ兩國カラ秋葉原ノ高架線デ連絡 鎌倉ニ行ク 不在 夜九時頃デナケレバ帰ラヌトノコトニアキラメ明朝局へ御伺ヒスルコトヲ事傳テ帰ル 腹ノ工合悪シク、オジヤヲ作ツテ床ニ入ル

今日関口朝呼ビ此間ヨリ様子ガ変ナノデ聞ク 金ヲ五十円貸シ呉レトノコト 過日ノ五百円ト一所ニ、タレカニ貸シタルノダトノコト 一向事情ヲ云ワナイノミガ自分ヲウラム様ナ様子モアルノデ一度大声ニシカリツケタラ泣キ出シテシマッタ マダ純眞ナ處モアル 今ノ内ニ感化スレバヨクナルカモ、シレナイノデ色々説イテ聞カセタガ、ツヒニ事情ヲ話サナカッタ ヨク考ヘテ來ル様ニ云テ帰ヘス

▲▼195ページ▲▼ 昭和7(1932)年7月4日(月)

天気 晴

三觜ノ爲メ二局へ上京同道 森サンニ會見シタガ、ヤハリダメ 今月末學科試験ダケヤリ直シテヤルトノコトニ本人ニモアキラメサセル

交信社ニヨリ警視廳へ飛行願書提出 丁度早弓外一名大宮御所上空飛行ノ件デ來テ居タノデヨク、吉村君ヨリ事情ヲ聞キ本人ヲ慰メ旅費トシテ十円貸ス

◆▼196ページ◆▼ 昭和7(1932)年7月5日(火)

天気 晴

飛鳥組ニ行ク 稻沢氏旅行中ニテ會エズ。局ニ行キ久松氏ヲ訪問セシモ不在 名刺ヲ置イテ飛行館ニ行ク 其間後チ瓦斯電ニ星子氏ニ會ヒ輕飛行機ニ関シ工場ヲ利用シテ貫ヒタイコトヲ申込ミヤ、其内一度工場へ來ルトノコト打解テ会谈ス 帰途交信社ニヨリ再ビ飛行警視廳ニテ飛行許可書ヲ貰ヒ飛行館ニ行キ、グライダー協会ノ招待ニ列シ講演ヲ聞ク 十時頃終ル 銀坐ヲ散歩シテ大蔵宅ニ行キ泊ル
ヘチマクリームノ広告飛行ヲ行フ

◆▼197ページ◆▼ 昭和7(1932)年7月6日(水)

天気 晴

大蔵ト共ニ八時頃出ル 神田東京駅ニテ分レ局ニ行ク 明日誰レカ行クトノコトデアッタ 佐藤ニヨリ羽布ヲ受取り両国ニ預ケ洲崎ニ行ク 電報ニテ飛行明日ニナッタトノコトニス
グ汽車デ帰宅

奈良原、竹崎氏待ツ 共ニ千葉ニ行キ徳永氏ニ會フ 大千葉飛行場請願ノ件ハ防空演習後ニスルコト 竹崎氏ニ千葉少年号ニ関シテ依頼アリ 五時帰場

◆▼198ページ◆▼ 昭和7(1932)年7月7日(木)

天気 曇リ

今日検査官來ルノデ準備シテ待ツ 十二時ヤット辻本坂本両氏來 検査ニカ、ツタガ平松十年式發動機ツヒニカ、ラズ 機体胴体下主翼ワイヤ取付部手入レ不充分ニテダメ 上田アンリオ機体良 發動機振動アリダメ。甲三發動機良 機体ワイヤー二本タ
ンバックル出過ギテ居ルトテ取替エル 飛行試験ダケ残ル。クラブアンリオ用ローン発内
部検査終了。十年式翼検査中鼠ノ巢ノ爲メハガスコトニナリ之レモ出來ズ 今日ハ明日
續ケテ來ル予定ヲ來ナイコトニシ來週早々ニカエテ貰フコトニ頼ム
砂糖組合ノ広告飛行ヲ行フ

◆▼199ページ◆▼ 昭和7(1932)年7月8日(金)

終日在所 稲毛ノ大口東京ニテ昨夜中 何者大負傷シテ樂山堂病院ニ入院セリトノコ

トニア、自分ニ來テ呉レトノ電話アツタル由。稻毛ノ妻ト石井君取アエズ上京ス。夕方
電話アリ。更ニ妻帰リテノ報告ニ安田ト云フテキ屋ニ宿泊中同人ヘノナグリ込ミノソバ
ヅエヲ喰テ横ハラヲサ、レ其他ニモキラレタル由デアッタ。上京ノ節十円モタセテヤル

▲▼200ページ▲▼ 昭和7(1932)年7月9日(土)

天気 晴曇

旦代君早大學生機ニテ訪滿飛行ニ立ツ日ナノデ上京 行キニ交信社ニヨリ金受取り方
ヲ申込ミ居キ代々木ニ行キ一時半出發ヲ見送ツテ交信社ニ歸リ今日ノヘチマノト共ニ
三回分百八十円受取ル 一時頃代々木ヲ通過スルノヲ見タ。新本氏ニ會ヒ廿二日夜
間飛行コチラデヤルカラウマク行ツタラ金ヲ呉レルコトヲ申込ム 月曜日迄ニ話シテ居ク
トノコト 七時頃帰ル。東京グライダークラブノ山本氏來場 鈴木ト話シ中百五十円
内金入金アリ
今日初メテ佐藤氏ノ引越シ先キニ行ツタ

▲▼201ページ▲▼ 昭和7(1932)年7月10日(日)

天気 曇晴

昨夜ヨク眠レズ 二時頃金太郎が出ソウダト知ラセニ來テ女中ガ行ツタラ三十分タ、
ナイ内ニ又出タトシラセテ來テお金モ行ク 間ヲ置イテ自分モ見ニ行ク 十二時頃一
度見ニ行ツタ時ハマダナントモナカッタ。予想外ニ安産デアッタノハ嬉(ママ)バシイ 女デ
アツタ

午後練習アリ

鈴木伊ヲ玉宮氏宅ヘヤル 尚富田氏ヘモ

佐藤孝所沢ヘサルノ分解器購入ト飯沼ヘヤル

清平來 五円小使ヤル 今日何ンタカダト随分出タ 百八十円ガ十円シカ残ラズ山本

氏返金オクレル

▲▼202ページ▲▼ 昭和7(1932)年7月11日(月)

天気 曇リ

曇レドモムシ暑シ

午後局ヘ電話シテ検査日取り打合セル 明朝來イトノコト

明後日頃受検予定ニテ仕事ヲ進メル

大塚千葉醫大ヘ行ク 神経科ヘ行ツタトノコト 二三日經過ヲ見ネバ病名モ分ラヌ由

菊池ヨリ上野妻ヲ帰(ストノコト)想(ママ)談アリ 上野ヲ呼び聞ク 上野自身カラ今度ハ

帰へス氣ニナツテ居ルノデ將來マトマラスモノナラ早ク帰へシタ方ガヨイト思ワレタノデ菊池ニ同道セシメルコトトス
今夜ヨリ長屋ニ寝ル

▲▼203ページ▲▼ 昭和7(1932)年7月12日(火)

天気 晴

本當ノ七月ノ天候ニナツタ

早朝ヨリ練習アリ 正午ヨリ上仲來 夕方將來ニツキ指針ヲ示ス

鈴木ヲ上京サセ局検査其他ニヤル

クラブ本年上半期ノ決算ヲ行フ

朝奈良原氏來場

午前午後練習アリ

夕刊ニテ早弓君岐阜県ノ山林中ニ墜落重傷 同乗者輕傷トアリ取アエズ国元へ見舞ノ

電報ヲ發ス 行ツテ見タイガ一寸出來ナイ

▲▼204ページ▲▼ 昭和7(1932)年7月13日(水)

天気 晴

昨日カラ急ニ眞夏ノ天候トナル

午前中ニ飛鳥組ニ稲沢氏ヲ訪問 在宅シタガ面會セズ取次ギヲ以テ先搬(ママ)ノ件ナ

ラバ出來ナイトノ玄関拂ヒ 甚ダ失敬ナヤツト思ツタガ引返シ、スグ九段上ノ喫茶店ニ

ヨリ新開君ニ電話ヲカケル 今日ハ夜間演習ガアリ夜遅クデナケレバ帰ラナイトノコト

其代リ明日明後日ハ休ミトノコトニ下宿先キヲ聞イテ居ク。飯沼ニ行キ上京スルトノコト

トニ共局ニ行ク 技術課長ニ會ヒ飛鳥組ノ報告ダケシテ居ク、沼田ノ件田中ノ件鎌田

ノ件飯沼君ト相談シ田中明日兔三角ヤルコトトス

久松氏訪問シタガ不在。飛行館ニテ児玉氏ニ會フ 山本氏へ明日カ明後日行クコトニキ

メテ五時交信社ニ行ク。豊間氏モ來

目黒ガ除(ママ)園ニ行ク 初メテデアッタガ大シタ設備モ、シカモ此不況ニイツモ満員ト

ノコト 今日モ随分沢山來テ居タ。九時過ぎ迄歓談 羽田へ工場設置ノコトカラ洲崎へ

ノ出金ヲソレニ振り向ケルコトニ話シ進メテ居ク

本日ヨリ航空神社ノ地均シニカハル

▲▼205ページ▲▼ 昭和7(1932)年7月14日(木)

天気 曇り晴

本日児供ノ名ヲ役場二届ケル 昭和ノ和ヲ取り和子ト命ケル
上野ノ家内帰ツタニツキ三十円渡ス
飯沼アンリオノ発動機ヲ三田浜ヨリハツシテ帰ル

◆▼206ページ◆▼ 昭和7(1932)年7月15日(金)

天気 雨

銀行カラ八百五十円出シ、鈴木ノガソリンノ金ヲ足シ九百円トシテ持ツテ上京ス 飛
行館ニ児玉氏會エズ同氏宅ニ行ク 中元ヲ持ツテ 不在 此ノ頃ヨリ又雨ハゲシクナル。
雨ノ中ヲ新開惣ノ丞ノ宅ヲタツネテ大ニクタブレル。ソレデモ漸クサガシアテ、會エタ
羽田ノ問題ニツキヨク、タノンデ帰ル 十七日ニ稻沢ニ會フトノコトデアッタ。児玉氏宅
ニ行キ二時間程待ツテ漸ク帰ル 夕食ノ馳走ニナリ八時過ギヨリ山本氏宅ニ行ク 児
玉氏ハ外デ待ツ 山本氏ニ羽田ノ事ヲ先キニ話シ出資ノ諒解ヲ求メテ九百円返ス 大
変嬉(ママ)ンデ居タ。アト貸シソウデアッタ 児玉氏ト、冷タイモノヲノミナガラ状況ヲ
話テ帰宅 十二時 今日ハ実ニツカレタ

◆▼207ページ◆▼ 昭和7(1932)年7月16日(土)

天気 曇リ

午前中工場 午後ヨリ上野ヲ宅へ送ルノデ上京 浅草松屋ニテ買物ヲナシ土産モノト
シテ上野ヲ宅へ送り父母ニ引渡シテ、大ロヲ見舞ニ樂山堂ニ行ク 安田ト云フノニモ會
フ 艶子ガ一所ニ帰ルト云フノデ連レテ帰ル 帰途ゴム紐ヲ買ツタラ金ガナクナツタノデ、
ヤムナク船橋デ、モツヲ百尺買ツテ帰ル 丁度四銭残ル

◆▼208ページ◆▼ 昭和7(1932)年7月17日(日)

天気 雨曇リ

朝雨後曇リ 安岡川辺ニタノマレテ甲三ニテ行ク ツヒニ帰ラズ

◆▼209ページ◆▼ 昭和7(1932)年7月18日(月)

天気 曇リ

明日ノ受検準備ノ爲メ終日在所。第百銀行氣ニナツタノデ廿日ニ上京立寄ル旨電話
ヲ懸ケテ居ク

ライジシクサンノ金準備ニクラブノ未納者ヲ請求スル。今朝左官屋ガウナギヲ持ツテ來
テ呉レタノデ夕方自分デ料理シテ蒲焼ニス

本日練習休ミ

昨日川辺ノ方無事終了セシモ入場料僅カニ二百円ダケシカ這入ラズ、今日同乗飛行会ヲヤル由

▲▼210ページ▲▼ 昭和7(1932)年7月19日(火)

天気 晴

久シ振リデ日ガサシタ 駒林氏早ク來 機体ノ方ハグライダーガ残ツタダケテ全部終ル 発動機ノ方ハ甲三ノローン卜平松十年式ヲ見タガ十年式飛行試験ヲ終ツタガ明日局デ平松氏ト會見ノ上決定スルコトトス 甲三ノ方終ラズ廿一日更ニ発動機ノ方ダケ來テ貰フコトニス

兄ヨリ廿二日手金ノ爲三〇〇電送タノムトノ入電アリタレドモ今ノ處ライジクサンノ支拂ニ回ツテ居ル折柄トテモ出來ソウモナイノデ「〇デキカネルイカゝスルカ」ト夕方打電ス

防空演習ニ空ヲ守レト綱ヲ引イテ千葉、四ツ街道、佐倉ニ飛バス。鈴木午後飛ブ

▲▼211ページ▲▼ 昭和7(1932)年7月20日(水)

天気 曇晴

千葉市防空演習本日ニテ終ル

朝局ニ行キ平松氏ニ會フ 同氏十年式発分解ガ一部分解カラ境氏ト想(ママ)談ノ上返事アルコト 鈴木正十年式ラジエター改造圖駒林氏ニ提出ス

羽田飛行場問題新開ヨリ絶望ノ手紙返事來ル ヨツテ久松氏訪問 更ニトナリノ地所々有者ノ所ヲ知ルベク三時半迄カ、ツテヨク分ラズ

川崎第百銀行ニ行キ現状ノマ、一ヶ年据上居キカ最大限一ヶ月十円ヅ、入レルコトヲ申込ム。工場ノ収支決算表ヲ一度見セテ與レトノコトニテ帰ル

▲▼212ページ▲▼ 昭和7(1932)年7月21日(木)

天気 晴

依託學生本日ヨリ來ル

鈴木ヲ上京サセ局、交信社、ライジクサン、羽田ニヤル 今日ハ本年初メテノ暑サデ九十度ヲ越ス

大坂ノ両家ヘ久シ振リデ手紙ヲ出ス

▲▼213ページ▲▼ 昭和7(1932)年7月22日(金)

天気晴

第百銀行へ決算表一週間位カ、ル旨手紙出シテ居ク

鈴木昨日ノ報告ヲ聞ク 羽田大変都合ヨク貸船屋デ万事ウマク行キソウデアッタノデ
午後再ビ契約ノ原案ヲ作ニヤル ツヒデニ西川氏自宅ヲ訪問サセ今日検査延期ニナッ
タツイテ明日ニモ來テ貰フ様タノミニヤル

奈良原氏來 同道シテ徳永氏訪問 三人デ縣廳ニ内務部長ト面會 千葉大飛行場健
(ママ)設ノ請願書ヲ提出 奈良原徳永両氏ヨリ説明ヲナス

信太郎割合ニ眞面目ニ仕事ヲナシテ居ル

夕方兄ヨリ今日現場ヨリ帰り電報ヲ見タ 五十円ダケタノムトノコトデアッタ。サテ五
十円ガ今十円モナイノデ鈴木ニデモ話シテ見様

▲▼214ページ▲▼ 昭和7(1932)年7月23日(土)

天気晴

朝鈴木ヨリ電話アリ 昨夜オソクナリ泊ッタトノコト 局西川氏へ甲三ローンノ記録ヲ
持参スル様トノコトニ大急ギデ作り安岡ニ持参サセ月曜日検査ノ件ヲタノマセル 西川
氏承認シテ來ルコトニナツテ居タノニ荒井課長ガ中止サセタトノコトデアッタ 尚同時ニ
受検予定ノイス。パノ及ローンモ記録ヲ出セトノコトデアッタ 佐藤ニ命ジ月曜日早く出
スコトノ出來ル様ニス

鈴木菊ヨリ五十円受取り沖繩ノ兄ニ送ル 午後受取ッタトノ返電アリ 夜清平來ル
眠クテ其時半分眠ツテ居タ 十時半デアッタ由

依託生今日ハ一ノ宮へ飛行ス

▲▼215ページ▲▼ 昭和7(1932)年7月24日(日)

天気晴

終日ノンビリシタカッタ 朝モユックリシタ、ツモリダガ七時前起床 清平ニ羽田工場ノ
方針ヲ話シ研究所ノ進退ニツキ相談ス。マダ學校ヲ出ル迄アマリ責任ノアル仕事ハ、ヤ
リタクナイトノコト 考慮サセル

羽田工場ノ借地ニアテハマル様圖面ヲ引キ予算書ト借入及借置方法等ヲ作ル

晝頃グライダーニツキ菊池氏來 グライダーノ話シヲ作ッタ男トノコト マダ若イ學生
デアッタ。コンドノグライダーニツキ色ナコトヲ云ツテ居タ 協会ノコト、山崎氏ノコト
等々大分話シヲ聞イタガ、ドレモ取り留メノナイ話シ 少シ変ナ人デアッタ 夜清平帰
ル

夜上野佐藤來 羽田ノ工場ニツキ打合せ方針ニツキ話ス

▲▼216ページ▲▼ 昭和7(1932)年7月25日(月)

天気 晴

検査ノ件ニテ鈴木安岡上京サセル。鈴木伊羽申外用件ノ爲メ上京
腹悪ルク上京不可能 代理ヲ出シテ床ニツク

▲▼217ページ▲▼ 昭和7(1932)年7月26日(火)

天気 晴

上京 局ニ行ク 誰レモ居ラズ飛行館ニ行ク 児玉氏居ラズ 羽田ニ行キ豊間君ノ照(マ
マ介)ニテ石丸氣象所長ニ會フ 同所格納庫借入レノ件 アブロニテ四回位氣象飛行ヲ
行フ代リニタゞデ入レルコト 外ニ希望シテ特ニ飛ブ場合ハ燃料代ヲ出シテ貫フコトヲ條
件トス 明日本台ヘ行ツテ相談シテ返事スルトノコト 石丸氏ハ自分ノ希望ダケニ熱心
デアツタ。石田場長ニ會ヒ工場ニツキ諒解ヲ求メル。余リ好意ハナソウデアツタ 日
ノ格納庫ニヨリ、地主ニヨツタガ不在 スグ新宿ニ出新井課長ヲ訪問 四十分ばかり工
場ノコトヤ方針ヲ懇談シテ帰りニ山本氏訪問 五千円羽田出金ノ件ヲ交渉 不調。児
玉氏宅ニヨリオソカッタガ対策ヲ考慮シテ帰宅 十二時過ギル

▲▼218ページ▲▼ 昭和7(1932)年7月27日(水)

天気 晴

富谷稲田ノ野外飛行ノ爲メ三田浜飛行場ニ行ク 十二時四十分ニ機出發 三時半頃
無事帰ル 終了
ワカモトヲ買テ帰ル 今夜カラ初メル

▲▼219ページ▲▼ 昭和7(1932)年7月28日(木)

天気 晴

暑イガ上京 局ニ行ク 西川氏ニ會フ 課長ヨリ行ツテヤレトノ話シガアツタトテ種々懇
談 坂本氏月曜カ火曜ニ行クトノコトニテキマル 小栗ニ會フ サルノ金這入ツテ居ルト
ノコトヲ承知シテ居ルノデセメテ百円ダケ呉レル様交渉シタガ中々應ゼズ。西川氏ト
話シ中ニゲテ居ナクナル。飛行道永君ト會フ 同道シテ飛行館ニ行キ中君ト三人で晝
食 大坂ノ様子ヲ聞ク 津田沼会ヲ九月ニ発会式ヲ上ゲル由 航空神社ヘモ、ソレカラ
寄附スルトノコトデアツタ。飛行館ニテ児玉氏ニ會フ 山本氏行キヲ進メテ居ク 一日
新潟ニ行キ三日ニ帰ル由 其前ニ行ク由。山崎氏訪問 羽田工場見積書ヲ見セ約半分
トシテ千五百円乃至式千円出費ヲ申込ム 考慮ヲ約シテ分レ大蔵ニ會ヒ夕食ヲ馳走ニ

ナル 今朝女ノ子ガ産レタ由 十一時帰宅

本記事ハ廿九日分 廿八日分ハ卅日ニアリ

▲▼220ページ▲▼ 昭和7(1932)年7月29日(金)

天気 晴

羽田土地問題ト小栗ノ金取リニ鈴木上京サセル

橋本國除隊帰坂ニツキ來場 昨日ノ三十円デ満足セズ今後ノ格納庫料ヲ貫ヒタイト

ノコトナリシモ自分應ゼズ物分レニテ帰ル 金出來次第送金スル旨事ハル

奈良原氏來 一時過ギ逗留ラレタ コレカラ上京スルトノコト 十円渡ス

所員ニ二百円シカヤレナクナッタ 久次郎三十一日夜立ツトノ手紙來ル

今日ハ腹工合大ニヨシ 夜少シ酒ヲノム

本記事ハ三十日分

▲▼221ページ▲▼ 昭和7(1932)年7月30日(土)

天気 晴

八時頃齋藤氏來 九時頃ヨリ試験初マリ稲田、富谷、上仲ニテ十一時過ギ終了 谷津

へ自動車ニ行キ晝食 四時頃帰宅 途中鈴木ニ勘定ヲ全額拂フコトヲ交渉 但シ一割

ヲマケルコトトス

本記事ハ廿八日分 安岡ツヒニ帰ラズ

▲▼222ページ▲▼ 昭和7(1932)年7月31日(日)

天気 晴

終日在宅ス

橋本国ヨリ電話アリ 利子十五日迄待ツカラ昨年ノ残モ一所ニ送ツテ呉レトノコトデ

アッタ 自分ノ方デハ六月分ヲ先ヅ送リアトハ八月中ニト申込ンデ居イタガ中々聞入レ

ナカッタ

▲▼223ページ▲▼ 8月

羽田工場健(ママ)築初メルコト
軽飛行機建造方針ノコト 海防議会 わかもと
(山本氏)

▲▼224ページ▲▼ 昭和7(1932)年8月1日(月)

天気 晴

時事 第十回オリンピック、ローザンゼルスニテ初マル
一番自動車ニテ川辺君ト上京 局ニ行ク 機体ノ方タレモ居ラズ 発動機ノ方西川坂
本氏居ル 検査ノ件依頼シテ九時半東京着ノ久次郎ヲ迎エ三駅ニ行ク 清平來テ居タ
沢柳氏両国十時ニテ共ニ行クコトニナツテ居ルトノコトニ久次郎ヲトモナイ、十時両国
発ニテ帰宅ス
沢柳氏同道 今月中同氏出張ノ日取りヲ毎週水週(ママ)ト日曜ヲ休ムコトニキマル。発
動機試験台ニツキ初マル 今日旅費トシテ二十円渡ス
信太郎友人数名來ルトノコトニ朝カラ停留所迄迎エニ行ク 一時頃ツヒニ來ナイトテ帰
ツテ來タ

▲▼225ページ▲▼ 昭和7(1932)年8月2日(火)

天気 晴

六月迄ノ決算ヲ終了ス
坂本氏來 甲三ノ完成、鈴木正ノイスパノ三百、飯沼ノアンリオローン80皆内部終ル
沢柳氏本日休ム

▲▼226ページ▲▼ 昭和7(1932)年8月3日(水)

天気 晴

時事 ローザンゼルスニ本日初メテ日章旗上ル 南部ノ巾トビニ等振ワズ
台風近ヅキ南風強シ
鈴木伊ヲ局ト買物羽田石井ヘヤル

▲▼227ページ▲▼ 昭和7(1932)年8月4日(木)

天気 晴

羽田石井契約サレタイトノコトデアッタガ延期ノ手紙出サセテ居イタ イヨ、金策イ
ソガネバナラナイ

上京児玉氏ト相談 山本氏大丈夫トノコトデアッタノデ収支予算ヲ作ルコトニス

▲▼228ページ▲▼ 昭和7(1932)年8月5日(金)

天気晴

南風今日モ強シ

局英商会其他ヨリ買物等

飛行館ニテ児玉氏ト會見 氏(ママ)奈良原氏モ來ラレル 氏モ羽田ノ収支予算書ヲ見セル 氏ハ更ニ本工場ノ方ノ事ト共ニ輕飛行機、直昇、輸送会社 此三ツヲ目標トシテ山本氏ヨリ一万円出サセルカ、ソレニハ奈良原氏ニ大ニ眞面目ニナツテ貰ワネバナラナイトノコトデアッタ 直昇ヲ工場ノ一ツニ入レルコトハ自分ハコノマシクナイガ此際止ムヲ得ナイモノト考ヘル
夜飛行講堂ノ活動 米口海軍飛行ノ封切りモノヲ見ル

▲▼229ページ▲▼ 昭和7(1932)年8月6日(土)

天気晴

平松イスパノクラブ甲ニ發調査表等ヲ持テ局ニ行ク 今日ハ初メテ技術課全員ガ居タ
十一日大体來場ノ事決定ス

飛行館ニ行 児玉氏來ラズ 手紙ヲタノンデ歸ル 交信社ニ時半前ノ話シヲ取消シ新
ラタニ六十日間千円ダケ申込ム 難色アリシモ方カブセテ考慮ヲ求メテ居ク

大門迄スプリング坐金ヲ買ヒニ行キ今日ハ早歸リ アンマヲ取ル

清平丁度帰ツタ處デアッタ

本日夕刊ニテ沢柳氏共產黨シンバサイザー資金部ノ一員トシテ去ル二日、ケンキヨサレ
タコトガ大きク出テ居タ 來ナイモ無理ナカッタト初メテ知ル 輕飛行機ノ進行ニサマ
タケトナルコトハゲシ

▲▼230ページ▲▼ 昭和7(1932)年8月7日(日)

天気晴

終日静養ヲ行フ アンマヲ取ル

▲▼231ページ▲▼ 昭和7(1932)年8月8日(月)

天気晴

▲▼232ページ▲▼ 昭和7(1932)年8月9日(火)

天気晴

山本氏ノ方盆前ニ金キメタラ今日ハ児玉氏ヲサソヒ夜共ニ行ク 大分六ツ間敷カッタガ
事業予算書ヲ見タイトカ、担保ガアレバトカ話ガアッタノデ更ニ明日行クコトニシテ今
日ハ一マツ引上ゲル
局ヨリ検査十一日ニ行クトノコトデアッタ

▲▼233ページ▲▼ 昭和7(1932)年8月10日(水)

天気晴

時事 七〇〇ミリト云フ颱風近ヅクトノコトニテ嚴重ニ用意ヲナス

夕方ヨリ上京ス 今日ハ山本氏ニ何ンデモ頼ミ込ムツモリデ静養コレットメ入浴後六時
宅ヲ出テ四ツ谷ニテ山崎氏訪問 丁度今夜大坂へ立ツ處トノコト 八時半頃迄カ、ル
氣ガ氣ジヤナカッタノニ明日ノ検査ニツイテ打合セルダケデアッタノニ遅クナッタ 山本
氏へ急グ 工場ノ成立カラ現在及將來等ヨリ話シタガ少シ考へサセテ呉レトノコトニ望
ミ薄ク十時半辭シテ児玉氏ニヨル。オシテ明日モ行ツタ方ガヨイトノコトデアッタガ山
本氏ハ今デハ児玉氏ヲ全然信用シテ居ラナイノデ、其間一寸コマル
終列車ニテ一時帰宅ス
昨日モ今日モ話シニ出タガ直昇三三千円出シテ居ルノガ大ニタヅッテ居ル

▲▼234ページ▲▼ 昭和7(1932)年8月11日(木)

天気晴

今日ハ検査ガアルノデ自宅へ居ル 坂本氏午前玉宮氏午後來 スラ、ト今日ハ済ム 児
玉氏万一金ガ出來テ居ヤセヌカトノ心持チモアリ川辺モ會ヒタガツテ居ルノデ上京
児玉氏ヲ産業聯合會ニ會フ 金策ハ出來テ居ナカッタ 川辺君ノ話シヲシテ鶴岡カラ
借りサセタラ、スグ引取ルコトガ出來ルモノト児玉氏同道飛行館ニ行ク。川辺君、嬉シ
ガツテ対策ニツキ聞クノデ天王寺谷君ガ今迄交渉シテ居タガ、コ、デ金ヲ作ツテ引取ル
カ然ラザレバ手金ヲ返シテ貰ツテ他カラ買フカ借ルカニツニ一ツデアアルガ、ソレニツキ金
ハ鶴岡氏カラ必ず借り得ララレ、今迄ナゼ之レニ氣ガツカナカッタカ不思議デアッタ
鶴岡氏ニ電話デ交渉後明朝八時自宅ニテ會ヒタシトノコトノ由
今日ハ少シ早ク帰ル

▲▼235ページ▲▼ 昭和7(1932)年8月12日(金)

天気 晴

時事 クラブXFアプロ大破。岡田單獨ニテ負傷ナシ

六時五十五分ニテ川辺君二同道シ上京 鶴岡氏訪問 ニツ返事デ六百円今日午後二時飛行館ニテ渡ストノコトニテ局ニ行キ田中ヲ呼び全金支拂フコトニテ、訳ケナク話マトマル

飛行館ニ行ク 川辺君ニ貳百円タノム 百円ダケ呉レトノコト アト十五日ニ百円送ルトノコトニ其百円ヲ吉村氏ニ立替エテ貰ヒ工場ノ女工分トシテ石川ニ持タセテ返ス 然ルニ川辺君今日五十円ダケニシテ呉レトテキカズ トテモ足りナイノデ、田中カラ取ルコトニシ川辺下田中及操縦士五十嵐ト所沢ニ同道 八時頃漸ク話マトマリ取引終ル 自分ノ方へ田中ヨリ内入セシムル予定 百円近ク何ントカスルトノコトデ細村屋ニ帰り泊ル

児玉氏へ今日ノ模様知ラセタカッタガ電報ノ時間モ切レタノデ中止ス
細村屋ノ妻君此ノ四月ニ死ンダ由

▲▼236ページ▲▼ 昭和7(1932)年8月13日(土)

天気 晴

六時起床 朝食後地圖ヲ出シテ飛行上ノ注意ヲ話ス 呉モ來ル 八時半勘定ヲシテ先キニ出ル 丁度九時學校ニ着 本日ノ拂下アンザニ一部品ダト思テ居タラ計器類デアッタ 飯沼君代表ニテ入札 九百九十二円ニテ落札 晝食後一時ヨリ現品ノ配當ヲ定メ三時ヨリ分配ニ着手 作業会社ト共ニ、トラック一台タノミ上野ヲツケテ先キニ出ス 代金八十五円五十銭 田中ヨリ八十円借リタノデ丁度間ニ合フ 外ニ四型タイヤー 代十円ト九十円ヲ十七日ノ飛行料ノ内金トシテ受取ツタコトノ受取リヲ渡ス 帰途ツカレタガ児玉氏ニヨリ昨日ヨリノ経過ヲ報告シテ十一時帰宅 丁度自動車ガツイテ荷ヲ降シタ處デアッタ

▲▼237ページ▲▼ 昭和7(1932)年8月14日(日)

天気 晴夕立

朝川辺安岡大坂へ立ッ

晝頃川辺甲三呉羽田ヨリ空輸 着陸前区ノ中程廣瀬方ニ墜落 老母チカ女重傷 其他小供婦人数名軽傷 呉モ軽傷ヲ負フ 自分知ツテ行ツタ時ニハスデニ船橋カラ醫者ガ來テ居タ。区民中ヤ、ゲキコウシテ居ルモノモアツタガ入院手續キヲシテ区長ヲ訪問 遺憾(ママ)ノ意ヲ表シ一方車中ノ川辺君ニ打電シタ。老母ハツヒニ四時五十五分船橋ノ渡辺外科ニテ死亡ス。負傷者ノ自宅ヲ見舞タリ醫師へ行ツタリ夜八番田航空官來 駐在所へ行ツタリ船橋迄見送り一時迄通夜ヲシテ帰ル

十一時大坂中君カラ電話アリ 川辺氏マダ來ヌトノコトデアッタ

▲▼238ページ▲▼ 昭和7(1932)年8月15日(月)

天気 晴

晝頃漸ク川辺氏ヨリ今夜立ツトノ入電アリ

死人ハダシ、クサクナルノデ向フデ川辺君ノ帰リヲ待ツトノコトデアッタガ自分ノハ
カライニテ葬式ヲ済マセルコトニシ費用ヲ當方デ持ツコトトス。費用ハ全部向フデ書キ出
シタノニヨリ、ソレ、注文ヲシタリ現金ノ必要ナモノハ鈴木カラ百円出サセソレ、支
拂ヒヲナスコトトシテ進メル。協会局デ花環ヲ出サセルベク運動シタガ出來ズ長岡サンニ
頼ンデ出シテ貰フ事トス 今夜ハオ通夜ヲ御免コウムツテ、アンマヲ取ル

▲▼239ページ▲▼ 昭和7(1932)年8月16日(火)

天気 雨後曇リ

川辺氏ヨリ○ノタメ立テズ今夜立ツトノ入電アリ 葬式ニ間ニ合ワナイノハ無念デアッ
タガ向ハ適當ニノバシテ居ク 奈良原氏モ会葬サレ花環モ都合九ツニナツタノデ土地ト
シテハ立派ナ葬式トナツタ訳デ区民ノ意向モ大ニカンワサレタコトデアッタ 五時頃全
部終了後区长、在郷軍人團青年團等ニ挨拶ニ行キヤット重荷ヲ降ス 之レデ早く川辺
君ガ帰リサエスレバヨイノデアッタ

▲▼240ページ▲▼ 昭和7(1932)年8月17日(水)

天気 晴

鈴木ヲ上京サセル 検査ノ件其他

午後姫路製紐ヨリ人來 延べ取引ノ件交渉 大体承知シ今回ハ初メデアアルノデイクラ
カ内入シテ呉レトノコトデアッタ

川辺晝過ギ帰ル 一應話シテ横山君ヲ中ニ入レトノコトデアッタガ、止メタ方ガ
ヨイト注意ス

夜川辺宅ニ行ク 一通り皆挨拶ヲシテ來タ。向ノ話シハ之レガ爲メニ区民ニ対シ海ノ使
用ニツイテ考慮シテ呉レトノコトデアッタ由 ソレナラ、スデニ本年カラ使用料ヲ支拂フ
コトニナリ、スデニ前半期分ハ支拂済ミデアルガ、他ニ何等カ目ザス處ガアルノデハナイ
カ

▲▼241ページ▲▼ 昭和7(1932)年8月18日(木)

天気 晴

鈴木昨夜帰ラズ今日晝頃帰ル

川辺問題 夕方鍛冶屋迄百円デ話シ込ンダガ先方五百円ト出テ大差アリ川辺君ヲ説イテ三百円迄出スコト 百円ヅ、九月ヨリ月賦ノコトニテ鍛冶屋ト夕方打合セ大体ママル、ツモリデ鍛冶屋鈴木ト同道先方ニ行ツタガ、アトカラ返事スルトノコトニテ物ワカレトナル 夜十一時デアツタ。川辺ニ報告ニ行ツタモ、モウ床ノ中ニ這入ツテ居タ イササカ、ヒョウシヌケ

▲▼242ページ▲▼ 昭和7(1932)年8月19日(金)

天気 雨晴

坂本松浦氏來 平松十年式柱ヤワイヤー交換シテ居タ爲メ三田浜ノ飯沼ノアンリオヲ先キニヤツテ貰フコトトシテ船橋ニ行キスラ、スンデ晝食後一時帰場後平松十年式漸クニスム グライダーツヒニ間ニ合ワナカッタ

ソレデモ久シ振りデニ台通過シタノデ氣持チヨカッタ

早朝茂治右衛門鍛冶屋來 五百円ヲカケルナラ一錢モ入ラヌトノ返事デアツタ 川辺ニ其旨ツタエテ居ク

▲▼243ページ▲▼ 昭和7(1932)年8月20日(土)

天気 晴

昨夜カラ考慮シタ結果一時手ヲ引イタ方ガヨサソウナノデ鍛冶屋へ其旨朝コトワル川辺ト直接交渉ニシテ貰フ 川辺鈴木ニモ其旨ツタエル 奈良原氏來今日迄ノ経過ヲ話ス

午後上京 児玉氏訪問 種々金融上ニツキ打合セ結局鶴岡氏ニライトプレーン製作費ヲ話スコトニ決定 帰途奈良原氏宅ニヨリ右諒解ヲ求メル
高橋今朝治ヨリ二十円受取ル

晝頃御國ノサル胴体一台ト羽根二台分來ル

▲▼244ページ▲▼ 昭和7(1932)年8月21日(日)

天気 晴

電話ヲ逗子ノ鶴岡氏ニカケル 明日午前中東京ニテ會フトノコトニ其旨児玉氏ニ通シテ居外知ラセルベク飛行館へ電話シタガマダ來テ居ナイトノコトニ戸沢氏ニ右ノ旨返ヲ貰フコトトス

▲▼245ページ▲▼ 昭和7(1932)年8月22日(月)

天気 曇雨

上京 児玉奈良原両氏ト会見 鶴岡氏ニ申込ミ方打合せヲナシ明日

上京スルニ金ナクヤット九時頃ヨリ出カケル 奈良原氏ニヨル 自分ハアトカラ會ツタ方
ガヨイト思フトノコトデ同道出來ズ実業組合ニ児玉氏ヲ訪問 マダ來テ居ラズ、飛行
館ヘ電話シタラ児玉氏ハ今日ハ行ケナイトノコトニ一人デ行ク 鶴岡ニ先ヅ川辺氏ノ件
ヲ報告 延期ヲ述ベ輕飛行機ノ件ヲ話ス 木曜日奈良原氏ト会見予定ダカラ其上ニ
テ決定シタシトノコトニ帰途尚児玉氏ニヨリ右ノコトヲ話シテ居ク
奈良原氏ニヨル

▲▼246ページ▲▼ 昭和7(1932)年8月23日(火)

天気 晴

上京 奈良原児玉両氏ト会見 木曜日会見ニツイテノ打合せヲナス

▲▼247ページ▲▼ 昭和7(1932)年8月24日(水)

天気 曇リ

今日ハ終日在宅ノ予定ノ處御原氏ヨリ電話アリ四時ニ飛行協会へ來テ呉レトノコトニテ
二時十五分ヨリ上京ス

沢柳氏本日來 引ヅ、キ輕飛行機ノ設計ニ來ルコトトナル 當分今迄ノマ、ノ囑託トシ
テヤルコトニキマル

飛行協会ハ名古屋新聞社デ新京東京間往復飛行競技ヲヤルニツイテノ意見廳(ママ)
取デ自分ノ外ニ遠藤相羽ノ二氏ガ招カレテ居タ 協会デハ井上少将出席 後チ山水楼
ニテ夕食ヲ共ス

▲▼248ページ▲▼ 昭和7(1932)年8月25日(木)

天気 晴

二時十五分ギリ、ニ金ガ這ツタノデ十五分ノ自動車デ上京 飛行館ニ行ク 奈良原
鶴岡本間氏スデ會談シテ居ラレタ 児玉氏ト打合セ予定通り曙ニ行キアトヨリ児玉氏
來 輕飛行機製作費出資ノ件話シ合ヒ廿九日回答アルコトニナツテ分レル 後チ児玉
奈良原両氏ト打合セ自分ハ日暮里ノ佐野ニ金ノ事ワリニ行キ尚塗料ヲ注文シテ歸ル
夜十一時トナル

▲▼249ページ▲▼ 昭和7(1932)年8月26日(金)

天気 曇り雨

川辺君ニローン120鈴木ニ譲ラセテ式百円バカリ金ラツクラセルベク話シタガ借リルノ
モイヤ発動機モ賣リタクナイ、兎ニ角カセイデ返ス 今日大坂へ立ツトノコトニテ此話シ
ハ中止ス。八時二十七分船橋発ニテ上京 局ニ行ク 平松飯沼共ニ堪航証出來テ居タ。
課長ニサル拂下ト競技会ノ件ヲ想(ママ)談ス 磯部氏へグライダーノ修理金ノ事モ聞ク
式百円以内ハ出スコトニナツテ居ル由。平松氏へ堪航証ヲ渡シニ立寄り、鈴木重正氏ヲ
訪問 グライダーノ話シノ代金廿九日確答スルコトトシ実業組合ニ兒玉氏ト會フ 本
間氏ニ兒玉氏會ワナイ方ガヨカロートノコトニ自分飛行館ニ行ク 奈良原氏居ラレタ
ガ本間氏來ラズ 早く帰ル

▲▼250ページ▲▼ 昭和7(1932)年8月27日(土)

天気 曇り

今日ハ在宅ス。ユツクリ静養ガ出來タ
沢柳君出勤 アンザニー回轉計取付部圖面出來ル
午後清平來ル

▲▼251ページ▲▼ 昭和7(1932)年8月28日(日)

▲▼252ページ▲▼ 昭和7(1932)年8月29日(月)

▲▼253ページ▲▼ 昭和7(1932)年8月30日(火)

▲▼254ページ▲▼ 昭和7(1932)年8月31日(水)

天気 曇り

廿八日以來ズット引續キ金策運動 早朝ヨリ夜オソク迄カゝル
何等確定ヲ見ズ 山崎氏ノ方デ一時的ニトモ思ツテ話シタル。ハッキリダメト分ル 鶴

岡氏キマラス

児玉氏ニ云ワシムレバ奈良原氏熱ガナイカラ本間氏ナドアテニスベカラスト 同意ナリ

◆◆255ページ◆◆

軽飛行機建造資金ノ件

羽田工場確定ノコト

◆◆256ページ◆◆ 昭和7(1932)年9月1日(木)

天気 晴

今日モ又終日飛行館 本間氏來タガ

今日金ノ確答アル筈ニツキ上京

八時前児玉氏訪問 想(マ)談ノ上児玉氏ニ鶴岡氏ヲ訪問シテ貰フコトトシ同道 自分ハ傳通院内ニテ待ツ 會見五十分 出テ來タガ見込ミナシトノコト 尚一層ヤルニ六奈良原氏直接談。パンガヨイトノコトデ晝奈良原氏ト三人デ相談ス 午後飛行館ニテ本間氏來 鶴岡氏來ラス。ダメラシイガ電話シテ月曜日迄返事ヲ待ツテ呉レトノコトデアッタトノコト。担保デモアレバトノ話シアリ工場ヲ提供スルモヨシト考ヘル

◆◆257ページ◆◆ 昭和7(1932)年9月2日(金)

天気 快晴

奈良原氏宅ニヨリ上京 局ヨリ飯沼三行ク 飯沼十日頃迄待ツテ呉レトノコト 局ヨリ明日検査ノ打合せシテ三時飛行館ニ行 本間スデニ來テ帰ツタアトノコト 奈良原氏ノ話シデハ明日午後二時 更ニ本間氏ヨリ返事ヲ聞クコトニナツテ居ルトノコト 大ニ不満デアッタ 毎日々々不安デナラナイガ何ントモナラナイノデ、夕方児玉氏ト會ヒ相談 明日ハ何ンデモ奈良原氏ト鶴岡氏ニ直接會フコト 奈良原ニ行カネバー人デモ行クコトニキメテ歸ル

◆◆258ページ◆◆ 昭和7(1932)年9月3日(土)

天気 晴

時事 オリソピック陸上撰手帰朝

朝奈良原氏同道シテ貰フツモリデ今日ノ検査ノ打合せヲ工場デスマセテ市川ニ行ク。ヤハリ本間氏ノ挨拶ヲ待ツテ鶴岡ニ會フ方ガヨイトノコトデ、ツヒニ午後迄ノバスコトトス。朝食ヲ取ラナカッタノデ丸ビルニテコーヒート菓子ヲ喰ベ、野沢組ニヨツタガ石橋居

ラズ附近ニテ散髪ヲシテ飛行館ニ行ク 本間氏ツヒニ來ラズ 三時半頃脳貧血ヲ起シテ行ケヌトノコトニスグ奈良原氏同道鶴岡氏訪問 最后案トシテ工場担保デ三千円ヲ申込ム。ヤハリ家内ガ承知セヌトノコトデアッタガ月曜日午後三時飛行館ニテ返事アルコトニシ物分レ。奈良原氏ト児玉氏ニ會フ 尚自分ハ山崎氏ニ五日ノ分トシテ一時借りヲ申込ミ五百円ダケ決定 五日午前十時受取ルコトトナル 共ニ飛行館ノ活動ヲ見ニ行ク 児玉氏ニモ右報告シテ十二時帰宅
数日來ノ活動ニモ元氣ハ益々ヨシ。腹ノ方宜シカラズ

▲▼259ページ▲▼ 昭和7(1932)年9月4日(日)

久シ振りデー日静養ス

▲▼260ページ▲▼ 昭和7(1932)年9月5日(月)

天気晴

上京 交信社ニテ五百円借り金太郎ニ持ツテ帰ラセル
飛行館ニテ奈良原氏ニ會ヒ行ツテ貰フトシタガ、ツヒニヤハリ本間氏ヲ待ツコトトナル
二時頃本間氏來リタルモ鶴岡氏病氣トノコトニテ來ラズ今日モ確答ヲ得ラレズ 後チ
児玉氏ト相談シツヒニ今夜大蔵宅ニ泊ル

▲▼261ページ▲▼ 昭和7(1932)年9月6日(火)

天気曇

早朝本間氏ヲ訪問 昨日本間氏鶴岡氏會見ノ模様ヲ聞ク ダメイヨ、決定 ココニテ更ニアンリオ賣却ノ案ヲ立テ午後奈良原本間氏ト同道鶴岡氏ニ行ク 六時小栗ト會見約束アリ一足先キニ失禮シテ小栗ト會フ。洲崎デ協同デヤツテ呉レトノコト田中カラ申込ミガアッタガ君トヤリタイトノコトデアッタ。案ヲ田中ニ出サセテ見テハト云ツテ居ク

本日工場員全部休職シタル由

▲▼262ページ▲▼ 昭和7(1932)年9月7日(水)

天気曇小雨

検査日ナレドモ雨ノ爲メ來ラズ 幸ヒ皆ヲ五組ニ分チテ集メ終日カツテ話マトマリ明日ヨリ仕事ニ出ルコトトナル 原因ハ給料全額ヤル予定ニ話シテ居タ處鈴木ハヤ、確定的ニ話シタ爲メ昨日三分ノ一ヨリ渡ラナイノデ不平ガ出タモノデアッタ

角以下本日ヨリ全部就業ス

▲▼263ページ▲▼ 昭和7(1932)年9月8日(木)

天気 曇雨

全員出勤 玉宮畠山両氏來場 鈴木十年式クラブ甲三飛行試験海岸ヨリ出發 汐干カズ三田浜ニ着陸ス 昨日ガソリンニカン三田浜ニテ借り一カンニテスム
一カン鈴木ノ借りハ返ス

▲▼264ページ▲▼ 昭和7(1932)年9月9日(金)

天気 曇雨

所沢拂下ノ爲メ 止京出張 丁度晝頃終ル 井上長ニ會フ 帰途車中海防義会ノ様子ヲ聞キ同道シテ佐伯氏ニ照(ママ)介シテ貰フ
飛行館ニテ奈良原児玉氏ニ會フ 四時ヨリ、世界一週(ママ)獨逸機ノグロナウ大尉外二名ノ歓迎会ニ出席ス 近ククラブ理事会ヲ開イテ貰フコトトス
鈴木伊上京 弘益社金取りニ行ツタガ呉レズ 明日午前九時トノコトニ泊ラセル
糸川ニ會フ 十五日五台タノマレル 一台百円 外ハ得(ママ)許料十円箱代五円交信社
へ二十円 合計一機ニツキ三十五円ヲ請求 ヨケレバ明日中二十円送金セバ箱ヲ作ツテ
間ニ合セルコトヲ約ス

▲▼265ページ▲▼ 昭和7(1932)年9月10日(土)

天気 晴

時事 第三報知日米號太平洋横断ノ爲メ羽田出發淋代ニ向フ

報知見送りノ爲メ上京ノ予定ナリシモ中止ス

糸川ツヒニ何等回答ナシ

田中不二雄ヨリ明日飛行タノマレル 前回不首尾ノ爲メ十円引キ七十円トス

鈴木金受取り千葉へ直行 保険へ二ヶ月分入金 帰場四時半

▲▼266ページ▲▼ 昭和7(1932)年9月11日(日)

天気 曇雨

飯沼へ出張予定ノ處夜中カラ下痢ハ初マリ終日止マラス、ツヒニ断念ス

糸川來 十五日綱ニ台引受ケル 函代十五円受取ル

弘益社ヨリ十四日三台飛行依頼アリ 中一台綱引

佐野利一來 明日初メノ分入金スルコトヲ約ス アトノ分飯沼へアス行ツタ上デ返事スルコトトス

▲▼267ページ▲▼ 昭和7(1932)年9月12日(月)

天気 雨

下痢ハ止マツタガラ、デ元氣ナク尚一日休養ス

鈴木午後ヨリ上京サス ライジングサン、局、弘益社 伊藤西夫氏會二百円受取り佐藤買物

鈴木菊雄ヲ呼ビライジングサン引續キ取ル様ナレバ三百円貸ス様ニ話ス 今日交渉ノ結果金ハ明日ノ事トス。十四日飛行 アトノ式台鈴木引受ケル 一台四十五円也

▲▼268ページ▲▼ 昭和7(1932)年9月13日(火)

天気 晴雨

鈴木伊來 伊藤西氏百円ヨリ呉レズトノコト 大ニ失望 スグ鈴木菊ヲヨビニヤッタガ之レ又百七十円ヨリ出來ズ 之レデ東亜ノ練(ママ)中へ二百円 ライジングサンへ三百円ドウシテ支拂ヒガ出來ルカ 工場ノ現金六五十円シカナカッタ 八時五十五分ノ自動車ニ乗ル 両国ニツク追種々工夫シテ先ツ局ニ行キ玉宮氏不在 西川氏ニラジエターノ説明ヲナシテ、ボス上ノシヤター今一枚取ルコトトス 小栗ニ會フ 道々洲崎合同ノ件話シアリシモ考ヘルコトニシテ分レル。今日ハソコ處デハナイノダ。ライジングサンヲ中止ス 飛行館ニ行 三人來テ居タノデ率直ニガソリン代ニ入用ニツキ百円借りテ居クコトトシ百円ダケ現金渡ス 之レデーツハ方付イタ。水野氏ニ會ヒ明日ノ飛行ノビラヲ受取り警視廳ニ行キ三台分ノ願書提出 沢柳君ノコト助川氏聞キニ行ツテ呉レタガ主任不在ニテ明朝行クコトニキメテ、穴水ニ行ク 鈴木ニ聞イタト五錢券アリ津田沼へ電話シタガ一時間シテモカ、ラズ。多分鈴木ノカケ引ト思ヒ数ヲ少クシテ鈴木へ二十五カン クラブへ十五カン 四十カンヲ現金(伊藤氏ノ手形デ支拂)ヒ途中ラッカーヲ求メ余リ腹ガヘツタノデ、牛乳トドウナツ二個ヲ取ル

丁度四時 飛行館ニテグロナウ大尉ノ講演ヲ中バヨク聞ク

伊藤西夫氏ニ會フ マグネトータータンクノ件ヲ話ス。宗里、坂本寿一二久シ振りニ會フ 地下室ニテビールヲ馳走ス 坂本ヨリ名倉屋旅館ノ俵ガ飛行場ヲ買ヒタガツテ居ルトノコトニ、クラブノアンリオノ話シヲナス 一兩日中ニ返事スルトノコト

飯沼行ケナクナツタノデ佐藤ニヨリ帰宅 午後九時

▲▼269ページ▲▼ 昭和7(1932)年9月14日(水)

天気 晴雨

時事 軽飛行機クラブ顧問小松直幹中将葬儀

今日モ降タリ止ンダリ 朝鈴木ヲ呼ビ昨日ノガソリン代残りヲ返ス ソレ迄二十円不足ヲオギナウ爲メ古金屋ニテ十円取ル 其上ニテ川辺分広組ヘヤル 百円鈴木ニ出サセル。協会ヨリ受取り次第ヤルトノ口実ニテ之レハウマク行ツタ 鈴木伊ヨリ飯沼君ヘ持参サセル。自分ハ上京 弘益社ニヨツタガマタ書類ソロワズ 局ニ検査(十七日ノ分)ト鈴木正ノ十年式ラジエターノ件報告シ、ケイシ廳ニ今日ノ飛行ノ許可証ヲ貰ヒニ行ク マダ出来テ居ナカッタガ飛行差支ナシトノコト。沢柳君ノ件助川氏調査ノ處、ヤハリ事情ヲ知ツテ貸シタモノニテ、多少本人モ赤化シテ居ルガ、起訴猶余(ママ)ニナツテ居ルトノコトデアツタ。交信社ニ行ク 弘益社其他ノ問題ニテ成ベク自分ノ方ヘ直接ヤラセテ呉レトノ希望 弘益社ニ付イテハ過日同社ヨリ人ガ來タ時ノ事ニツキ不満ノ色アリ。自分ヨリ弘益社ニ交渉スルコトス

自動車ニテ池袋ニ飛バス 丁度小松直幹氏ノ葬儀ニ合フ。新宿ニテ高橋今朝治ニ會ヒ明日ノ糸川ノ飛行ニツキ打合せ。飯沼ニ行ク 残金受取りローン部品ヲ二三貰ヒサルムソ、日滿飛行ニ参加スルヤ否ニツキ協議 明日中ニ決定スル由
五時平松氏訪問 不在 英商会ニテゴムカンカンタイヲ買ヒ、山下マグネトーニ行キ、佐野ニテ塗料一カン取り佐藤喜ニ行キワクピントピアノ線ヲ買フ。弘益社ニ電話スル 今日ノアミ失敗ニ帰シアスヤリ直ス事ニナツタトノコト クソツ。

九時二十分ニテ津田沼迄帰り岩佐ノタクシーニテ帰宅 実ニイソガシイ一日デアツタ

◆▼270ページ◆▼ 昭和7(1932)年9月15日(木)

天気 曇雨

昨夜ヨイ月ガ出テ居タノニ今日ハ又雨ガ降ツタリ止ンダリ

鈴木伊ニ聞クト十五日ニ金受取ルコトヲ十日頃命ジテ居イタノニ手紙ヲ出サナカッタ由

夜アンリオ明後日ノ検査ニ合セルベク自分先ニ立ツテ夜業 漸ク翼ヲ組立取付ケテ終ル 十一時

小野富雄満州ノ高橋氏ノ處ヘ行ク事トナリ本日ヲ以テ辭職ス。スベテ清算ス

◆▼271ページ◆▼ 昭和7(1932)年9月16日(金)

天気 曇雨

今日モ又雨 夜早く出来上ル予定デアツタガヤハリ十一時迄カゝル

晝間雨ノ間ヲ見テ発動機テスト ヤ、良 之レナラ通ル見込ミ

鈴木伊上京 弘益社金受取り 小買物、航空局明日ノ検査打合せ

▲▼272ページ▲▼ 昭和7(1932)年9月17日(土)

天気 雨曇

今日モ終日降ル 夕方ヨリ止ム

局電話ニテ交渉 火曜日カ水曜日ニ行クトノコト

伊藤御国飛行學校ヨリ電話ニテマグネト修理スル小林重三工場ノ處ヲ知ラセテ來ル
安岡日満飛行ノ件ニテ飯沼へ行ク

局ヨリ右飛行ニ対シサルムソソ廿一日仮出シスルトノコト

▲▼273ページ▲▼ 昭和7(1932)年9月18日(日)

天気 曇リ

今日奈良原サンニ行クベク仕度シテ居ル處へ來ラレテ丁度ヨカッタ 安岡参加ノ件、理事會ノ件等ニツキ相談ス

午後飯沼へ参加條件ニツキ行ク予定ヲ明日ニ延期ス

▲▼274ページ▲▼ 昭和7(1932)年9月19日(月)

天気 晴

久シ振リデ好晴 上京 局ニ行ク 誰レモ居ラズ 奨励金廿五日ニハ間ニ合フカ富田氏ニ聞ク 大低(ママ)大丈夫トトノコト 平松氏ニ行ク 金出來ズ飯沼ニ行キ晝食ノ馳走ニナル 参加ニツイテノ打合せ 飯沼ニテ全部負担シテ賞金半額ニシテ呉レトノコト。発動機早ク送ルコトヲタノミ金百円受取り飛行館ニ行 伊藤西夫氏ニ電話シタラ廿二日ニシテ呉レトノコト ソレデハ拂下ノ間ニ合ワナイノデ明日最(ママ)非都合タノミ居ク 飛行館ニテ高橋外二名ニ飯沼ヨリ受取ツタ百ニテ返金 之レデ協会カラ借リタ金ノ件ハ終ツタガ一文ナシニナツタ訳ケ。奈良原氏ト拂下ニツキ安岡出スカ出サヌカニツキ相談 金ガ出來ナイカラ飯沼機ニヨル外ナカロウトノコト 児玉氏ニモ相談シタガ結局ソレニナル 自分トシテモ其方気樂デハアルガ之レニヨツテ金策出來ル方法ヲ講ズレバ今月ノ苦境ヲ切リヌケルコトモ出來得ルノデ帰宅後安岡ト相談 半額デハクラブカラ出テモソレ位ハヤレルノデ同ジ條件ナラクラブカラ出タイトノコト 又出シタイトモ思フ。

今月下志津へサルノ平衡器ヲ借りニヤツタ結果大分六ヶ敷カツタガ借リラレタノデ明朝取りニ行クトノコト 尚参加スルトシテ整備ガ間ニ合ワナイカモ知レヌノデアアルガ発動機ヲ持ツテ行ケバ下志津デヤツテ呉レルトノコトデアッタ

本日ヨリ上野組夜業ヲナス 九時迄

▲▼275ページ▲▼ 昭和7(1932)年9月20日(火)

天気晴

今日モヨイ秋晴レ ヒヤヽトテ気持チヨカッタ 朝目ガ醒メタ時夢バカリ見ルセイカ気分ガヨクナイ

上京 海防議(ママ)会ニ輕飛行機製作費援助ノ件ニツキ下相談ニ行ク 先ツ局ノ諒解ヲ得ルコト 具体的ナ願書ヲ出スコトトノコトデアッタ。予想通りノ話シデ勇ム 交信社ニ行キ弘益社其他ニ対スル件ヲ取極メ後チ競技会参加ニツキ千円借り度内五百円ハ廿五日返済分ヲ完済スルコトヲ申入レタ處廿五日ノ分ダケデアトノ五百円ハ勘辨シテ呉レトノコトデアッタガ廿五日ノ延期ガ先ツ之レデ出來タ訳ケ 伊藤氏訪問五時頃ニシテ呉レトノコトニ兒玉氏ニ行ク 経過ヲ話シタダケデ何等ヨイ智恵モ金モ出ズ。再ビ伊藤氏ニ行キ百円ノ内六十円ハ明日所沢ニテトノコトニ四十円受取り百円ノ領収書ヲ渡シテ帰途、カンヽヲ買ヒニ亀沢町ニ行ク 明日デナイトナイノデ内金十円ヲ渡シテ帰ル

▲▼276ページ▲▼ 昭和7(1932)年9月21日(水)

天気晴

サル拂下アリ鈴木ト所沢行キ 機体クジ引キニテ上物アタル 縁ギヨシ 発動機ト共ニスグ運送屋ニ渡ス 拂下代金伊藤酉夫氏百円ノ内昨日四十円受取六十円拂ツテ貰フ 帰途飯沼ニヨリ行違ヒニ所沢へ行ツタトノコト 四時頃電話デ話シテ帰ル

▲▼277ページ▲▼ 昭和7(1932)年9月22日(木)

▲▼278ページ▲▼ 昭和7(1932)年9月23日(金)

▲▼279ページ▲▼ 昭和7(1932)年9月24日(土)

時事 午(ママ)朝午前五時三十分報知日米號淋代ヲ出発ノームニ向フ

◆▼2800ページ◆▼ 昭和7(1932)年9月25日(日)

天気 少雨曇リ

時事 報知第三日米號行衛不明 昨日午後四時頃エトロフ島通過後

川辺君依頼ノ多摩川飛行ニ安岡吉田飛行 吉田ノアプロ脚破損 安岡二型ニテ取りニ
帰ル 四時四十分無事ニ田浜ニ帰ル

自分奈良原氏訪問 坂本ノ方ノ件聞キニ行ク 飛行機購入ヲヤラズ練習シタイトノコ
トノ由 ソレナラ金ヲ帰ル事ヲセズ入会金ヲ入レテ貰ヒサエスレバヨイ事トシテ貰フ様話
シ帰リニ三田浜ニヨリ安岡ト同道シテ帰ル 水戸部氏來ラズ 七時頃來ル。サル買入レ
方ヲ交渉ス

◆▼2811ページ◆▼ 昭和7(1932)年9月26日(月)

安岡下志津ニ出張 漸クヤツテ貰フコトニキマツタ由

午後六時水戸部氏ト船橋デ會見予定ノ處午後來場サル 買取リハヤメ代リニ七百円
クラブへ寄贈スルカラ必要ノ場合クラブノ規定ニヨリ機体ヲ使用サセテ貰ヒタイトノコ
ト スグ半金ヲ入レアトハ來月一日ヨリ五日迄ニ呉レル由

大坂ヨリ一名入会 入会金弍百円前納 大ニヨシ

◆▼2822ページ◆▼ 昭和7(1932)年9月27日(火)

天気 曇リ

本日ヨリクラブ員三名出張 下志津ニテ發動機初マル

下志津八八一機發動機故障ニテ不時着 汐ノ爲メ明日帰ルコトナル。田辺氏來 奉
天ニテ會ツタ人デアッタ

午前奈良原氏同道千葉ニ行キ徳永氏ト縣廳ニ行キ木工課長ニ飛行場問題ヲ説明シテ
帰ル 知事不在

鈴木局ノ金受取ツテ帰り、工場員全員ニ八月分迄全部ト二三名九月分ヲヤル
アト材料取ルノニ少シ困ル

◆▼2833ページ◆▼ 昭和7(1932)年9月28日(水)

天気 雨

局へ飯沼発内部検査追加ニ行ク 誰レモ居ラズ江口氏ニタノム。宗里氏ニ會フ 木部君
ノ分過日ノ奨励金デ終リニシテ貰ヒタイトノコトデアッタガ調べタ上デ返事スルトテキ
メズ

英ニテワユニー二十カン買ヒ現金支拂ヒ飯沼ニ行ク 不足部品ト工場用ノタンク購入
英迫持参 明朝角武蔵へ出荷シテ貰フコトトス。飛行館ニテ鈴木伊ニ會ヒ警視廳ノ方今
日手續キ出來ズ高橋ノ機体間ニ合ワザル由。奈良原氏ニ一寸會フ 明日ヨリ來月三日
追崎玉行キノ由。交信社ニ行キ高橋山崎氏ト會見。他ヨリノ申込ミハ全部交信社ニ廻
スコト 高橋ハ毎月十五円 飛ンダ場合五円ヲ交信社ニ入レルコトノ取極メ出來ル。遠
藤近來綱ヲ引イテ飛ンデ居ル由 明日警視廳ヲ調べテ交信社ヨリ遠藤へ抗義(ママ)ヲ
申込ムコト
七時ノ汽車ニテ帰ル マダ夜業 作業大分進ンデ居タ
下志津機今朝帰ル

▲▼284ページ▲▼ 昭和7(1932)年9月29日(木)

天気 曇リ雨

鈴木伊上京 山崎氏ヨリ二百円先キ借リヲサセル様ユツタガダメデアッタ
局検査ノ件警視廳其他一日二日ノ飛行手續キニヤル
鈴木クラブ練習ス
安岡下志津行キ

▲▼285ページ▲▼ 昭和7(1932)年9月30日(金)

天気 雨

今日ハ早く來テ三台六理ニモ上ゲテ貰フツモリノ處検査官漸ク午後一時來 聞ケバ駒
林今朝出張カラ帰ツタトノコト 氣ノ毒デモアツタ 畠山氏下志津ノ發動機内部検査
ニ行ツテ貰フ 駒林氏奈良原ノサル一台ダケ終リ飯沼ノハ明日見テ貰フコトニナル 御
国ノ完成ハ昨夜門松等徹夜シタノニ今日ハ見テ貰エナカッタノハ残念 四五日頃ニ決定
ス
夕方船橋ヨリ飯沼へ電話スル 不在 山田君ハ明日局へ行キ發動機ノ方來テ貰フ様ニ頼
ム様ニス。帰宅スルト宗里氏來テ待ツテ居タ八時半迄グチ話シテ帰ル

▲▼286ページ▲▼ 10月

- 1 工場作業予定通り促進ノ事(前月予定ノ給料支拂ヲ終了 入金モ稍ヤ順潮 但シ苦心アリ努力ノ給モノ)
- 2 海防義会軽飛行機製作費願書提出ノコト
- 3 羽田地所ダケデモ契約ノコト

▲▼287ページ▲▼ 昭和7(1932)年10月1日(土)

天気 晴

時事 大東京市実現 世界第二位ノ人口五百万トナル

東京森永ノ飛行ノ爲メ三台出張

小岩ノ明治牛乳ハ字幕ガヒツカツタ爲メ明日ニ延期

▲▼288ページ▲▼ 昭和7(1932)年10月2日(日)

天気 晴曇

今日モ休マズ 夜九時半迄

▲▼289ページ▲▼ 昭和7(1932)年10月3日(月)

天気 曇後雨

時事 リットン報告書発表 日本ニ不利ナリトテ世論ゴウ、

秋晴レノ上天氣ガ次第二悪クナル

十時頃御国ノサル今日試飛行検査ニ行クトノ局カラ電話アリ 安岡下志津出張中ニ

ツキ電話ニテ呼び返ス

一時半頃來 此頃ヨリ雨降り出ス 汐モ上ゲテ來タノデ僅カニ二十八分ヨリ飛ベズ 消

費量試験ノ結果ガソリン四十二キロ カストル九キロ余ニナルノデカストル多キタメ不合

格トナル 明日一時間程ヤリナオシテ見ルコトニ決定ス

下志津ニテ試運轉アリ 安岡再ビ飛行機ニテ出張

夜水戸部氏へ行ク

夜業九時迄

今日ハ實ニインガシカッタ

▲▼290ページ▲▼ 昭和7(1932)年10月4日(火)

天気 雨

大雨ノ中ヲ安岡ト下志津ニ出張 発動機整備ノ礼廻リヲナシ試運轉ヲ見テ、スグ取オ

ロシ船橋ノ大沢ノ自動車ニテ送ル 道悪ク暗クナツテ帰ル 自分等ハタクシーヲヤトヒ帰

途四ツ街道ヨリ佐倉街道ニ出ル十字路ニテ乗合自動車ト衝突 両自動車共損傷アリ

シモ負傷者ナク幸デアッタガソノ爲メ大分オクレ更ニ乗合ニテ千葉ニ出千葉ヨリタクシ

ーニテ帰ル ビシヨヌレニナツテ氣持チ悪ルカッタ

▲▼291ページ▲▼ 昭和7(1932)年10月5日(水)

天気 晴

伊藤酉夫氏外二名來場サレシモ局ト打合セノ上飛行セズ帰ル 成田山ニ參詣ノ由
今夜太田組三時迄 其他十二時迄夜業 夜食ヲ出ス

▲▼292ページ▲▼ 昭和7(1932)年10月6日(木)

天気 晴

秋晴レノ上天気 工場サル完成ニ近ヅク

午後駒林、松浦両氏來場サレタルモ引カズ飛行不能 昨日電話ニテ玉宮氏ニ再三申
上タルニ両氏ニ氣ノ毒デアッタ 七日ニテストシテ八日完成検査ヲ受ケル事ニ決定
佐藤孝夕方満州へ同乗希望申込ミアリ
安岡飛行服ノ算段ト確答調査ノ爲メ所沢ニ出張ス
鈴木伊弘益社集金 其他用件ニテ上京。
金太郎二八月分保健料持参セシム

▲▼293ページ▲▼ 昭和7(1932)年10月7日(金)

天気 晴

昨夜一部徹夜ス

松浦駒林両氏午後來場 昨日飛行出來ナイ事ヲ、玉宮氏ニ云ツテ居イタニカ、ワラズ
今日出來ルカラ行クトノコトデ來タトノコト 後チ伊藤酉夫氏局ニテ出來ナイトテ大ニ
シカラレタ由 役人デ勝手ナモノダ。出來ナイト云フノニ兔ニ角行クトテヨコシテ居イテ
文句ハコチラデヒヒタイクライ

▲▼294ページ▲▼ 昭和7(1932)年10月8日(土)

天気 曇リ

時事 陸軍訪満八八、九機所沢出發

駒林、松浦両氏三田浜へ來 受檢ス

機体十時二機三田浜ニ輸送ス 御国機順潮ニ終ル オイルパイプダケ改造スルコトナ
ル

安岡機オイル使用量十一立テ十リッター以上不合格トノコトニポンプ調整スルコトト
シテ五時頃堪航証出ル。鈴木局ニテ受取ル

鈴木菊遠藤ハツヒニ間ニ合ワナイ由
ポンプ交換ノ爲メ發動機部徹夜ス
其他及クラブ員六時ヨリ慰労会ヲ催ス

▲▼295ページ▲▼ 昭和7(1932)年10月9日(日)

天気 曇小雨

御国機オイルタンクパイプ改造ス

昨夜徹夜シテオイルポンプヲ交換シタ安岡機ハ七時頃飛行 三十分実測ノ結果六キロ
ニ減ジ大ニ楽ニナル 津田沼ニ着陸手入レ後再ビ三田浜ニ行キ車輪カバーヲ付ケル。安
岡二百円 佐藤二十円渡ス

鈴木弘益社ノ金受取ツテ帰ル。安岡ト三田浜ニ行ク 五時頃二機羽田へ出発 自分ハ
上京 平松氏ニ行ク 不在 英ニテ買物ヲシテ大蔵宅ニ行キ泊ル
安岡、佐藤、羽田ニテ泊ル
鈴木遠藤日曜モ仕事 受検セルラシ

▲▼296ページ▲▼ 昭和7(1932)年10月10日(月)

天気 ■後晴

三時半起床 大蔵ヲ起シ四時出ル 空六星デー杯 上天気デアッタ 山下デ円タクヲ
ヒロヒ羽田ニ五時前ツク 東日ニ泊ツタ安岡ヲ起シ第一ニ準備出来タガテ遠藤機來ラズ
六時半ヨリ出発式アリ七時漸ク遠藤機來 七時十分岩井機ヲ先登ニ遠藤機ヲ八時二
十分七機全部出発ス 鈴木菊モ間ニ合ツテ昨夕來タトノコト 航空局ニテ情報ヲ聞キ
大坂発ヲ聞イテ児玉氏ヲ訪問 挨拶シテ帰宅ス 皆故障ナク進ム 出発ガ一時間遅レ
タノト名古屋デ又一時間程オクレタノデ太刀洗着ハ六時頃ニナツタノデ先着柴田、鈴
木、遠藤、三機 アト安岡岩井松葉ハ広島ニ泊ル。沢田機ハ大分縣日田郡ニ不時着セシ
モ機体無事トノコト

▲▼297ページ▲▼ 昭和7(1932)年10月11日(火)

天気 晴

蔚山迄ハ順潮 スコブル平凡デアッタガ蔚山カラ京城ノ途中鈴木柴田ダケ進ミアトハ不
時着ニ機 引返シニ機。鈴木柴田新義州泊リ 安岡発故障ニテ引返シ 岩井モ引返シ
蔚山泊リ 安岡ヨリマグネット故障直リ明朝六時出発ノ予ノ由入電アリ。ヤット安心ス

▲▼298ページ▲▼ 昭和7(1932)年10月12日(水)

天気 晴

終日夜八時迄最後ノ日トテ大サワギ コトニ昨日蔚山泊ノ安岡ガ今日新京ニ達スルヤ
否ヤ心パイ 朝早ク出レバ大丈夫 行ケル予定デアアルガ
遂ヒ二岩井機大破ノ報アリ 安岡順潮ニ進ンデ午後五時三十六分無事新京着 時間
十七時間五十五分。鈴木ハ朝十二時三十五分新京一番乗 十八時間十五分 柴田
後一時過ギ十八時間十八分 安岡一等鈴木二等ノ報ニ嬉シカッタ
所員クラブ員共大サワギデアッタラシイ 祝電ヲウツ

▲▼299ページ▲▼ 昭和7(1932)年10月13日(木)

天気 晴

時事 門松栄墜死

午後一時門松工場前約千米海中ニ墜落 ホトンド即死 甲ニ練習中
本日午前中休場シテ居タガ晝頃軍ト二人デ海へ出テ行クノヲ、チラト見タノガ最后
デアッタ 聞ケバ昨夜安岡ノ一等ヲ聞イテ三四人デ大ニメートルヲ上ゲ今朝頭ガイタ
イトテ休ンダ由。鈴木正憲ガ練習ノ爲メ呼ビニ行ッタノデ出テ來テ、豊田ガ三型ノ練
習ヲ終リ調子ガヨイカラ乗ツテ見テハト云ッタノデスグ乗ツタ由 一週(ママ)後四百米
位ニテ着陸前急旋回シテ機首下リ其マ、垂直二百米突位ニテ一度直リカケ更ニ急角度
ニ墜落シタル由。
豊田ガ調子ガヨイト云ワネバ、鈴木ガ呼ビニ行カネバ、酒ヲノマネバ、更ニ安岡ガ一等ニ
ナラナケラバ。之レスベテグチ。之レガ運命ト云ノデアロー

▲▼300ページ▲▼ 昭和7(1932)年10月14日(金)

天気 晴

局伊藤平松氏等へ鈴木上京サセル
伊藤氏金呉レズトノコト 明日送金スル由 幾等トモ不明。豊田ニクラブノ方相談ス
這入金ナイトノコト 豊田君ノ好意ニテ夜自宅ニ帰ル 一三百円作ツテ來ルトノコト
之レニヤット安心ス 安岡ノ賞金又ハ局ノ奨励金ニテ返金ノコト
大体予算二百五十円位ノ予定
栄ノ助兄來場セラル 午前中ニ遺骸ヲ工場應接室ニウツス

▲▼301ページ▲▼ 昭和7(1932)年10月15日(土)

天気 曇リ

本日工場内ニ祭場ヲ設ケル

花環等ヲ注文終ル

▲▼302ページ▲▼ 昭和7(1932)年10月16日(日)

天気 雨

門松告別式午後二時ヨリ初メル 無事終了

早朝骨上ゲニ行キ榮ノ助氏ニ石川ヲツケテ母堂着京ヲ迎ヘニヤル 十一時頃到着

今夜ハ全員デ最後ノ通夜ヲ行フ

夜スベテノ計算ヲ終リ香奠全部三百九十四円ノ内逋信省ノ目録ダケト協会ノ花環料ヲ差引全部遺族ニ贈ル。後チ遺族ヨリ航空神社へ百円寄附アリ 外ニ小供二十五円 女中二五円 有難ク頂戴ス 之レデホ、葬儀ノ支拂ガ出來ル

▲▼303ページ▲▼ 昭和7(1932)年10月17日(月)

天気 晴

思ヒガケナイ快晴トナル 門松ガ永久ニ国元ニ帰ル日

六時起床 榮ノ助氏夫妻母堂ト朝食ヲ共ニシグライダーヲ見セテ思出ヲ新タニシ津田沼駅ヨリ出発 所員全部見送ル。両国九時二十分前デアッタノデ母堂ト妻君ヲ自動車ニテ震災記念堂浅草、上野、九段議事堂、宮城ヲ見セテ東京駅ニ行ク 此間四十分 十時発下ノ関行キニ乗車 工場ヨリ三名クラブヨリ二名 軍ト自分見送りヲナシ皆ト分レスグ帰宅。禮状ガマダ残ツテ居タノヲ全部出シ終ル 四時頃鳥飼氏來 夕食後帰ル

今夜ハ早く眠ル 昨日カラ少シ頭ガ変デアッタノデ

▲▼304ページ▲▼ 昭和7(1932)年10月18日(火)

天気 晴

本日ヨリ作業開始 本年度予定表ヲ作ル

鈴木新京発蔚山着 柴田蔚山着 安岡遠藤京城着 松葉奉天ニ引返ス

▲▼305ページ▲▼ 昭和7(1932)年10月19日(水)

天気 曇リ

鈴木蔚山ヨリ東京迄ツヒニ到着 柴田名古屋泊リ 遠藤広島泊リ 安岡岡山ニ不時

着 競技ヲ断念ストノ入電アリ 但シ無事ハ何ニヨリ

鈴木伊局へ検査予定表ヲ持参セシム

◆▼306ページ◆▼ 昭和7(1932)年10月20日(木)

天気 晴

思ヒガケヌ上天氣トナル 七時半宅ヲ出ル 途中鈴木菊ト同車シ飛行ノ經過ヲ聞ク
自分ハ浦和町ニ行ク 奈良原氏先着 アトヨリ四王天、児玉両氏來 十時縣廳ニ行ク
十一時過ギ埼玉飛行機献納会發起人會ノ開催 知事ヨリ説明アリ意義(ママ)ナク原
案決定 晝食後散会

奈良原氏ト羽田ニ行ク。柴田機一時間二十何分カニテ到着 スグ名古屋ニ歸ツタ由
遠藤機待ツ内安岡機モ名古屋出發ノ報アリ 遠藤機天龍川原ニ不時着 出發見込ミ
ナシ 人機体無事トノ入電アリ 安岡薄暮四時五十八分無事到着 祝杯後日日ニトマ
リ明朝津田沼へ空輪シテ歸ルコトトス 水戸部氏ノ案内ニテ如水館ニテ奈良原氏ト夕
食ノ馳走ニナル 帰宅

◆▼307ページ◆▼ 昭和7(1932)年10月21日(金)

天気 雨

驗(ママ)査ノ件ニテ電話シタガラチ明カズ鈴木ヲ又上京サセル
夕方晝頃安岡佐藤帰場 夕方ヨリ二人ノ外ニ鈴木菊ヲ呼ビ尚沢柳、今村、等ト夕食
ヲ共ニ競技談ニ花ヲサカス

◆▼308ページ◆▼ 昭和7(1932)年10月22日(土)

天気 晴曇リ

中君ヨリ昨日電報ニテ正午飛行館ニテ會ヒタシトノコトニ九時頃ヨリ上京 局ニ寄ル
丁度中鵜飼二人デ來テ居タ 共ニ飛行館ニ行キ晝食ヲ取り後チ道永君ニ會フ 大体グ
ライダーノ件ヲ聞ク 明日飛行場へ來ルトノコトニテ分レテ帰途飛行服ノ禮ニ日日新聞
ニヨル 和田氏不在 一時間程大蔵ト話シテ帰場。ヒヤシンスノ水栽培用球ヲ三ツトビ
ンローヲ買ツテ歸ル

羽田ヨリサル空輪シテ歸ル
大口本日ヨリ工場ニ出ル グライダーヲヤラセル

◆▼309ページ◆▼ 昭和7(1932)年10月23日(日)

天気 曇リ

中鵜飼十一時頃漸ク來ル 晝食ヲ共シアトセコンダリー式台注文書ヲ書カセテ今日ノ

分現金四百円ニテ引渡ス。アト八百五十円全額ノコト。十二月中ニ引渡スコトトス。
名儀(ママ)ハ日本グライダー聯盟ノ名儀(ママ)トスルコト。兩名夕食ヲ川辺ニテ馳走ニナ
リ帰ル

夕方早弓君明日局へ呼び出サレテ居ルトノコトニテ來場ス
昨日養命酒ヲ買ツタノデ今日ハ頭ガヨカッタ

▲▼310ページ▲▼ 昭和7(1932)年10月24日(月)

天気 晴

今頃夜早ク眠クナリ早(ママ)早ク目醒メル

食事ヲヨク喰ム様ニナツテ近頃下痢ガシクナツタ。食炊モ進ムヨウダ。晩シヤクモヤル
カ、朝ノ腹工合宜シク夜中ノ便通モ少ナクナツタ

廿九日受検ニ間ニ會ヒソウモナイノデ大ニ氣ヲモミ上京ヲ見合セ工場作業促進ニツト
メ太田組本日ヨリ夜業ス

▲▼311ページ▲▼ 昭和7(1932)年10月25日(火)

天気 薄曇リ

アンリ才受検ノ爲メ三田浜ニ安岡外数名連レテ行ク。無事通過。辻本、坂本両氏來場
今日ハ大変心持チヨク通過シタ。辻本氏一時間離陸ヨリ着陸迄行フ。夕方帰ル

高川組モ本日ヨリ夜業

上野所沢拂下引取りニ出張サセツヒデニ飯沼ノ不足部品ヲ取りニヤル

竹内練習生ノ父來。極力受検ヲ止メサセルベク説キタルモ本人キカヅ種々相談ノ上川
辺氏アブロ貸シタキ希望アリ。ツヒニ二百円ニテ借リルコト。万一破損ノ場合ハ使用ニ堪
エズナリテ四百円支拂フコト。其ノ金ハ飛行士奨励金ヲ担保トスルコトニテ決定。即夜
百円渡シアト二日以内ニ送金スルコト。本人ト田中近矢君空輸ノ爲メ今夜大坂ニ立ッ。
クラブデハ責任ヲ負ワザルコト。自分個人トシテ労ヲ取ル

▲▼312ページ▲▼ 昭和7(1932)年10月26日(水)

天気 晴曇

朝冷エ々々ト秋冷ヲオボエル

作業トクレイニツトメル

鈴木奨励金受領。其他用件ニテ上京サセル

川辺氏本日下午坂ニ先立ち諒解ヲ得ニ來ル。先ヅ土地ノ解決ヲツケルコト。ソレ迄工場ノ
支拂ヲ裕余(ママ)スルコトトス

飯沼へ電話ノ爲メ宗里へ午後行ク
飯沼ヨリ夕方オソク自動車來 部品及ビ昨日ノ拂下品到着ス
安岡今朝名古屋へ行ク

▲▼313ページ▲▼ 昭和7(1932)年10月27日(木)

天気 晴

名古屋ニテ賞品授與式アリ
竹内二等試験野外無事終了トノ入電アリ ヤレ、

▲▼314ページ▲▼ 昭和7(1932)年10月28日(金)

天気 晴

太田組本日ヨリ十一時迄夜業ス 明日受検ノ爲メ
鈴木明日ノ飛行ノ爲メ手續キト昨日飛行ノ弘益社ノ金受取り、局検査確定ニ上京ス
伊藤西夫氏金請求 一二日後ニシテ呉レトノコト
鍛冶屋ヨリ主人來 川辺ノ件 取ツタ金ヲ返ストテ自由行動ヲ取りタイカラ其旨川辺
君ニツタエテ呉レトノコト 傳エスルガ何故川辺君居ル内ニ直接話シシナカッタカ。自分
ハ直接話シテ貰フ様ニ過日事ワツタ筈デアルシ又ステニ川辺氏直接四百円トノ取キメラ
シタノデアッタコトヲ指適(ママ)シテ居ク 何ニカト申(ママ)介者ナラマダシモ責任者アツ
カイスルコトハ筋違ヒデアル

▲▼315ページ▲▼ 昭和7(1932)年10月29日(土)

天気 曇リ

十二時頃三田浜へ検査官來タ由 一時頃行クトノコト 準備シテ待ツ。鈴木アブロ内
部検査。グライダー飛行試験。発動機ハ鈴木ト奈良原ローン内部検査ヲ終ル。中君ヨ
リ戸籍抄本來ラズ打電ス
安藤ヘローンバルブ發送セシヤ打電セシモ返電ナシ
大坂ヨリマグネト到着ス
石川ヨリグライダー材料自動車便ニテ到着ス。今日モ鈴木上京ス。卅一日ノ飛行ノ手
續キノ爲メ
川辺へ昨日ノ件手紙ヲ出シ解決策ヲ取ル様ニ進メル 尚広瀬ヨリモ直接川辺へ請求スル
様川辺ノ所書キヲ鍛冶屋へ持参ス

▲▼316ページ▲▼ 昭和7(1932)年10月30日(日)

天気 曇リ

日曜朝ユツクリ眠ル

鈴木菊來 川辺ノ件鍛冶屋ヨリ所長ガ鈴木ヘモ川辺ヘ手紙ヲ出シテ貰フ様ニトタノマレ
タトノコト 馬鹿ナウソフヲ云ツタモノ

空中作業ヨリ三日ニビラ散(ママ)キヲヤリタイトノコト 返事ヲ保留シテ田中ニ電話ヲ
シ三日大東京市一週(ママ)百円ニテキメ午後三田浜ニ行キ百六十円ニテ返事ス 明日
中ニ返事スル由

明日ノ飛行ノビラト金來ル 鈴木伊受取ル 昨日ノ交信社金受取ラザリシ由

豊田君ニ弍百円返金 今夜返シニ行ツテ貰フツヒデニ飯沼ニヨリマグネット貰ツテ來ルコト
ヲタノム 飯沼ヘハ電話スル 主人不在 妻君ニタノシテ居ク

▲▼317ページ▲▼ 昭和7(1932)年10月31日(月)

天気 曇リ

朝降ツテ居タガ後止ム 豊田帰場遅ク吉田ニ代ツテ東京飛行ヲヤラセル 二時出發ニ
時半帰ル

鈴木局、伊藤西夫集金、其他用件ニテ上京 岡田ニ會ワセル。午後岡田ヨリ電報アリ
シモマダ鈴木ト會ワナイラシイ

竹内名古屋ヨリ帰場ス

安岡ヨリ二日堪航証ト、クカラ帰ルトノ入電アリ

グライダー写真ヲ取ル

相馬ノ弟集金ニ來リシモ來月十日頃トスデニ手紙ヲ出シテ居イタ筈デアル旨ヲ述ベル

▲▼318ページ▲▼ 11月

- 1 工場本年内作業促進ノコト
- 2 軽飛行機製作費ノ件
- 3 羽田地所確定ノコト

▲▼319ページ▲▼ 昭和7(1932)年11月1日(火)

天気 晴

サルマグネット―チャーヂトグライダー模型協会ノ理事会ニ出席 十一月ノ大會中止ニ
關ル件ニツキ協議 來春迄延期スルコトニ決定 尚同協会ヲ根本的ニ改造ヲ要スルコト
トナリ直グ理事会ヲ開クコトトス。奈良原氏例ニヨリ大會費用ノ約半分三百円ノ金策

ヲ引受ケ出來ナカッタ由 困ツタ人ダ 帰途同協会ニ責(ママ)極的ニ何ニモヤラナイ方
針ヲ健(ママ)議シテ居ク

▲▼320ページ▲▼ 昭和7(1932)年11月2日(水)

天気 雨後曇

安岡帰ルトノコトニ朝天候通報ヲナス 晝頃大雨トナル 鈴木伊上京 伊藤氏集金
夜八時半頃電報ニテ八十円ダケ小切手ヲ受取ツタトノコト アス小供ノ運動会ニ着セ
ル服ヲ買ツテ帰ツテ貰フ予定ガダメニナツタノデ金太郎ニ金策サセ明朝間ニ合サセル
晝食中下志津ノ国森大尉來場 妻君児供同伴 ビールト茶ヲ相手ヲナス 間モナク帰
ル 自動車ニテ送ル 夜中沢長太郎君來 明日競馬ニ一所ニ行ツテ呉レトノコトデアッ
タガ、ソエトコロデナク今晚泊メル

▲▼321ページ▲▼ 昭和7(1932)年11月3日(木)

天気 晴

上天氣トナル 早朝金太郎ガ徳治ト仁三郎ノ服ヲ買ツテ來テ呉レタ ヤット間ニ合フ
後チ昨日ノ八十円ノ小切手ヲ宗里ヤリ四十円現金ニテツリヲ取り内廿五円六十六
錢京成電燈へ持タセテヤリ残りノ内五円ヲ大口ニ五円ヲ佐藤ニ 百二十錢ヲ中沢君
ニヤル。晝食後學校へ運動会ヲ見ニ行ク 案外ツマラナク四時皆一所ニ帰ル 今日八信太
郎モ成績悪ク百米デハビリ 障害デ五等ダツタソウダ
夜吉田君帰り發動機不良ノ爲メ飛行ニ自信ナシトノコト ソレニ今日ハビラガ來ルノガ
オソク中止シ旅費三円ダケ貰ツテ來タ由。明日ノクラブノ飛行機ヲ借イタイトノコト
デアツタ由。後チキンニ電話デコトワラセル。話ニヨレバ、綱ヲ引クノダンウダ。警視廳ノ
方ガドンナコトニナツテ居ルカ調ベル必要ガアル

▲▼322ページ▲▼ 昭和7(1932)年11月4日(金)

天気 晴

▲▼323ページ▲▼ 昭和7(1932)年11月5日(土)

天気 晴

飛行館ノ航空神社例祭トクラブ理事会ヲ兼ネ上京
海軍ノオートジロガ來ルノガ呼ビ物デ参拝者ガ多カッタ。初メテ見ルオートジロ 割合

二早カッタノト空中デホトンド停止シテルカニ見エタノモ愉快デアッタ。大分各種ノ飛行機ガ來タ 一番最後ニクラブノ讀ンデ英霊ヲ弔フト云フ内アミヲ引イタノガ來テ無事歸ル

四時ヨリ理事会 安岡出席間ニ合ワズ。奈良原氏ヨリ会計報告 自分ヨリ日滿飛行ト軽飛行機ノ製作ニ関スル報告ヲナス。金ナク夕食提供ヲ止メル
夜帰宅シタラ清平ガ來テ居タ

▲▼324ページ▲▼ 昭和7(1932)年11月6日(日)

天気 曇リ

今日仕事ヲスル様昨日命ジテ居イタノデ作業セズニ三來タモノモ休マセル
菅野時代ニ種カラ出來タ松ガ密生シテ居ルノヲ小鉢ニ分ケル 余リ多ノデ、数本地植ニスル

清平ニヤル金ナク猪又ヨリ十円借り内五円ヲヤル

▲▼325ページ▲▼ 昭和7(1932)年11月7日(月)

天気 雨曇リ

清平早朝帰京ス

夜八時頃大坂ヨリ五時清子死ストノ入電アリ ツヒニ生前ヨイ醫者ニカケタイトノコトニ金ヲ送ツテヤルコトガ出來ナカッタノデ、何ンダカ死ナセタ様デ、責任感ニ打タレタ

▲▼326ページ▲▼ 昭和7(1932)年11月8日(火)

天気 曇リ

鈴木ヲ局其他へ上京サセル

早朝鈴木菊ヨリ五十円間ニ合セル様話ス 十円ダケ持参 アト郵便局時間ニ間ニ合フ様ノ持ツテ來ルトノコトナリシモ夕方、クラクナツテ持参ス 大坂へ送レズ明日ノコトニス午後一時船橋警察署へ來イトノコトニ行ク 大演習中ノ御警衛ニ関スル件デアッタ。ツヒデニ三田浜へヨリプロペラト車輪ヲ取りニヨル。丁度サルノ試験ニ辻本畠山氏來 終ル迄居タノデオソクナル

▲▼327ページ▲▼ 昭和7(1932)年11月9日(水)

天気 晴

鈴木伊休ミ

三ミリ操縦索ニテ佐藤へ数度電話ヲナス。夜漸ク來ル。金太郎ニ上京サセタリ大變ナ損害デアッタ

局へ電話スル 明日検査ニ來ル由
大坂へ三十円電報爲替ニテ送ル
午後ヨリ八九月分決算ヲナス

▲▼328ページ▲▼ 昭和7(1932)年11月10日(木)

天気 快晴

名古屋新聞賞金受領。万国婦人小供博出品ニ関スル件 伊藤酉、平松氏等へ鈴木伊ヲヤル 夜十一時頃帰ル 金ダケ預ル
検査官午後一時半來場 鈴木ノ見ノコシダケ見テ貰ヒスグ三田浜ニ行キ飯沼ノサルヲスマセル 日オチル迄飛行シテ漸ク終ル

▲▼329ページ▲▼ 昭和7(1932)年11月11日(金)

天気 晴

在宅 八九月分決算ヲ行フ

▲▼330ページ▲▼ 昭和7(1932)年11月12日(土)

天気 曇リ

夜野口君來 航空通信社対道永及飛行協会ノ事件初メテ聞ク 同氏ハ奈良原氏ニ調定(ママ)ニ立ツテ貰ヒタイカラ僕ニタノンデ呉レトノコトデアッタガ明日ノコトニス。要ハ協会ノ室ヲ借サナイノニツイテ道永ノ不正事件ヲアバキ出シタトノコト ヨクナイコトデアル。ガ今ノ四王天氏ノ非常ナ努力ニヨリ信用回復期入リツ、アル協會ニ又道永ノコトガ新聞ニデモ出テ不評ヲ立テナラレテナラナイノデ其點ナントカシナケレバナラナイト考ヘル。尚大池ニ対シテハ、ソシナコトヲスレバ四王天ヨウ護運動ヲ起スカラト野口ニ云ツテ居ク

▲▼331ページ▲▼ 昭和7(1932)年11月13日(日)

天気 晴

昨夜ノ野口氏ノ話シニツキ奈良原氏來場 話シハシタガ同時ニ二三日前顧問ヲ辭シタバカリノ閣下ガ仲介者ニ立ツノデ變ナノデ止メル
十時ノ予定ガオクレ十一時ヨリ鈴木ノ格納庫開キ 協会ノ小野少将奈良原、馬詰、

木暮伊藤西ノ諸氏 土地ノ町會議員船橋警察署長其他。町長不在 盛会デアッタ
コモ、飛行場ノ必要ヲ説イテ町民ニ聞カス

▲▼332ページ▲▼ 昭和7(1932)年11月14日(月)

天気 曇リ夜大アラシ

上京 局ニヨリ警視飛行館ニ行ク 大池、大竹、野呂、諸君アリ 事情ヲ聞キ協会側
トモ数回交渉シヤ、解決見込アリトアッタノデ中(ママ)介役ヲナス事トシ解決ノ上ハ正
式ニ仲介者トシテ戸川氏ヲタノムベク會ツテ居ク 條件ガアツテハイヤダガサモナケレバ
トノコトニ之レモマツヨシ 四王天氏本夜旅行セリトノコトニ廿七日帰場遅延期イコト
トシテ明日正午迄ノ解決不能トナル
夜大蔵ノ宅ニトマル 次第二大アラシトナリ大正六年以來ノ大暴風雨トナル ツヒニ安
眠セズ津田沼ガ心配ニナル

▲▼333ページ▲▼ 昭和7(1932)年11月15日(火)

天気 晴

三時頃ヨリ少シ眠ル 八時起床 朝食後九時大蔵ト同道ス 上野ノ山デハ徑ニ二尺位ノ
大木ガタオレテ居タリヘイト云フヘイホトシンドタオレテ居タ。東日ニヨリ津田沼ノ様子
ヲ聞クベク電話シタガ、カ、ラズ 警視廳ニ行ツタガ助川氏來ラズ飛行館ニテ大池氏ニ
會フ 昨日ノ経過ヲ大池氏ニ話ス 結局四王天氏新潟ヨリ帰京スル迄待ツテ貰フコトニ
キメル 大池氏道永問題ハ別ニシテ起訴シテハトノコトナリシモ自分トシテハ室ノ貸借問
題ヨリソノ方ガ大切ナノデ共二十七日正午迄延期セシメ後チ大竹君ト地下室ニテ會
談 大池氏ニ室ノ問題ヲテツカイスルコトニセヨト可ナリ、ツツコンデ話ス 大竹ハ万事ヨロ
シク大ニツトメルトノコトデア安心シテ帰ル
夜野口君來 道永君ガ表面記者クラブトシテモ一度行ツテ來イトテ平氣ヲヨソオツテ
居ルガ、内心心配シテ居ルトテ様子ヲ聞キニ來タノデ今日ノ處大竹ハ道永問題ニツキ
二人デ懇談スレバ氷解スルトノコトデアッタノデア安心スル様ニ云ツテ居ク

▲▼334ページ▲▼ 昭和7(1932)年11月16日(水)

天気 雨

曇リ雨。鉄聯明日ノ記念祭飛行引受ケル

明日検査官來トノコト 準備サセル

野口君昨夜泊ツタトカ今朝安岡ト來場 九時頃ノ自動車ニテ帰京ス

水谷氏來

◆▼335ページ◆▼ 昭和7(1932)年11月17日(木)

天気 晴

八時ノ自動車ニテ上京 局ニヨル 辻本坂本両氏津田沼へ行ツタ由 警視廳ニ行ク 明
日ノ洲崎着陸不能 其旨弘益社へ電話ス ビラハ本日中發送スル様
十時半飛行館着 大竹氏大池氏スデニ來 協会側ト數回往復 午後四時協会側四王
天、小野、井上各閣下 大池、大竹、木幡三氏ニ自分立會ヒ何等條件等ナク双方過
日ノ過言ヲ謝シ一シキリ記者團談ニテ引下ル

會見前大池氏ヨリ條件ニハシナイカ道永氏ノ尽力デ記者クラブニ加入ガ出來タラ四王
天氏ノ言ニヨリ室ヲ借ルコトヲ申込ム。然シ條件ニヨリ協会デ貸スト云ツテモ借リナイ
カモ知レヌトノコト。協会デモ條件ニヨツテハ貸サナイモノデモナイトノコトニテ本問題ハ
本日フレズ双方ノ腹ニ入レテ居ク

アトハ道永対大竹問題デ之レニモ大池氏ヨリ自分ニ尽力ヲ乞フトノコトハ止ムナク道永
氏本日來ラズ自宅訪問 不在ナリシモ帰途駅ニテ會ヒ再ビ引返シ明日正午會見サセル
コトニシテ打合セ大竹へ其旨打電シ弘益社ニ立寄りビラ受取ツテ歸ル
(協会ノ方無事解決シタノデ愉快デアッタ)ガ少シツカレタ

◆▼336ページ◆▼ 昭和7(1932)年11月18日(金)

天気 曇リ

上京 十一時飛行館着 大竹氏ニ先ヅ會フ 道永君ニ対シ別ニ要求ガマシイコトハナイ
トノコト 大池氏ニ意見ヲ徹ス條件トハシナイガ、クラブニ入会出來ル様アツセン方ヲ乞
フ 然ル上室ヲ借リルコトノアツセンモ頼ムトノコトデアッタ 道永君ニ會ヒ大竹君會食
サセルコトニナリ道永君知合ヒノ鳥屋ニ行キ二時間程タガヒニ、イマ迄ノ不満ヤスベテラ
ハキダサセ大部分ゴカイデアッタコトガ判明。道永君ノクラブ入会ノ骨折ルコト。ソレガ
出來ル迄假リニ室ニ出入ルコトダケデモアツセンコトニ話シキマリ飛行館ニ引上げ
大竹氏ニ報告シ來週大竹道永君ノ會見ヲ計ルコトシテ協会ノ井上氏ニモ報告 佐藤
ニ立寄り帰宅

◆▼337ページ◆▼ 昭和7(1932)年11月19日(土)

天気 晴

鈴木伊ヲ伊藤酉夫氏其他へヤル

後チ長サンニ行ク 梅毒十二(第二期)デアルトノコトニ早速六〇六ヲ注射シテ貰フ 十
本位必要ダロウトノコト

奈良原氏二行ク 不在 明日ノコトヲタノンデ帰ル 中山競馬ニテ自動車デウゴケナカ
ツタ 帰りハ電車ニスル
中沢長太郎君電話料ニ取ツテ居イタ金ノ内ヨリ十円ヤル 帰ルニ來ルト云ツテ居タガツ
ヒニ來ナカツタ

野口君時代社ノ一月号言(ママ)稿ヲ取りニ來ル。八年度ノ希望トノコトニ飛行場増設
(ママ)、レコト懸賞、毎年日本週(ママ)回飛行競争ヲ行フコトヲ話シテ居ク

▲▼338ページ▲▼ 昭和7(1932)年11月20日(日)

天気晴

本日安岡ノ日満飛行談ヲ行フベククラブ員及工場員午後集同 奈良原氏來場セラル
然ルニ安岡昨日ヨリ照井ニ行ツテ帰ラズ止ムナク坐談会ヲ開キ奈良原氏ヨリ一場ノ御
話シト自分ヨリ操縦士ノ心得等ヲ話シ雑談ニ時間余 ヨイ会合デアッタ
夕方野口君ト夕食ヲ共ニス

▲▼339ページ▲▼ 昭和7(1932)年11月21日(月)

天気晴

鈴木ヲ午後ヨリ伊藤西氏ヘヤル 外ニ洲崎ノ着陸許可ヲ取ルコト

今日ハ蒼鉛ヲ注射第一回 オシリニヤラレタニ驚イタ 右足ノ傷ハドウモヤハリ梅毒性
ノモノラシイ

野口君帰京ニ一円貸ス

今日ニテ中山ケイバ終ル 中沢ツヒニ來ラズ 之レデ再ビ來ナイダロウ

▲▼340ページ▲▼ 昭和7(1932)年11月22日(火)

天気晴

鈴木昨夜帰ラズ 伊藤西氏呉レナイラシイ

修理サルノ計算ヲナス。八九月分計算マダ合ワズ閉口ス

大口君今朝ヨリ來 数日無斷デ休ンデ居タノデ氣ニシテ居タ處デアッタ 東京へ金ヲ
取りニ行ツテ居タトノコト

自動車ノ都合ニテ今日ツヒニ下志津へサルノ器具返納ス佐藤同行ス

鈴木正憲十年式太田原三行ク途中カスミヶ浦ニ不時着 下志津ニ帰り午後帰場ス

▲▼341ページ▲▼ 昭和7(1932)年11月23日(水)

天気 晴

午前長サンヨリ飯沼ニ電話シテサル勘定ニ行クコト打合セ午後直行ス。ニユーム削出荷
デインガシソシテ夕方終ル迄待ツ 夕方(ママ)ヲ共ニシ明日内金取ルコトニキメテ帰ル
サル合計五百円ハ、モウケニナラナカッタガ。高橋デハ羽布全部張替テ八百円ノ由ニテ
止ムヲ得ナカッタ

▲▼342ページ▲▼ 昭和7(1932)年11月24日(木)

天気 晴

鈴木伊局検査打合せ其他ニテ上京セシム
飯沼ヨリ百五十円受取ル 買物ヲナス

▲▼343ページ▲▼ 昭和7(1932)年11月25日(金)

天気 晴

鈴木検査ノ件其他ニテ上京
安岡夕方ヨリ上京 佐藤ニテボールト受取りタノンデヤル
清平ヨリ電話アリ 四十五円入ル由 日曜日兎三角來テ見ヨト云ツテ居ク 飯沼ノ金
何ニカシテヤル外アルマイ

鈴木菊ヨリ航空神社へ百円寄附アリ 内五十円中台ヨリ借りニ來タ分貸ス 二十円ク
ラブ共内外 二百下志津へ行ツタ連中ニヤル
佐野手形百十五円口一枚落ス

▲▼344ページ▲▼ 昭和7(1932)年11月26日(土)

天気 曇夜雨

朝飯沼ノ金アト呉レルカラ確カメルベク船橋第一ヨリ電話スル 不在 山田君ニタノシ
テ居ク

終日気分晴レズ何事モ手ニツカズ
沢柳氏月曜日カラ三週間立川へ入隊ニツキ昨日ノ金ノ内ヨリ三十円渡ス
クラブ会則熊倉君ニ印刷ヲタノム

▲▼345ページ▲▼ 昭和7(1932)年11月27日(日)

天気 曇リ

七時半起床 食後長サンニ行ク 今日八第二回目ノ六〇六ト第四回目ノ蒼鉛ト一所ニ

ヤル。ツヒデニ飯沼へ電話カケル 残金貳百余円來月五日頃迄ニシテ呉レトノコトデアツタガ、ソレデハ清平へヤル分ダケ明日ニモ五十円程取りニヤルカラト諒解ヲ得テ居ク 清平ツヒニ來ラズ

鶴間氏同道者五名 同道内一名オソク乗レナカッタ アンリオ千円ノ内奨励金百五十円引クコトニシテ價格返事ス 川辺君二三日内ニ帰ル由 鈴木克衛帰場シテ話シアリ 鶴岡氏ノ方モ川辺氏帰リタル上ノコトニナル。午後盆栽ノ針金カケニ三四鉢ヤル 気分晴レズ

▲▼346ページ▲▼ 昭和7(1932)年11月28日(月)

天気晴

風ヲ引イタノカセキガ出テコマッタ

清平昨夜來 今朝帰ル 四十五円入用トノコトニ飯沼ヨリ受取ル様名刺ニ書イテ待(ママ)タセテヤル

▲▼347ページ▲▼ 昭和7(1932)年11月29日(火)

天気晴

弘益社ヨリ電話アリ一日飛行ノ爲メ上京ス

今日モ終日シツプラスル 長醫者ニテ第二十回ノ五回目ノ蒼鉛注謝(ママ) 今日勘定ヲ支拂フ 合計十二円余

中台過日ノ五十円返シニ來ル 正直ナ親父ダ コチラノ拂ハ五日頃トス 今日ハ終日寢ルツモリデ居タガツヒニ暇ガナカッタ

▲▼348ページ▲▼ 昭和7(1932)年11月30日(水)

天気晴

警視廳、伊藤酉夫平松買物等ニ鈴木伊上京

自分ハ鈴木菊アブロノ勘定書ヲ作り室内作業ノ見積書ヲ書イテ持タセテヤル 大工來 明日ヨリ、ソコヲノ暴風デコワレタノヲ直サセルコトトス 夜ラジオノ申込ミヤル

水戸部氏タ方來 ガンリン代ト格納庫料ヲ受取ル

河村本日フトンヲ取りニ上京ス

▲▼350ページ▲▼ 昭和7(1932)年12月1日(木)

天気 晴

大工ノ材料購入鈴木菊計算書ヲ作り持タセテヤル
第六回蒼鉛注射 信太郎例ノ耳ガ痛シダノデ今日ハ學校ヲ休ミツヒデニ長サンニ見テ
貰フ ヤハリ手術シタ方ガヨイトノコトデアツタ

▲▼351ページ▲▼ 昭和7(1932)年12月2日(金)

天気 晴曇リ

鈴木夕方方三百円持参 八百余ノ處コレデハ支拂ヒ何シモ出来ヤシナイ アト請求シテ
居ク
今日ハ手紙日 大坂ノ兄、姉、佐渡島氏ニモ久シ振りデ手紙ヲ出ス 中カラ來 川辺君
機体ヲ賣ツテ帰ルトノコト

▲▼352ページ▲▼ 昭和7(1932)年12月3日(土)

天気 晴

鈴木局伊藤其他用件ニテ上京
十一時頃醫師ニ行ク 第七回蒼鉛注射
鈴木研サル及アブロ各一機大田原へ飛行 ツヒニ帰ラズ
大田原ニテ武田練習生サルノペラニテ打タレ負傷 大シタ事ナキ由ハ幸ヒ

▲▼353ページ▲▼ 昭和7(1932)年12月4日(日)

天気 曇リ

終日在所 奈良原氏來場 太平洋大海戦ヲ貰フ 夜讀ム内ニトウ、朝ニナツテシマッ
タ

▲▼354ページ▲▼ 昭和7(1932)年12月5日(月)

天気 曇リ

鈴木上京。晝頃山田航空官ト江口氏來場 明日ノ飛行ニツキニ等ノモノニ飛行予定
質問アリ 四時頃ニ田浜樂園ニ行カレル
山本平八郎氏來場 グライダーノ金大坂ヨリ來タラ支拂フコト 十日來ルトノ手紙ア
リ見セル 鹿島飛行場設置ノ發起人ニナツテ呉レトノコトニ承認ス
午前中第三回目ノ六六 第八回目ノ蒼鉛ヲ注射ス

▲▼355ページ▲▼ 昭和7(1932)年12月6日(火)

天気 雨

晝頃山田氏來場 口頭試験アリ 晝食後江口氏ト碁ナドシテ帰ラル

▲▼356ページ▲▼ 昭和7(1932)年12月7日(水)

天気 雨

終日盛シナ雨メ 午後三田浜樂園ニ山田氏ヲ訪問 上京サレタアトデ江口氏モ遊ビニ出テ不在 スグ帰ル 九本目蒼鉛注射

▲▼357ページ▲▼ 昭和7(1932)年12月8日(木)

天気 晴

朝(ママ)ク上天気トナル 試験初マル

鈴木機二百アブロクラブアンリオ鈴木正十年式イツレモ太田原ニ出發 鈴木機ノミ帰還 下志津ニ泊ル 他、太田原泊リ

▲▼358ページ▲▼ 昭和7(1932)年12月9日(金)

天気 晴

山本機一度プラグク故障ニテ聞カエシ九時十五分太田原發 無事帰還 汐少ナク場内明日トナル

鈴木ノ方全部終ル 今日ノ試験官ノ晝食ニ鈴木ヘタノム

辻本、坂本氏來場 クラブアブロ試験 ワイヤ―五六本交換品アリタレドモ鬼三角終ル 鈴木ID發内部検査モ終ル。汐ノ爲メ津田沼海岸ヨリ離陸ニ田浜着

▲▼359ページ▲▼ 昭和7(1932)年12月10日(土)

天気 晴快晴

七時スデニ山田氏來場 マダ準備何等ナシ 大イソギデ呼びビニヤル 山本ノ場内ヨリ初マリ講評迄 十一時前終ル

三谷號命名式ニ出張サレルノデ羽田迄飛行機デ送ル準備ヲシタガ、遅イカラ止メルトノコトデ汽車デ帰ヘラル。江口氏アトニ残リアンリオニ同乗後竹春ニテ晝食 安岡ト一所ニ行ク

夕方帰場

山本スベテ良好トノ講評 ヤハリ練習ヲ充分ヤラセタ甲斐ガアツタ
鈴木上京サセル

◆▼360ページ◆▼ 昭和7(1932)年12月11日(日)

天気 晴

鈴木ヨリ九十円持参 金太郎東亜ヘニューム板買ヒニ上京サセル 後チ船橋ヘ注射ニ行ク 帰途花輪ニテ飛行場ヨリノ自動車ニ會フ アンリオニテ区民ニ負傷サセタトノコト 渡辺醫院ヘ行ク 自分一先ヅ帰宅 奈良原氏來場 様子ヲ聞キ直チニ先方ヘ挨拶ニ行ク 晝食後先生ト区長ヲ訪問 不在ニツキ、渡辺ニ行キ父親ニ會ヒ見舞ヲノベ奈良原氏 帰ヘラル 自分見舞品ヲ求メ再ビ行ク 夕方帰レルダロウトノコトニ決定スル迄待ツ 四時半頃再診 腹共内部ニ何等異状ナシ 筋肉ガ、ハレテ居ルダケデアツタガ、ヤワラカクナツテ居ルノデ脱腸等ノ事ノナイ様三日程入院シタラトノコトニ其事ニキメテ帰ル。 昨夜ノ電報デ清平來テ居タ アンザニーピストンノ件想(ママ)談ス

◆▼361ページ◆▼ 昭和7(1932)年12月12日(月)

天気 風雨

今日ハ降タリ止ンダリ雷ガナツタリ大キナ南風ガ吹イタリ変ナ天気デアツタ
会報ノ原稿

◆▼362ページ◆▼ 昭和7(1932)年12月13日(火)

天気 晴

風強ク(北西)検査官又オソク十二時過ぎ漸ク來 汐ハスデニドン、上ゲテ來ルノデ心配シタガ上田アンリオ漸ク飛行ス 三田浜ニ着陸ス 鈴木ID内部受檢ス 鵜飼ヨリ返電ナクコチラカラ行コカト打電ス 負傷者ヲ見舞ヒテ長サンニテ第四本目ノ六〇六ト蒼鉛注射 村山氏ハ午前中ニ退院ス 後安岡ヲヤリ食費ダケ支拂ヒヲナス

◆▼363ページ◆▼ 昭和7(1932)年12月14日(水)

天気 晴

鈴木上田アンリオ登録ノ爲メ上京サセル
川辺君ノ善後策ニツキ奈良原氏訪問ノ予定ノ處午後風強ク又旅費トボシク中止ス
夜川辺君ヨリ來電 奈良原氏ヨリ飛行機ノ金受取り十六日ノ拂下棒権(ママ)セヌ様シ

テ呉レトノコト 明朝ドウシテモ奈良原先生ニ會ワネバナラナイ
鵜飼ヨリ來ルニ及バズイサイ文トノ返電アリ 其旨山本平八郎氏ニ電話シ明日五十円
ダケ局ノ金ノ中ヨリ渡スコトヲ約ス

◆▼364ページ◆▼ 昭和7(1932)年12月15日(木)

天気晴

昨夜ノ川辺君ノ電報ニヨリ奈良原サンへ行ク予定ニシテ居タ處來ラレタノデ丁度ヨカツ
タ 今日鶴岡氏ニ會ツテ金ヲ鈴木ニコトツケルトノ事デアッタ

鈴木局ノ金受領 上田光雄会见等ニテ上京 早ク帰ル様云ツテ居イタガ暗クナツテモ
帰ラス

元井取りニ來タガ行ツテ居ルト返ス 山本平八郎氏モ二度モ電話ヲカケテ來タ 後チハ
四時頃マダ鈴木行カナイ由ニツキ協会ト英へ電話ヲカケル様話ス

今日村山ノ負傷者ノ入院料ヲ支拂ヒ長サンニテ十三回目ヲ注射

午後鳥飼繁三郎氏來 夕方大口ト三人會食ス

◆▼365ページ◆▼ 昭和7(1932)年12月16日(金)

天気晴

七時半津田沼発 船橋ニテ、ダツ線電車ノ爲メ乗替エ目黒高田ノ馬場ニテ鶴岡氏、其
他今日ノ拂下ノ人々ニ會フ 十時過ぎ井上氏來 マヅ入札ノ方ヨリ初メルコトニナリ指
名ノ八名行キテ二百二十円ニテ飯沼名儀(ママ)ニテ取り、アト移管ノ分ノ見積リ拂込
ミヲ終リ川辺分鶴岡氏支拂ヒ現品鶴岡氏宅ニ送ルコトニシテ同氏帰ル。八名組若葉ニ
引上げ入札ノ處分ヲキメ工場ハローン八十其他ヲ受ケ運送店ニテ發送方ヲキメテ帰
途、高田ノ馬場ニテ菊池ニ會ヒ十円ヲ渡し、アト商会ニテアンザニーノピストン改造ノ件
相談シ承認ヲ得

十時帰宅 ツカレテ床ニ入ル 朝ガタ小便ヲモラシ目サメル。ツカレ方ノハゲシイニ自カ
ラ、イヤニナッタ。モット健康ニナラネバナラナイ

◆▼366ページ◆▼ 昭和7(1932)年12月17日(土)

天気晴

本日皇太后陛下行幸ノ爲メ飛行出來ズ 安岡一人リ帰ル

鈴木伊上田ノ判モラウ爲メ上京サセル 妻君ノ談ニテ大塚警察署ニ居ルトノコトニテ刑
事ニ面會フヒシモ係刑事不在ノ爲メ會エズツヒニ空シク帰ル

今日ハ次ギ々々來客アリ 山本平氏來 大坂ノ方ダメニツキ結局五十円ダケ今月ホシ

イトノコトデアッタ 十九日返事スルコトニス。天王寺谷君來。奈良原氏明日ノ打合せニ來 五円渡ス
呉君米ガナイトノコトニ夜米ト味噌及金一円ヲヤル

◆▼367ページ◆▼ 昭和7(1932)年12月18日(日)

天気晴

安岡東京飛行ノ残りニ上京 午後三時頃帰ル
午前中長サンニ行ク 十四本目注射

午後浅井氏來 間モナク奈良原氏來予定通りニ時頃菅谷、田辺、和田氏來場 六時迄カ、リテ契約書成立ス スグ様調印ヲ終ル 自分ハ一度兎玉氏ニ相談シテカラト思ツタガ大勢スグ様調印ニカタムキ意ヲ決ス 一万円菅沼氏出資日本軽飛行機製作所新設 但シ伊藤へ注文スルコト 理事側トシテ奈良原氏、浅井氏、兎玉氏、ト自分。資本側トシテ菅沼氏外二名 内和田氏ハ辨ゴ氏(ママ)ダケニスグ契約書ヲ作り調印迄ハコブ尚、本契約ハ軽飛行機ノ販賣ニノミカギラレタルモノナルコトヲ契約面ニナキ爲メ念ヲ押ス 一同諒解アリ。廿五日五百円受取ルコト 一月五日二千五百円アトハ必要ニ應ジ出スコト 右ハ組合ヨリ工場へ軽飛行機注文ノ内金トシテ支拂フコトナル。田辺和田君ハ將來ノ爲メ飛行館内ニ事務所ヲ置キタイトノコト熱心ニ申出アリ 奈良原氏先ヅ協(ママ)メイサレタガ余リヨイコトデハナイ 二人ノ説デハ新出資者ヲ物色シテ大会社ニスル意向ラシイ 多少警カイヲ要スルニアラズヤ

◆▼368ページ◆▼ 昭和7(1932)年12月19日(月)

天気晴

鈴木上田ノ判取ル爲メ上京サセル

辻本氏午後二時前來場 鈴木IDノ尾翼 御国VFノ主翼、グライダー内部検査全部終了

◆▼369ページ◆▼ 昭和7(1932)年12月20日(火)

天気晴

非常ニアタ、カイヨリアツイ位ノ日デアッタ

長ニヨリ上京 局ニ行キ試験ノ結果ヲ聞ク 津田沼ノ五名ノ全部合格 上田巢鴨署ニ這入ツテ居ルノデ判ヲ取レナカッタコトヲ荒井倉三郎氏ニ話ス。スグ巢鴨ノ司法主任ニ電話ヲカケテ局ノ立場ヲ話シテ呉レタラ明日書類ヲ持ツテ來タラ押サセルトノコトニヒロイモノヲスル。協会ニ行キ高橋英次ノ貳百円受取り三時ヨリ茶話会ニ出席 後チ四

王天氏ニ奈良原氏ト共ニ三觜ノ件奨励金前借りノ件ヲ依頼ス
児玉浅井奈良原氏ト夕食ヲ共ニス

▲▼370ページ▲▼ 昭和7(1932)年12月21日(水)

天気 晴北西風寒シ

鈴木ヲ又上田ノ判取ル爲メ上京サセル。ツイデニ日飛行ノ警視廳ノ手續キヲヤラセ
ル

クラブノ決算報告ヲ作り夕方印刷屋ガ來タノデ持タセテヤル

昨日ノ二百円今日八十円ヲアマスノミトナル

佐々木泰助來 一五式千五百円ニ負ケテ呉レトノコト 弐千円ノ方千八百円迄ニスル
一兩日中ニ返事スル由

川辺宅へ千葉ノ中島ヨリ廿二日中ニ八十余円支拂ワネバ差押ヘスルトノコトニ呉ト鈴木
ガ心配シテ來タノデ安心サセ尚辨ゴ士ノ方へハ川辺不在ノ向キ手紙ヲ出サセ、夕方鶴
飼へ打電シテ川辺ノ計ヲ聞ク

▲▼371ページ▲▼ 昭和7(1932)年12月22日(木)

天気 晴

板倉君ノ満州航空会社ノ葬式ガ飛行館デアルノデ上京ス 午前十時半ヨリ初マル 終
テ交信社ニヨリ山崎氏ニ會ヒ五百円ヲ來年迄延期ヲ依頼ス 心ヨリ承認シテ呉レタ。
帰途船橋ニヨリ六〇六ト蒼鉛ヲヤル

和子午前長サンニ來タ由 ゼンソクトノコトデアッタ

川辺君へ送金方依頼スベク鶴岡氏へ電話カケタガ不在トノコトニ帰りニ奈良原サンニヨリ
鶴岡氏へ交渉方依頼ス。協会ニ觜へ三百円貸シテ呉レルコトニ決定ス

▲▼372ページ▲▼ 昭和7(1932)年12月23日(金)

天気 晴

三觜ヲ協会ヘヤル。川辺君へ送金ノ爲メ奈良原氏鶴岡氏へ行ツタコトヲ打電ス。引違イ
ニ送金見込ミナイカトノ入電アリ

▲▼373ページ▲▼ 昭和7(1932)年12月24日(土)

天気 晴

上原中将母堂ノ葬儀午後二時ヨリトノコト二十時過ぎ出懸ケ局ニヨル 明後日ノ検査

汐時ノ打合せノ爲メ 玉宮氏他皆不在 江口氏ニタノンデ居ク。課長へ川辺君ノ件聞ク 何事モナカツタトノコト 話ス中ニ練習費問題ガ出タガ、課長トシテハ現今ノ學校トシテ飛行機ガ壞レタリシテ休ムコトハ往々有リ勝ノ事ダト云ツテ居イタトノコト 先ツヨカツタ。課モ大分話セルワイ

スグ上原氏邸ニ行キ帰途清平ノ下宿ニ一寸ヨツタガ外出シテ居ラズ。スグズツト帰宅ス今夜川辺君帰宅スルトノ入電アリタル由
会報稿(ママ)正ヲ終ル

▲▼374ページ▲▼ 昭和7(1932)年12月25日(日)

天気 晴

朝川辺君ニ會フ 奈良原氏ト鶴岡へ行クトテ出懸ケル。朝軽飛行機ノ材料調べヲナシ晝頃ヨリ出カケル 汽車ニ乗リオケレルシ電車間ガ悪シ 今日ハダメカト思ツテ行ツタラ案ノ状(ママ)田辺氏ダケ來 明日ニシテ呉レ 尚一月五日ノ分モ延期シテ呉レトノコトデアツタ由 馬鹿ヲ見タ。ソコデコチラ側トシテノ分配ヤ謝礼ヲ児玉氏ニ相談 意見ヲ述ベル ソレハ利益配當ハ奈良原、児玉、浅井各五分ヅ、四割ヲ工場へ。尚第一回出會ニ対シ一割ヲ奈良原浅井氏ニ提供スルコト アトハソレデ打切ルコトノ條件ヲ出シタガ奈良原氏ノ意見デ、ソレハ正式ニ組合カラ式百円出サセルトノコトデソレニ決ス。ガ六ヶ敷カロウ

▲▼375ページ▲▼ 昭和7(1932)年12月26日(月)

天気 曇リ

今朝仕事終ヒニツキ注意ヲ與ヘル

玉宮松浦両氏十一時頃來 御国、鈴木アプロ式機完成検査飛行セシメ二田浜着陸トシテ検査官食後船橋へ自動車へ送ル。鈴木ヨツケテヤリ自分一時二十七分發ニテ上京式時三十五分飛行館着 協会ノ方ノ理事会ハ終テ居タ

クラブニ行ク。吉村氏居リ花環ノ礼ヲノベ女給ノ歳末心付ケ奈良原、児玉自分三人分ヲ納メル

菅谷外二名來テ居タ。オソクナツタ挨拶ヲスル處ガ一万円出資ヲ三千円ニシテ呉レ尚出ス方法ハ今カラ毎月五百円ヅ、月末渡ス事 ソレデ奈良原児玉氏ガ極メタトノコトデ何ント云ヒ様モナク結構デスト答へシカモ今日ハ百五十円ダケ アト三百五十円ハ明日ニシテ呉レトノコト 馬鹿シカツタ。協会事務所借ル件ハ奈良原氏聞キニ行ク ダメデアツタ 當然ダロウ。片岡又三郎ニ會フ。ヘンナ色紙ヲ五円デ賣リツケラレル 後チ附近ニテ奈良原児玉浅井氏ト夕食ヲ共ニシ浅井氏ノ報酬五十円打切ルコトトシテ奈良原氏ノ手ヲ経テ五十円渡ス 児玉氏へ十円小遣ヒニ

▲▼376ページ▲▼ 昭和7(1932)年12月27日(火)

天気 曇り小雨

午前中船橋へ行き午後千葉へ車輪ヲ見ニ行ク 買ヒ取り 国吉ニ寄ニ二十円ダケ内入シテ帰ル

七時頃奈良原氏來場 今夕三百五十円受取ツタ由 内浅井氏ガ昨日兒玉氏ニ二十円渡シタトノコトニ二十円浅井へヤリ奈良原氏七十円ホシイトノコト 丁度百五十円取ラレタコト シカモ浅井カラ兒玉氏ニ渡シタコトハ何ンダカ、イヤナ氣ガシタ
鈴木ヲ局伊藤ヲへヤル

▲▼377ページ▲▼ 昭和7(1932)年12月28日(水)

天気 曇り

伊藤氏アブロ取りニ來 三田浜ニテ引渡シ 安岡同乗シテ立川迄空輸ス。帰途現金百五十円來月十五日百円二枚ノ小切手ヲ貰フコトトス

本日早ク作業(掃除)終了ス

鈴木菊最低五百円ト云ツテ居イタノニ夕方四百円ダケ持参ス

今日計算間ニ合ワズ支拂ヒ明日トス

▲▼378ページ▲▼ 昭和7(1932)年12月29日(木)

天気 小雨

朝安岡伊藤氏ノ小切手持参 明日付ケノモノ百円ヨリ呉レズ アト十五日百円 廿日百五十円二枚 又予算ガクルウ。佐藤來 百円ノ十五日付小切手ニテ渡ス 総計算ノ結果給料全部デ千三百七十円アリ ソレヲツメテ千二百円位ニシテ支拂ヒヲ終了ス アト二十銭ノ金モ残ラズ。鈴木ニ水ト伊藤氏ノ小切手ヲ金ニスル爲メ上京サセル。自分種々考慮シテ明日山本氏ノ奨励金ニテ三百円鶴岡氏ヨリ借り入レル事トシ奈良原氏ヲ訪問スル予定

▲▼379ページ▲▼ 昭和7(1932)年12月30日(金)

天気 雨

シト、ト氷雨降ル中ヲ出懸ケル、ワビシイ氣持チ。暮レダト云フノニ鷺沼ヲヌケル迄ニ、タゞ一人シカ會ワナカッタ

奈良原氏訪問 丁度川辺君帰ツテ來タ處デ今カラ鶴岡氏ヲ訪問スルトノコトニ同道ス

東京駅デ川辺君ノ郵便ヲ出ス爲メ同駅ニヨリ地下室ニテコーヒーヲノミ、円タクニテ行く。川辺君ノ方ハ残金貳百四十一円ヲ貰ヒ無事終リ自分ノ方ノ事ハツヒニ聞イテ呉レナカッタ。晝食ヲ出シテ呉レタガ今朝カラ腹ノ工合悪ルク喰エズ。出テカラ奈良原川辺両氏ニ分レ飛行館ニ吉村氏ヲ訪ネガ帰ッタアト。グライダーノ鈴木君ニ會フ。吉村氏ナラ必ズ出來ルトノコトニ四時半頃同道シテ市ヶ谷迄行ッタガゴ、デ分レテ一人デ行く。時間ヲハカリ六時頃會ッタガ、ツヒニ出來ズ。飯沼ニ行キ伊藤氏ノ小切手ダケ飯沼ノ小切手ニ書替テ貰ヒ、大倉ニ行キ泊ル。十一時少シシテ大倉帰ッテ來タ

◆◆380ページ◆◆昭和7(1932)年12月31日(土)

天気晴

上天気ニナッテ昨日ノマ、ヨゴレタ、ゴム長デハキマリ悪ルカッタ。寝ナガラ考ヘタ通り早ク出カケ平松氏ヲ訪問。金策ヲ依頼シテ新宿ノ安田銀行ニ行キ現金ニシテ、山本氏ヘ歳暮ヲ求メ、駅前デアマリ腹ガヘッタノデ。パント牛乳ヲノミ山本氏訪問。一時間程話シテ平松ニ行ク。ダメ。児玉サンニヨルトオソクナルノデ工場ノ方モ氣ニ懸リ第百へ十五円ダケ支拂ヒシテ電話ヲ借り岡田、グライダー社、ヘコトワリヲナシ水戸部氏ニ電話スル七十円ダケ昨日置イテ來タ由。二時帰宅後昨日二百円クラブニ入金アッタトノコトデ幾分役立つタノデ佐野ノ手形ダケ入レル。アト近所ノ支拂ヒハ全部來年廻シテシテコトワル。夕方長サンニ行クガ不在。オカザリヲ買ッテ帰ル。自動車ニテ清平ニ會フ

◆◆381ページ◆◆補遺

今年度初メノ計畫ハ丁度一ケ年ヲ通シテ終ッタ。今日ニナッテ見ルト準備行為ダケニトゞマリ一ツモ実現シ得ナカッタコトハ遺憾(ママ)デアッタガ準備ハ大体トノツタ。春ハ大ニ延ビ得ルデアロウ。然シ相當苦心ヲ要スベク覺後(ママ)ガ必要ナリ

▲▼405ページ▲▼ 手控

家族誕生日

名前	誕生日	摘要
主人 音次郎	二十四年六月三日	卯四十二才
妻 キチ	三十年三月十日	
長男 信太郎	大正五年十二月九日	辰十七才
次男 徳治	九年八月四日	申十三才
長女 恵美子	十一年十月廿五日	子十一才
三男 仁三郎	十三年八月廿五日	子九才

▲▼表紙3▲▼

世田ヶ谷町下北澤九六〇宗像方